

平成20年度

知識情報・図書館学類
開設授業科目シラバス

筑波大学情報学群
知識情報・図書館学類

知識情報・図書館学類時間割（平成 20 年度）

1 年次

	月			火			水			木			金		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
1	総合科目 A*			基礎数学 A*	情報システム概説	情報社会と法制度*	情報基礎*	情報数学*	統計-1*	実習* 12 クラス 実I (教育心理 34 クラス)			実習* 34 クラス 実I (教育心理 12 クラス)		
2				205	205	205	205	205	205						
3	第 2 外国語*			知識情報概論*	哲学*	基礎数学 B*	総合 B*		情報リテラシ実習*		第 2 外国語*		体育*		
4	第 1 外国語*						201-204	201-204/205				第 1 外国語*			
5												第 1 外国語*			
6	(教職論 12 クラス)		キャリアデザイン I							(教職論 34 クラス)					

実習＝情報基礎実習⁺＋プログラミング演習 I⁺＋プログラミング演習 II⁺

教職科目は次のとおり履修してください：

1・2 クラス→教職論 月 6 限(9803 121), 教育心理学 木 2 限(9103 011) ; 3・4 クラス→教職論 木 6 限(9803 111), 教育心理学 金 2 限(9104 011 または 9104 021)

日本国憲法 集中, 介護等体験の意義 集中

2 年次

	月			火			水			木			金		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
1	総合科目 A*			演習* (12 クラス) 実I			演習* (34 クラス) 実I						情報探索論 [†]	質的調査法	情報行動論
2							(教育基礎学 34 クラス)			(道徳・特別活動 12 クラス)			体育*		
3	データベース概説 205・実I	コンピュータシステムとネットワーク 205	多変量解析 205	統計-2 201	メディア社会学 [‡] 講堂	知的財産概論 講堂	専門英語 I-2* (34 クラス) 101			経営・組織論 [†] 205	公共経済学 205	生涯学習と図書館 [†] 105,106	テキスト解釈-1,-2 (教育基礎学/道徳・特別活動)		
4							専門英語 I-1* (12 クラス) 101						専門英語 II-1* (12 クラス) 101		
5	知識発見基礎 205							学問と社会		知識資源組織化論 [†] 205	量的調査法 205	自然言語解析基礎 205	専門英語 II-2* (34 クラス) 101		
6								205, 講堂					テキスト解釈-3 206		

演習＝知識情報演習 I[†]＋知識情報演習 II[†]＋知識情報演習 III[†]

教職科目は次のとおり履修してください：

12 クラス→道徳・特別活動 水 2 限(9302 001, 9702 011), 教育基礎学 金 3 限(9201 011) ; 34 クラス→道徳・特別活動 金 3 限(9305 001, 9705 001), 教育基礎学 火 1 限(9206 011)
社会科免許志望者は「欧米の歴史と文化」3 学期水 12 限を必ず履修すること。社会科志望の 34 クラスの学生は 12 クラスのパターンで時間割を組むこと。ただし、「特別活動」は水 2 限に代えて木 3 限 (9704 001) または金 2 限 (9706 011/9706 021) を履修 (共に 3 学期)。

3・4年次（下線の科目は平成20年度から開講，2年次の受講を認める．その他の科目は平成21年度から開講予定）

	月			火			水			木			金		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
1	学校経営と 学校図書館 205	学習指導と 学校図書館 205	学校図書館 メディアの 構成 205	知識構造 化法 101・実II	計量情報学 101・実II	データマイ ニング 101・実II	学術 メディア論 [†] 104	システム思 考とモデリ ング 104	コミュニテ ィ情報論 104・実II	知識論 103	知識形成論 103	レファレン スサイエン ス 103	情報検索シ ステム [‡] 101	Web プログ ラミング [‡] 101・実II	マルチメデ ィアシステ ム [‡] 101
2				情報サービ ス構成論 [†] 104	コレクショ ンとアクセ ス [†] 104	テキスト 処理 201・実II	データ構造 とアルゴリ ズム [‡] 201	情報法 [‡] 201	知的財産権 論 201	図書館情報 法制度論 201	教育文化政 策 102	メディア教 育と発達 [†] 102	学校教育と 情報利用 102		
3	サイエンスコ ミュニケーシ ョン 101	医療情報論 101・実II	特許情報論 101・実II	データ表現 と処理 101・実I	データバー ス技術 101・実I	情報デザイ ンとインタ フェース 101・実I	集中： 読書と豊かな人間性 205 情報メディアの活用 205	デジタル ライブラリ 101	デジタル ドキュメン ト 101	情報サービ スシステム 101・実I	知識資源の 分析 201	知識資源の 記述 201	知識…の用 語管理 201	出版文化・ 書誌論 105	古文書論 105
4	図書館文化 史論 102	中国図書学 102	日本図書学 102	ソフトコンピュ ーティング 102	図書館論 [†] 201	学術情報基 盤論 201									
5	知識情報システム実習 [*]			情報経営・図書館実習 [*]			経営情報システム論 未定 未定：マークアップ言語	情報サービ ス経営論 [†] 102	情報経済論 102	パブリック ガバナンス 論 102	知識科学実習 [*]				
6								ヒューマンイ ンターフェイ ス 3A402	グリッドコンピ ューティング 101・実I	ソフトウェア 構成法 101・実I					

3・4年次時間割（クラス表示）

	月			火			水			木			金		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
1	司書教諭科目（共通）			知識発見（知識）			知識行動（知識）			知識共有（知識）			知識情報システムの		
2				知識情報サービスの 構成（経営）			知識情報システムの 原理（シス）			知識情報の規範（経営）			知識情報の社会化 （経営）		
3	専門情報（知識）			知識発見（知識）						知識情報システムの 実際（シス）			知識情報の組織化(シス)		
4	図書館と書物の文化 （経営）			知識情報システムの 設計（シス）						知識情報環境の構築 （経営）			メディア社会と情報文 化（経営）		
5	主専攻実習 （シス）			主専攻実習 （経営）						知識情報サービスの 経営（経営）			主専攻実習 （知識）		
6										その他（シス）					

教職関連時間割（教科指導法・他学類開設の教科に関する科目）

	月			火			水			木			金		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
1				人文地理学			教科指導法（社会）			教科指導法（数学）					
2				地誌学			①						東洋の 歴史と 文化		
3															
4							①情報数学 III ②史学概論 I			②			CG 基 礎		
5							集中：情報と職業			教科指導法 （情報）					
6															

凡例：科目名の*は卒業要件上の必修科目，[†]は司書科目，[‡]は教員免許の教科に関する必修科目

平成20年度学年暦カレンダー

(学群関係)

第1学期								第2学期								第3学期												
曜日	日	月	火	水	木	金	土	備考	曜日	日	月	火	水	木	金	土	備考	曜日	日	月	火	水	木	金	土	備考		
4月			1	2	3	4	5	春季休業 4.1~4.7	8月						1	2	第2学期入学式 8.8	12月		1	2	3	4	5	6	第3学期授業開始 12.1		
	6	7	8	9	10	11	12	入学式 4.8		3	4	5	6	7	8	9	第2学期入学式 8.8		7	8	9	10	11	12	13			
	13	14	15	16	17	18	19	新入生オリエンテーション		10	11	12	13	14	15	16	17		教職員一斉休業 8.14~15	14	15	16	17	18	19	20		
	20	21	22	23	24	25	26	4.9, 10		17	18	19	20	21	22	23	24		25		21	22	23	24	25	26	27	※25日は火曜日の授業を実施
	27	28	29	30				第1学期授業開始 4.11		24	25	26	27	28	29	30	31				28	29	30	31				
5月					1	2	3	※9日は火曜日の授業を実施	9月		1	2	3	4	5	6	第2学期授業開始 9.1	1月						1	2	3	冬季休業 12.27~1.6	
	4	5	6	7	8	9	10	※9日は火曜日の授業を実施		7	8	9	10	11	12	13			4	5	6	7	8	9	10			
	11	12	13	14	15	16	17	春季スポーツデー 5.17~5.18		14	15	16	17	18	19	20	21			11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24			21	22	23	24	25	26	27	28		29		18	19	20	21	22	23	24	※23日は月曜日の授業を実施
	25	26	27	28	29	30	31			28	29	30									25	26	27	28	29	30	31	
6月	1	2	3	4	5	6	7		10月				1	2	3	4	※15日は月曜日の授業を実施	2月	1	2	3	4	5	6	7			
	8	9	10	11	12	13	14			5	6	7	8	9	10	11	開学記念日 10.1		8	9	10	11	12	13	14			
	15	16	17	18	19	20	21	第1学期授業終了 6.24		12	13	14	15	16	17	18	学園祭 10.11~10.13		15	16	17	18	19	20	21	英語・ドイツ語検定試験 2.24		
	22	23	24	25	26	27	28			19	20	21	22	23	24	25	筑波キャンパス電気設備点検 (全学停電) 10.18~10.19		22	23	24	25	26	27	28	第3学期授業終了 2.27		
	29	30						第1学期期末試験 6.25~7.1		26	27	28	29	30	31		秋季スポーツデー10.25~10.26											
7月				1	2	3	4	5	夏季休業 7.2~8.31	11月						1			3月	1	2	3	4	5	6	7	第3学期期末試験 3.2~3.6	
	6	7	8	9	10	11	12		2		3	4	5	6	7	8	※6日は月曜日の授業を実施	8		9	10	11	12	13	14	春季休業 3.7~3.31		
	13	14	15	16	17	18	19		9		10	11	12	13	14	15	第2学期授業終了 11.18	15		16	17	18	19	20	21			
	20	21	22	23	24	25	26	第1学期末卒業式 7.25	16		17	18	19	20	21	22	第2学期期末試験 11.19~11.25	22		23	24	25	26	27	28	卒業式 3.25		
	27	28	29	30	31				23		24	25	26	27	28	29	ただし11月24日の休日に当たる期末試験は11月17日に繰り上げて行う。	29		30	31							
午前	午後	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	午前：1~3時限 午後：4~6時限	午前	午後	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑪		午前	午後	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩				

- (注) 1. 太字は、国民の祝日に関する法律による休日(振替え休日含む)を示す。(ただし、春分の日は予定である。)
2. 入学式、新入生オリエンテーション及び卒業式は|||||||で示す。
3. 期末試験日は■■■■で示す。
4. 休業日は■で示す。
5. 英語・ドイツ語検定試験日は■■■■で示し、午前(3時限まで)の学群の授業は臨時休業とする。
6. 1月16日(金)及び1月19日(月)の授業はセンター入試の関係で全日臨時休業、2月24日(火)は前期試験の設営のため、午後(4時限以降)の授業は臨時休業とする予定であり、試験日程決定後、改めて周知することとする。
7. △印は、大学行事(学園祭)による臨時休業日。[10月10日(金)3時限以降、10月14日(火)1、2時限]
8. 教職員一斉休業期間中は、附属病院を除き、原則、日曜日などの休日と同じ業務体制とする。

総合目次

開設授業科目一覧	ii
----------------	----

科目シラバス

1年次科目	1
2年次科目	15
自由科目	47

解説

履修のてびき	55
科目選択ガイド	64
単位認定ガイド	70
教職ガイド	72
図書館情報専門学群開設科目履修についての注意	74

資料

国立大学法人筑波大学情報学群履修細則	77
教科に関する科目	83
大学において修得すべき図書館に関する科目	86
大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目	86
大学が単位を与える学修一覧	87

索引

教員一覧（教員名索引）	89
科目名索引	91

開設授業科目一覽

クラス名 科目番号	科目名	学年	学期	曜日	教室	単位		担当者	内容	備考	ページ
						必	自				
学群共通科目											
GA1 0101	情報社会と法制度	1	3	火 1・2	春日講 堂		2	新保 史生	情報化社会における法制度や情報モラル向上に必要な基礎知識を習得することを旨とする。現行の我が国の法制度の基礎を学び、ネットワーク社会における法整備の現状について講義する。	図情(P12 0101)と 共通	11
GA1 0201	知的財産概論	2	3	火 3・4	春日講 堂		2	村井 麻衣子	知的財産に関する法制度を主要な概念や法理に基づいて学ぶ。著作権法、特許法を中心に、不正競争防止法、商標法など、知的財産法についての基礎的な知識を身につけ、知的財産法の法的特色を踏まえた上で、情報化社会における望ましい制度のあり方について考察し、情報の保護と利用についてのバランス感覚や、問題解決能力を身につけることを目的とする。	図情(P21 1511)と 共通	20
知能情報学への導入											
GE1 0101	知能情報概論	1	1	火 3・4	7A205		2	石井 啓彦	総合科学としての図書館情報学の全体像を概説し、知能情報学への発展における基礎的な視点について論じる。	図情(P21 0601)と 共通	1
GE1 0201	哲学	1	2	火 3・4	7A205		2	横山 幹子	古代ギリシアに源を発する西洋哲学の歴史を概観し、西洋哲学史に関する基礎的な知識を習得することを旨とする。また、論理学の基本的な考え方に触れる。そして、それらを学ぶことを通じて、「考えること」の意味と重要性について考える契機を与える。	図情(P11 0301)と 共通	2
GE2 0101	情報システム概説	1	2	火 1・2	7A205 春日実 習室1		2	中井 央	現代は、さまざまな情報がコンピュータを利用して処理されている。この講義では、具体的なシステムの例をとりあげ、システムの視点から情報の取り扱いを概説する。具体的な内容は、コンピュータシステムの構成、プログラムの動作の仕組み、情報システムの構成、情報システムにおける情報の表現などについての講義と実習を行う。	図情(P21 2401)と 共通	12
情報リテラシ											
GE1 0301	情報基礎	1	1	水 1・2	7A205		2	鈴木 伸崇	情報やデータの表現、メール、Web、インターネット接続などの仕組み、それらを実現するために必要なコンピュータとネットワークに関連した諸要素の原理を概説する。		3
GE1 0413	情報基礎実習-1	1	1	木 1・2	春日実 習室 I		1	逸村 裕 長谷川 秀彦	実習を通じて知的生産のための基礎技術を修得する。情報検索、情報資源管理、文書作成、画像加工、表計算、プレゼンテーション作成、Web ページ作成など、個人が調べ物をしてレポートを書いたり、発表したりするための技術を学ぶ。	1年1, 2クラス対象 図情(P21 0513)と 共通	4
GE1 0423	情報基礎実習-2	1	1	金 1・2	春日実 習室 I		1	逸村 裕 長谷川 秀彦	"	1年3, 4クラス対象 図情(P21 0523)と 共通	4
1320 102	フレッシュマン・セミナー	1	1	水 3	7A201 7A205		1	佐藤 哲司	大学と社会の関係や大学における生活、学問に対する取り組み方などについて指導を行いつつ、教員と学生間及び学生相互間のコミュニケーションを図る。	知識1クラス対象	5
1320 202	フレッシュマン・セミナー	1	1	水 3	7A202 7A205		1	横山 幹子	"	知識2クラス対象	5
1320 302	フレッシュマン・セミナー	1	1	水 3	7A203 7A205		1	時井 真記	"	知識3クラス対象	5
1320 402	フレッシュマン・セミナー	1	1	水 3	7A204 7A205		1	池内 淳	"	知識4クラス対象	5
GE1 0513	情報リテラシ実習-1	1	2・3	水 3	7A201 7A205		1	佐藤 哲司	レポートライティング、テクニカルライティング、プレゼンテーション、ディベートなど、大学生の3R'sに相当する基本的な知的生産技法を少人数クラスで学ぶ。	1年1クラス対象 図情(P21 0112)と 共通	6
GE1 0523	情報リテラシ実習-2	1	2・3	水 3	7A202 7A205		1	横山 幹子	"	1年2クラス対象	6
GE1 0533	情報リテラシ実習-3	1	2・3	水 3	7A203 7A205		1	時井 真記	"	1年3クラス対象	6
GE1 0543	情報リテラシ実習-4	1	2・3	水 3	7A204 7A205		1	池内 淳	"	1年4クラス対象	6
プログラミング基礎											
GE1 0612	プログラミング演習 I-1	1	2	木 1・2	春日実 習室 I		2	松村 敦 時井 真紀	コンピュータ・プログラミングの基礎を学習する。具体的にはプログラミング言語と幾つかの基本的なアルゴリズム、処理の流れを習得するプログラミング演習を行う。最終的にはプログラムが自力で書けることを目標にする。	1年1, 2クラス対象 図情(P21 1912)と 共通 知識学類生に限る	7
GE1 0622	プログラミング演習 I-2	1	2	金 1・2	春日実 習室 I		2	松村 敦 時井 真紀	"	1年3, 4クラス対象 図情(P21 1922)と 共通 知識学類生に限る	7
GE1 0712	プログラミング演習 II-1	1	3	木 1・2	春日実 習室 I		2	真栄城 哲也 阪口 哲男	プログラミングの基礎知識を前提として、マルチメディアデータを使った実践的なプログラミング技術を身につける。ファイル入出力、テキストデータやマルチメディア表現とその処理など実データを扱うプログラムを作成する。最終的に問題解決手段としてのプログラミングが行えることを目標にする。	1年1, 2クラス対象 図情(P21 2012)と 共通 知識学類生に限る	8
GE1 0722	プログラミング演習 II-2	1	3	金 1・2	春日実 習室 I		2	真栄城 哲也 阪口 哲男	"	1年3, 4クラス対象 図情(P21 2022)と 共通 知識学類生に限る	8
数学											
GE1 0801	情報数学	1	2	水 1・2	7A205		2	鎮目 浩輔	ベクトルと行列、集合と論理を講義する。内容は、ベクトルと行列の和差積、単位行列、逆行列、集合と写像、真理値、命題論理、述語論理、論理演算、ブール代数などである。		9
GE2 0201	基礎数学A	1	1	火 1・2	7A205		2	松本 紳	解析学の初歩を講義する。内容は、関数、関数の特徴、数の体系、無限と連続、極限、1変数関数の微積分などである。	図情(P21 2701)と 共通	13
GE2 0301	基礎数学B	1	3	火 3・4	7A205		2	森継 修一	線形代数の初歩を講義する。内容は、連立一次方程式、階数(ランク)、行列式、一次変換、固有値と固有ベクトルなどである。	図情(P21 2601)と 共通	14
統計とその応用											
GE1 0911	統計-1	1	3	水 1・2	7A205		2	長谷川 秀彦	数理統計学の基礎を講義する。内容は、統計の意味、確率、二項分布、正規分布、統計的仮説検定、推定の考え方などである。		10
GE1 0921	統計-2	1	1	火 3・4	7A201		2	長谷川 秀彦	"	図情(P21 2801)と 共通 2年次以上対象	10
GE2 0401	量的調査法	2	2	木 5・6	7A205		2	歳森 敦	質問紙調査の企画、標本抽出の方法、調査票の設計、調査の実施、作表とグラフ化、クロス集計と仮説検定など、調査に必要な知識を講義する。		21
GE2 0501	多変量解析	2	3	月 3・4	7A205		2	田村 肇	データ解析の基礎として、重回帰分析や主成分分析、因子分析など基礎的な多変量解析手法を演習付きで講義する。		22
知能情報演習											
GE1 1012	知能情報演習I-1	2	1	火 1・2	春日実 習室 I		2	谷口 祥一 宇陀 則彦	メタデータの記述と検索システムの構築に関する演習を行う。	2年1, 2クラス対象 図情(P41 0612)と 共通	15
GE1 1022	知能情報演習I-2	2	1	水 1・2	春日実 習室 I		2	原 淳之 阪口 哲男	"	2年3, 4クラス対象 図情(P41 0622)と 共通	15

クラス名 科目番号	科目名	学 年	学 期	曜 日	教 室	単 位			担 当 者	内 容	備 考	ペ ージ
						必 須	選 択	自 由				
GE1 1112	知識情報演習II-1	2	2	火 1・2	春日実 習室 I 7A102	2			原 淳之 逸村 裕 藤井 敦	情報や文献の探索に関する実践的演習を行うとともに、パスファ インダーやサブジェクトゲートウェイなどを作成して探索方法を人に 伝える方法についても学ぶ。	2年1, 2クラス対象	16
GE1 1122	知識情報演習II-2	2	2	水 1・2	春日実 習室 I 7A103	2			原 淳之 大庭 一 郎 辻 慶太	〃	2年3, 4クラス対象	16
GE1 1212	知識情報演習III-1	2	3	火 1・2	春日実 習室 I	2			緑川 信之 藤井 敦	学生自身で課題を設定して、情報検索システムの構築に関する 演習を行う。	2年1, 2クラス対象	17
GE1 1222	知識情報演習III-2	2	3	水 1・2	春日実 習室 I	2			吉田 右子 辻 慶太	〃	2年3, 4クラス対象	17
概学												
GE1 1312	専門英語I-1	2	1~ 3	水4	7A101	1.5			田中 裕司★	大学での学習に必要な英語の能力を作文力を中心に発展させ る。	2年1, 2クラス対象 図情(P21 0222, P 21 0322)と共通	18
GE1 1322	専門英語I-2	2	1~ 3	水3	7A101	1.5			田中 裕司★	〃	2年3, 4クラス対象 図情(P21 0242, P 21 0342)と共通	18
GE1 1412	専門英語II-1	2	1~ 3	金4	7A101	1.5			一戸 克夫★	大学での学習に必要な英語の能力を読解力を中心に発展させ る。	2年1, 2クラス対象 図情(P21 0252, P 21 0352)と共通	19
GE1 1422	専門英語II-2	2	1~ 3	金5	7A101	1.5			一戸 克夫★	〃	2年3, 4クラス対象 図情(P21 0262, P 21 0362)と共通	19
知識と人間												
GE2 0601	情報探索論	2	1	金 1・2	7A205		2		岩澤 まり子	情報探索のための情報の蓄積・更新、情報探索の基本的な方 法・理論および情報探索のプロセスについて、利用者の探索行動 の特性および情報要求と関連づけながら学ぶ。	図情(P21 1201)と 共通	23
GE2 0701	質的調査法	2	2	金 1・2	7A205		2		武者小路澄 子	人文学、社会科学における調査手法としての質的調査法の基本 的考え方とフィールド研究の方法を学ぶ。具体的には、インタビュー 調査、参与観察、エスノグラフィ等について学ぶ。	図情(P42 3801)と 共通	24
GE2 0801	情報行動論	2	3	金 1・2	7A205		2		松林 麻実子	情報の獲得と発信に関連する認知的、行動的、社会的諸要素の 理解と、情報獲得のための行動様式等について学ぶ。	図情(P41 0901)と 共通	25
GE2 0901	知識発見基礎論	2	1	月 5・6	7A205		2		中山 伸一	ヒューリスティクスを利用して知識や問題を発見する技法である 創造性開発技法を実践的に学ぶ。		26
知識とシステム												
GE2 1001	知識資源組織化論	2	1	木 5・6	7A205		2		緑川 信之 谷口 祥一	知識資源の効果的かつ効率的な利用を目的として行われる、情 報の分析、記述に基づく知識資源の組織化に関する基本的な考え 方を学ぶ。	図情(P21 1101)と 共通	27
GE2 1101	データベース概説	2	1	月 3・4	7A205 春日実 習室I		2		宇陀 則彦	本講義では、データベースの基礎概念を学ぶことで、知識資源シ ステムの基礎となるデータベース技術を総合的に理解する。具体的 には、データベースの定義と種類、データモデリングの考え方、リ レーショナルモデルの基礎、データベース管理システム(DBMS)の 基本機能、データベース設計と管理などを、講義と演習を通じて学 ぶ。	図情(P21 2201)と 共通	28
GE2 1201	コンピュータシステムと ネットワーク	2	2	月 3・4	7A205		2		阪口 哲男	コンピュータシステムとネットワークについての基本構成と動作原 理について学ぶ。コンピュータシステムのハードウェア構成要素の 概要を示し、それと関連付けながらソフトウェアの構成について解 説する。ネットワークについてはインターネットを事例とし、コン ピュータシステム間のデータ送受の基本的な手順とそのための通 信規約の役割について概説する。総括として、コンピュータシステム とネットワークを組み合わせた活用事例を紹介する。	図情(P51 0201)と 共通	29
GE2 1301	自然言語解析基礎	2	3	木 5・6	7A205		2		藤井 敦	人間の日常言語に対する計算機処理は「自然言語処理」と呼ば れ、自然言語テキストの内容を解析する「自然言語解析」と内容を 的確に伝える自然言語テキストを合成する「自然言語生成」があ り、前者は、機械翻訳、情報検索における文書の索引付け、音声認 識、ワープロ仮名漢字変換などで一定の成果をあげている。本講 義では、自然言語解析の基礎理論について、具体的には、自然言 語処理の概要、言語モデル、統計的言語処理などについて講義す る。	図情(P21 2501)と 共通	30
知識と社会												
GE2 1401	メディア社会学	2	2	火 3・4	春日講 堂		2		後藤 嘉宏	メディア研究の基礎としての社会学を学ぶ。図書館、マス・メ ディア、ネット等のメディアを文系的に研究する際、その多くは行為者 としての人に着目し、アンケートや質的調査等の社会調査を行う。こ の社会調査の方法は社会学の中で育まれてきた。哲学の一分野と して出発した社会学が、社会調査等で日常生活の具体像に向き合 うのはなぜか、その問題意識や方法を考察する。具体的には、ま ず、理念型、価値自由、行為の意味理解などウェーバー社会学の 方法を学ぶ。次に性別、年齢、職業、地位等、社会的属性ごとに 人々の意識や行動を捉える社会調査の方法が、どのように人々の 意味世界に迫りうるのかを論じる。メディアの問題等を実例に交え ながら、社会学の入門的知識を学び、そのことを通じて今後受講生 がメディア化した現代社会を理解する手がかりを得たい。	図情(P12 0701)、 創成(GC2 0101)と 共通	31
GE2 1501	経営・組織論	2	1	木 3・4	7A205		2		大庭 一郎	図書館の経営や情報システムの構築のための、経営概念、経営 管理、意思決定、組織、人間行動等についての基礎を学ぶ。	図情(P21 1001)と 共通	32
GE2 1601	公共経済学	2	2	木 3・4	7A205		2		池内 淳	経済学の基礎的概念を踏まえて、図書館やインターネットなど、知 識・情報を共有する公共的な仕組みの特性について学習する。ま た、(1)公共図書館における無料の原則、(2)デジタルネットワー ク環境における知的財産権の在り方といった現代的諸問題につ いて、経済学的な観点から検討を加える。	図情(P12 0601)と 共通	33
GE2 1711	生涯学習と図書館-1	2	3	木 3・4	7A105		2		吉田 右子	生涯学習の意義を理解し、学習生活を効果的に援助する方法に ついて学ぶ。	図情(P21 1311)と 共通	34
GE2 1721	生涯学習と図書館-2	2	3	木 3・4	7A106		2		溝上 智恵子	〃	図情(P21 1321)と 共通	34
メディアの理解												
GE2 1812	テキスト解釈-1	2	2・3	金3	7A206		2		黒古 一夫	テキストの解釈を通じて、言語および意味の視点から、メディアの 読解に関する基礎的なトレーニングを行う。		35
GE2 1822	テキスト解釈-2	2	2・3	金3	7A207		2		松本 浩一	〃		36
GE2 1832	テキスト解釈-3	2	2・3	金6	7A206		2		綿抜 豊昭	〃		37
その他												
GE2 1902	学問と社会：知識情報・ 図書館学類の最前線	2	1・2	水 5・6	7A205 春日講 堂		2		緑川 信之 佐藤 哲司 大庭 一郎	学類で学ぶ学問領域が、社会の中でどのような役割を担っている のか、この学問領域を学び、分野に応じた専門知識・技術を身につ けることで、どのような社会貢献ができるようになるのかについて、 講義やキャリアポートフォリオ(TOPF)を活用した演習を行う。	原則として毎月1・2 週に開講。開講日 程は初回に配布	38

クラス名 科目番号	科目名	学年	学期	曜日	教室	単位			担当者	内容	備考	ページ
						必	選	自				
GE3 1013	社会体験実習	1~4	1~3	集中	後日掲 示			1	平久江 祐司 鈴木 佳苗	公共的な場において知識情報・図書館学類の専門領域を体験する。実際には、教員・専門家の指導のもと、実務の一端をこなすことで、専門的知識・技術を深め、実社会における学問領域の意義や位置づけを理解する。		47
GE3 1013	知的探求の世界I-1	2	1~3	集中	未定			1.5	石井 啓豊	情報学の基盤：思考の多様性と展開を学ぶ はじめに情報学に関する特定の著者を捉えてその著作を読み進め、そこで引用される重要な著作や、対比されるべき他の著者や著作等を合わせ読むことを通じて、多様な思考のあり方を理解するとともに、情報学の理解を深める。日本語の著作を中心とすること、読み進む上での多様な展開の可能性を持つことを考慮して、手がかりとなる著者は西垣通を予定している。		48
GE3 1023	知的探求の世界I-2	2	1~3	集中	未定			1.5	鎮目 浩輔	量子計算と量子情報 量子計算と量子情報は物理の基本法則である量子力学が持つ特殊な性質を計算や通信に生かす全く新しい情報処理技術を作り出すとするものである。量子力学と計算理論および通信理論という全く異なる分野の知識が相互作用で新しいものを生み出すという珍しい分野でもある。この分野の代表的な教科書である“Quantum Computation and Quantum Information” (Nielsen and Chuang, Cambridge)の購読を行う。この本は計算理論、情報理論、および量子力学をそれぞれ入門的なレベルから説明し、さらにそれらの融合を具体例を通じて説明している。その購読を行うことで1)専門書を読み、内容を発表する練習 2)量子力学、計算理論の基礎的知識、3)それらが結びついていく過程を学ぶ。		49
GE3 1033	知的探求の世界I-3	2	1~3	集中	未定			1.5	松本 紳	相対性理論の世界と量子力学の世界 現代物理学の基礎をなす、相対性理論と量子力学について最初が啓蒙書のような入門書を勉強し、徐々に専門書のレベルまで何冊かの本を輪講する。この2つの理論は、名前はよく知られているが、内容を詳しく知らない場合が多い。これらの世界では、多くの点で、我々の見聞きする常識とは違った世界が展開されている。今後、ますます重要になるこれらの理論の理解を少しでも体験できればよいと考えている。また、相対性理論はその体系が数学的に美しいといわれているが、より深い数学的な知識や興味を得られればよいと考えている。		50
GE3 1043	知的探求の世界I-4	2	1~3	集中	未定			1.5	藤井 敦	自然言語処理：実践しながら身に付ける研究能力 本講義の目的は2つある。1つは、「自然言語処理」に関する専門知識を身に付けることである。自然言語処理は、「計算機が自然言語(人間の日常言語)を自在に操作できる」ことを志向した研究である。そこで、自然言語のモデルを組立てながら、自然言語の本質を解明する研究が行われている。本講義では、輪読や演習を通して、自然言語のモデルについて学ぶ。これは、機械翻訳、情報検索、ロボットとの対話、音声認識などの研究においても役立つ知識である。 もう1つは、自然言語処理の勉強を通して、「研究リテラシー」を身に付けることである。研究リテラシーとは、調査研究を行うために必要とされる知識や技能であり、学生が卒業研究でつまづく要因である。本講義では、特に「学術文献の読み方(日英)」、「論文の書き方」、「発表と質疑応答の技術」に焦点を当てる。これらは、専門分野を問わず重要であり、一般社会でも必要とされる能力である。		51
GE3 1053	知的探求の世界I-5	2	1~3	集中	未定			1.5	阪口 哲男	ソースコード講読 コンピュータソフトウェアには、「オープンソース」のような呼称の下にソフトウェアのソースプログラムコード(ソースコード)を公開し、有志を募ってその開発や保守作業を行うものが数多くある。それらのソースコードは様々な人によって練り上げられているため、その構成手法や使用されている技術、記法を知ることは自らのプログラミングやソフトウェア開発技術向上に役立つ。 本テーマは、このような観点からソースコードが公開されている様々なソフトウェアを読み解いていくものである。最初は小規模な部品のソフトウェアから始め、徐々に大規模なソフトウェアへと読み進める。また、それらのソフトウェアで使用されているプログラミング言語の習得も同時に進める。		52
GE3 1063	知的探求の世界I-6	2	1~3	火 5・6	7A206			1.5	大庭 一郎	図書館の基礎を考える この授業では、図書館(特に、公共図書館)の基礎を考えるために、(1)日本と諸外国の社会、行政機構、文化に関する文献、(2)図書館を支える幅広い教養(人文、社会、自然)に関する文献、(3)経営学や組織論に関する文献、を読み進めていきたい	隔週で授業を行う。	53
GE3 2013	知的探求の世界II-1	3	1・2	集中	未定			1	石井 啓豊	情報学の基盤：思考の多様性と展開を学ぶ		
GE3 2023	知的探求の世界II-2	3	1・2	集中	未定			1	鎮目 浩輔	量子計算と量子情報		
GE3 2033	知的探求の世界II-3	3	1・2	集中	未定			1	松本 紳	相対性理論の世界と量子力学の世界		
GE3 2043	知的探求の世界II-4	3	1・2	集中	未定			1	藤井 敦	自然言語処理：実践しながら身に付ける研究能力		
GE3 2053	知的探求の世界II-5	3	1・2	集中	未定			1	阪口 哲男	ソースコード講読		
GE3 2063	知的探求の世界II-6	3	1・2	集中	未定			1	大庭 一郎	図書館の基礎を考える		
学類共通専門科目												
司書教諭科目												
* GE4 0101	学校経営と学校図書館	3	1	月 1・2	7A205			2	平久江 祐司	学校図書館の経営についての基本的な事項の理解とその現状について、学校教育全体の視点から学ぶ。	早期卒業志望者用 図情(P42 4101, P 52 0901)と共通	39
* GE4 0201	学習指導と学校図書館	3	2	月 1・2	7A205			2	平久江 祐司	学校図書館と学校図書館メディアを効果的に活用する学習指導計画の立案、指導、評価及び教師や児童・生徒に対する支援のあり方について学ぶ。	早期卒業志望者用 図情(P42 4201, P 52 1001)と共通	40
* GE4 0301	学校図書館メディアの構成	3	3	月 1・2	7A205			2	吉田 右子	学校図書館が提供する情報メディアについて、発生・蓄積・提供・検索・分析及び活用法について学ぶ。	早期卒業志望者用 図情(P42 4301, P 52 1101)と共通	41
GE4 0401	読書と豊かな人間性	3			7A205			2	鈴木 佳苗	児童・生徒の読書の現状や、認知・社会性などへの読書の影響について理解し、発達段階に即した読書教育の理念と方法について学ぶ		
* GE4 0501	情報メディアの活用	3	1	集中	7A205 春日実 習室I			2	大澤 文人	活字メディア、視聴覚メディア、教育用ソフトウェア、ネットワーク上の情報資源等多様な情報メディアの特性を踏まえて、それらを教育現場で活用していく方法について学ぶ。	早期卒業志望者用 図情(P42 4501, P 52 1301)と共通 7/2~5 開講	42

クラス名 科目番号	科目名	学年	学期	曜日	教室	単位			担当者	内容	備考	ページ
						必	選	自				
インターンシップ												
GE4 0603	インターンシップ	3	1~3	集中				2		図書館や企業などの職場における就業経験を通して、知識や情報と職業の関わり、知識や情報に関する職業人としてのあり方を理解する。授業で学習した知識や情報と社会の関係、情報化、情報倫理、情報技術に加え、職業倫理、職業観、勤労観などを、職場での体験から学ぶ。		
専門英語												
GE5 0112	専門英語Ⅲ-1	3	1	金4				1	植松 貞夫	専門科目や卒業研究に必要な英語読解力を専門書の講読等を通じて習得する。		
GE5 0122	専門英語Ⅲ-2	3	1	月4				1	石塚 英弘	〃		
GE5 0132	専門英語Ⅲ-3	3	1	火4				1	溝上 智恵子	〃		
GE5 0212	専門英語Ⅳ-1	3	2	金4				1	植松 貞夫	〃	専門英語Ⅲ-1受講者対象	
GE5 0222	専門英語Ⅳ-2	3	2	月4				1	石塚 英弘	〃	専門英語Ⅲ-2受講者対象	
GE5 0232	専門英語Ⅳ-3	3	2	火4				1	溝上 智恵子	〃	専門英語Ⅲ-3受講者対象	
知識情報特論												
GE5 0301	知識情報特論I	4	1	火5-6	7A205			2		4年次の学生を対象に、統一されたテーマの下、研究・開発の先端的トピックを複数の講師(学類担当教員、他学類担当教員、学外研究者等)が各回交替で論じる。テーマは年度ごとに設定する。		
GE5 0401	知識情報特論II	4	2	火5-6	7A205			2		〃		
GE5 0501	知識情報特論III	4		集中				2		〃		
GE5 0601	知識情報特論IV	4		集中				2		〃		
卒業研究												
GE5 1018	卒業研究	4	1~3					6	全員			
知識科学主専攻専門科目												
主専攻実習												
GE6 0103	知識科学実習	3	1・2	金5-6	7A208			1	全員	知識科学主専攻の専門科目に関連した実習を行う。		
専門情報												
GE6 0201	サイエンスコミュニケーション	3・4	1	月3-4	7A101 春日実			2	三波 千穂美	科学技術の普及と社会での受容にともなう様々な状況を紹介し、科学と社会の相互作用をコミュニケーションの側面から扱う。		
GE6 0301	医療情報論	3・4	2	月3-4	7A101 春日実 習室Ⅰ			2	岩澤 まり子	専門家、市民など多様な立場から、医療情報の発生・蓄積・流通、医療情報の特徴、医療情報の探索と利用、医療情報に関連する倫理等を学ぶ。		
GE6 0401	特許情報論	3・4	3	月3-4	7A101 春日実 習室Ⅰ			2	非常勤★	知的財産権制度と特許制度、特許権の獲得と管理、特許情報の特性、研究と特許、特許情報の流通と探索、技術移転、組織経営における特許の意義、パテントマップ等について学ぶ。		
知識共有												
GE6 0501	知識論	3・4	1	木1-2	7A103			2	横山 幹子	知識の哲学の観点から、「知識」についての問題を取り扱う。知識の哲学における「知識」のとらえ方の歴史を踏まえた上で、「知識」についての現代の多様な考え方の一部を紹介する。		
GE6 0601	知識形成論	3・4	2	木1-2	7A103			2	武者小路澄子	「知識」とはどのように形成されていくのかについて、これをとらえる様々な立場や研究領域ごとの相違を整理しつつ、知識形成の過程やそこに関わる現代的な問題点を概説する。		
GE6 0701	レファレンスサイエンス	3・4	3	木1-2	7A103			2	(未定)	問題解決のための知識・情報獲得を対象に、問題解決、レファレンス、人間-情報メディアの相互作用、コンサルティング等の科学と技術について学ぶ。		
知識行動												
GE6 0801	学術メディア論	3・4	1	水1-2	7A104			2	松林 麻実子	学術コミュニティを対象として、情報の生産・流通・利用に関する学術情報流通モデル、学術情報メディア等を総合的に学ぶ。		
GE6 0901	システム思考とモデリング	3・4	2	水1-2	7A104			2	石井 啓豊	対象世界の認識方法としてのシステム思考を取り上げ、システム概念、システム・モデル、社会のシステムの把握等とともに、社会における問題解決へのシステム論的アプローチについて学ぶ。		
GE6 1001	コミュニティ情報論	3・4	3	水1-2	7A104			2	蔵森 敦	数量的なモデル・分析を通じて共同体における知識・情報の利用とそれにもとづく様々な活動について学ぶ。		
GE6 1101	図書館建築論	3・4						2	植松 貞夫	図書館の構成要素をどのように捉え、組み立てていくかという図書館建築計画の実際を通して、図書館建築が図書館のサービスや利用者の行動に与える影響とそれら行動を踏まえた計画論を学ぶ。		
知識発見												
GE6 1201	知識構造化法	3・4	1	火1-2	7A101 春日実			2	中山 伸一	知識を発見したり抽出したりするための方法として、図表表示法や探索的データ解析、クラスティングなどについて学ぶ。		
GE6 1301	計量情報学	3・4	2	火1-2	7A101 春日実 習室Ⅱ			2	真栄城 哲也	情報の発信と利用に関する諸現象を計量的に調査・分析するための手法、および分析結果の情報サービスへの応用などについて学ぶ。		
GE6 1401	データマイニング	3・4	3	火1-2	7A101 春日実 習室Ⅱ			2	長谷川 秀彦	大量のデータから未知の規則性を探し出すための手法として、相関ルール抽出、帰納学習などのデータマイニングの典型的な考え方と方法について学ぶ。		
GE6 1501	ソフトコンピューティング	3・4	2	火3-4	7A102 春日実			2	鎮目 浩輔	遺伝的アルゴリズム、量子計算、ニューラルネット等の新しい計算パラダイムの概観及び技術的基礎を学ぶ。		
知識情報システム主専攻専門科目												
主専攻実習												
GE7 0103	知識情報システム実習	3	1・2	月5-6				1	全員	知識情報システム主専攻の専門科目に関連した実習を行う。		
知識情報システムの実際												
GE7 0201	デジタルライブラリ	3・4	1	木3-4	7A101			2	宇陀 則彦	文献の電子化の歴史的発展と技術的展開、今日の電子の媒体による多様な情報メディアとそのネットワークによる流通の全体像及び諸活動の情報流通のあり方に対するそれらの影響等について学ぶ。		
GE7 0301	デジタルドキュメント	3・4	2	木3-4	7A101			2	石塚 英弘	デジタルドキュメントはテキストだけでなく、図形、画像、アニメーションを掲載する図形処理と画像処理の機能、映像や音声を組み合わせたマルチメディア表現の機能、Web出版に見られるようにインターネットを介した配布の機能等、従来の紙媒体やCD-ROMのドキュメント(文書)に無い機能を持つ情報メディアである。ここでは、デジタルドキュメントの構成と機能を説明するとともに、これらの機能がどのようにして実現されているかについて、HTML(HyperText Markup Language)、XML(Extensible Markup Language)、PostScript、PDF(Portable Document Format)、SVG(Scalable		

クラス名 科目番号	科目名	学年	学期	曜日	教室	単位			担当者	内容	備考	ページ
						必	選	自				
GE7 0401	情報サービスシステム	3・4	3	木 3・4	7A101 春日実 習室 I		2		松村 敦	高度情報化社会の情報提供サービスの将来像に関して、求められる情報サービスと技術を、オリジナル情報提供者、キャリア、利用者など夫々の立場から学ぶ。		
知識情報システムの実装												
GE7 0501	情報検索システム	3・4	1	金 1・2	7A101		2		藤井 敦	高度情報化社会の現代において、World Wide Web上の検索エンジンを使った情報収集は日常的な活動になっている。必要な情報を効率よく見つけるための「情報検索」の理解は、情報リテラシー教育において重要な役割を演じる。本講義では、文書データベースを対象にした情報検索システムについて講義する。具体的には、情報検索の基本原則、システムの実装方法、システムの評価方法、情報システムの設計と管理、応用事例についての講義と実習を行う。		
GE7 0601	Webプログラミング	3・4	2	金 1・2	7A101 春日実 習室 II		2		阪口 哲男	通信ネットワークの代表であるインターネットでは、World Wide Web(Web)の機構を用いて様々な情報提供や取引、人や組織間のコミュニケーションが行われている。Web上で情報提供やコミュニケーションの機能を実現するには、サーバ側プログラミング技術が欠かせない。サーバ側プログラミング技術について基本原理とその実際、またネットワークに関わるプログラミングで重要なセキュリティ問題などを解説し、事例を紹介する。必要に応じてWebクライアント(ブラウザ)側のプログラミングについても取り上げる。講義内容の理解を深めるため、ネットワークに関する実習も行う。		
GE7 0701	マルチメディアシステム	3・4	3	金 1・2	7A101		2		松本 紳	図書館においても従来の冊子体の文献だけでなく、デジタルドキュメントや、CD、DVDなどのマルチメディアコンテンツを扱うようになってきている。また我々の生活においてもマルチメディア技術は切っても切れないものとなっている。ここでは、マルチメディア工学の基礎、実際のデジタル情報の編集加工、マルチメディア表現などを講義と実習を通じて学ぶ。また、技術的側面だけでなく各種マルチメディアサービスや社会との関連についても学ぶ。具体的には、マルチメディアとは、音声情報(音声合成、音声認識)、画像情報(図形処理と画像処理)、映像情報(各種シミュレーション)、ファイル形式(マルチメディア表現)、インターネット上の情報メディア、マルチメディアサービスなどである。		
知識情報システムの設計												
GE7 0801	データ表現と処理	3・4	1	火 3・4	7A101 春日実 習室 I		2		鈴木 伸崇	電子化の進展やインターネットの普及に伴い、近年大量の文書データが蓄積・流通されるようになった。本講義では主にXMLデータに関するデータ構造の表現や質問処理などについて説明する。まず、XMLと他のデータモデル(関係データベース等)の特徴を比較・概説し、次にDTDやW3C XML Schemaなどのスキーマ言語の基本的概念や表現力について述べる。更に、XMLの質問処理について、XPathやXQueryなどの質問言語を中心に説明する。		
GE7 0901	データベース技術	3・4	2	火 3・4	7A101 春日実 習室 I		2		森嶋 厚行 (兼任)	データベースシステムを実際に構築する際の諸技術と必要知識について、リレーショナルデータベースを主な対象にして、API(Application Program Interface)をとおしたアプリケーションとの連携、スキーマ定義、インデックスの利用と効果などを、演習を交えながら学ぶ。		
GE7 1001	情報デザインとインタフェース	3・4	3	火 3・4	7A101 春日実 習室 I		2		時井 真紀	人間とマシンの間でのコミュニケーションをいかに人間にとってわかりやすくするかについて概説する。たとえば、様々な観測、計算等から得られた数値データは、グラフや画像として可視化することによって、はじめてそのデータの中に潜む情報が直感的に読み取れるようになる。コマンドを用いたインターフェースより、アイコンやメニューを用いたグラフィカルユーザインターフェース(GUI)のほうが人間にとってわかりやすい。人とマシン間の情報の取得と提供をよりスムーズに行うために重要な、グラフィックスを用いてデータを可視化する技術、より直感的な GUI を作成する方法について、講義と実習を通じて学ぶ。		
* GE7	ヒューマンインターフェイス	3・4	1	木 5・6	3A402		2		田中 二郎 三末 和男			
知識情報の組織化												
GE7 1201	知識資源の分析	3・4	1	金 3・4	7A201		2		緑川 信之	知識資源の分類と索引に関し、主題分析法、分析ツール、分析結果の表現に関する理論と技術について学ぶ。		
GE7 1301	知識資源の記述	3・4	2	金 3・4	7A201		2		谷口 祥一	書誌データベース(図書館の目録を含む)における知識資源の記述から、メタデータと呼ばれる記述(特にネットワーク情報資源を対象とするもの)まで広範に取り上げ、その原則や標準化、記述処理支援システム、記述結果である記述データ/メタデータの提供・流通の実態などについて総合的に学ぶ。		
GE7 1401	知識資源の用語管理	3・4	3	金 3・4	7A201		2		辻 慶太	用語の統制方法、シソーラスの構成と利用、テキスト中の用語や索引語の重み付けとその利用等を具体例として、情報検索において用いられる用語の体系化と管理の考え方と手法について学ぶ。		
情報システムの原理												
GE7 1501	グリッドコンピューティング	3・4	2	木 5・6	7A101 春日実 習室 I		2		長谷部 紀元	グリッドコンピューティングは、通信ネットワークで接続された多数のコンピュータを統合的に利用するための技術であり、基礎となっているのは、通信ネットワーク技術、分散オペレーティングシステム、ユーザ管理、セキュリティなどである。ここでは、これらの基本的な技術と各種の応用についての講義と実習を行う。		
GE7 1601	ソフトウェア構成	3・4	3	木 5・6	7A101 春日実		2		中井 央	高品質なソフトウェアを効率的に作成する手法について講義する。デザインパターン。		
* GE7 1701	テキスト処理	3・4	1	水 1・2	7A201 春日実 習室 II		2		佐藤 哲司	テキスト、すなわち、文章を計算機で処理する様々な例に基づき、その有用性、処理アルゴリズムなどを学ぶ。	早期卒業志望者用 図関(P42 6201, P 52 3301)と共通	43
* GE7 1801	データ構造とアルゴリズム	3・4	2	水 1・2	7A201		2		森継 修一	高速な検索の基礎となるファイル構造と探索アルゴリズムについて講義する。	早期卒業志望者用 図関(P51 0301)と 共通	44
* GE7	マークアップ言語						2		永森 光晴 杉本 重雄			
情報経営・図書館主専攻専門科目 主専攻実習												
GE8 0103	情報経営・図書館実習	3	1・2	火 5・6	7A208	1			全員	情報経営・図書館主専攻の専門科目に関連した実習を行う。		
知識情報環境の構築												
GE8 0201	図書館論	3・4	1	木 3・4	7A201		2		葉袋 秀樹	公共図書館を中心に、地域に対する情報サービスの提供について論じる。		
GE8 0301	学術情報基盤論	3・4	2	木 3・4	7A201		2		逸村 裕	大学における教育研究活動と学術情報流通のしくみを踏まえ、大学図書館の役割・機能、大学図書館の諸活動、ネットワーク・経営管理等について総合的に学ぶ。		
GE8	経営情報システム論	3・4	集				2		岩丸 良明★	企業や組織を効率的に運営するための情報システムと電子政府		

クラス名 科目番号	科目名	学年	学期	曜日	教室	単位		担当者	内容	備考	ページ
						必	自				
知識情報サービスの経営											
GE8 0501	情報サービス経営論	3・4	1	木 5・6	7A102		2	池内 淳	情報サービス組織における経営計画、組織管理、サービス評価やマーケティング。		
GE8 0601	情報経済論	3・4	2	木 5・6	7A102		2	田村 肇	情報財の経済的特性と情報サービスに関する経済分析を扱う。		
GE8 0701	パブリックガバナンス論	3・4	3	木 5・6	7A102		2	(未定)	New Public Managementなどの、図書館などへの展開例をとりあげ、現代社会における公共部門の存在理由と役割について論じる。		
知識情報サービスの構成											
GE8 0801	情報サービス構成論	3・4	1	火 1・2	7A104		2	大庭 一郎	広義のレファレンスサービスを対象として、その目的、構成、方法、多様なメディアに対する知識情報探索のツール(レファレンスツール)とその整備、知識情報の探索方法と探索支援体制等について学ぶ。		
* GE8 0901	コレクションとアクセス	3・4	2	火 1・2	7A104		2	吉田 右子	図書館におけるコレクション形成の意義と方法について、図書館資料全般の特質、出版と流通、選書と廃棄、選書ツール、保存管理などの面から学ぶ。	早期卒業志望者用 図情(P41 0201)と 共通	45
知識情報の社会化											
GE8 1001	教育文化政策	3・4	1	金 1・2	7A102		2	溝上 智恵子	教育政策・文化政策について日本のみならず国際比較の視点から総合的に学ぶ。		
GE8 1101	メディア教育と発達	3・4	2	金 1・2	7A102		2	鈴木 佳苗	現代社会においてメディアを通じて提示される情報を読み解く力の育成に関し、主として児童青年へのメディアリテラシー教育、教育の効果などについて学ぶ。		
GE8 1201	学校教育と情報利用	3・4	3	金 1・2	7A102		2	平久江 祐司	学校図書館、学校間情報ネットワークなどにおける教育・学習情報の流通を中心に、e-learningを含めた広い視野から学校教育における教育・学習情報の生産、流通、利用の在り方について学ぶ。		
知識情報の規範											
GE8 1301	情報法	3・4	1	木 1・2	7A201		2	新保 史生	ネットワーク社会において新たに発生するようになった法的諸問題に接しながら、法律学の体系に関する主要な概念や法理に基づいて習得し、ネットワークにおいて現実に発生している諸問題の現状と法的対応について講義する。		
GE8 1401	知的財産権論	3・4	2	木 1・2	7A201		2	村井 麻衣子	ネットワーク社会における著作権を中心に、特許等の知的財産権全般について学ぶとともに、図書館活動や各種の情報活動の観点から、知的財産権が持つ意義について学ぶ。		
GE8 1501	図書館情報法制度論	3・4	3	木 1・2	7A201		2	(未定)	社会の成り立ちと社会変動、そこでの知識・情報の意義、情報社会論の系譜と情報的側面から現代社会の変化の全体像を学ぶ。また、セキュリティについて技術、ポリシー、法律の観点から総合的に学ぶ。		
メディア社会と情報文化											
GE8 1601	メディア社会文化論	3・4	1	金 3・4	7A105		2	後藤 嘉宏	人間相互の結びつきを媒介するメディアが、その結びつきのあり方と、人間の知覚、認識、思考のあり方、さらには社会のあり方などにどのように関わり、メディアの展開が人間と社会のあり方にどのような変容をもたらすかについて学ぶ。		
GE8 1701	出版文化・書誌論	3・4	2	金 3・4	7A105		2	黒古 一夫	文化的諸活動における出版の役割の面から、出版文化の意味、出版倫理、出版の自由、学術や宗教、文学等の文化的諸活動と出版、比較出版文化等について学ぶ。特に我が国の文学を事例として文化的活動と出版の関係を深く学ぶ。		
図書館と書物の文化											
GE8 1801	図書館文化史論	3・4	1	月 3・4	7A102		2	(未定)	図書等を含む情報メディアの歴史、図書館の歴史的発展、およびその文化史的意義等について学ぶ。		
GE8 1901	中国図書学	3・4	2	月 3・4	7A102		2	松本 浩一	漢籍の種類、形態、印刷・出版、蒐集、保存、漢籍の目録法などについて学ぶ。また、我が国の主要な漢籍所蔵館と漢籍の電子化の現状と課題、その意義についても学ぶ。		
GE8 2001	日本図書学	3・4	3	月 3・4	7A102		2	綿抜 豊昭	我が国の古典籍の種類、形態、印刷・出版、蒐集、保存、和書の目録法などについて学ぶ。また、主要な古典籍所蔵館と古典資料の電子化の現状と課題、その意義についても学ぶ。		
GE8 2101	古文書論	3・4	3	金 3・4	7A105		2	(未定)	古文書(含・古記録)の種類、形態、蒐集、保存、古文書の目録法などについて学ぶ。また、主要な古文書所蔵機関と古文書の電子化の現状と課題、その意義についても学ぶ。		
教職科目											
	総合演習	3	1	月 5・6	7A102		2	大澤 文人	教育とはなにかを学ぶ。特定テーマについての演習を行う。		

来年度以降の開講予定科目の科目番号・開講学期・曜日・時限・担当者名は予定です。

科目番号欄に*が表示されている科目は、他学類開設科目を本学類の科目として指定している科目で、担当者・開講学期時限等は当該学類が決定します。

担当者欄に(兼任)とあるのは、他学類の専任教員が本学類開設科目を(所属学類の開設科目とは別に)担当する科目です。

科目番号の1桁目Gは情報学群、2桁目Aは学群共通科目 Eは知識情報・図書館学類、3桁目は科目区分(下記)、4-5桁目は通し番号、6桁目は枝番、7桁目は授業方法を表します。

GA1: 学群共通(専門基礎科目・選択科目)、GE1: 専門基礎科目・必修科目、GE2: 専門基礎科目・選択科目、GE3: 専門基礎科目・自由科目、GE4: 専門科

GE5: 専門科目・必修科目、GE6: 専門科目・知識科学主専攻、GE7: 専門科目・知識情報システム主専攻、GE8: 専門科目・情報経営・図書館主専攻

科目シラバス（1年次科目）

学期曜時限	1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	石井 啓豊	オフィスアワー と研究室	水 2 限 315		
授業概要	総合科学としての図書館情報学の全体像と、その知識情報学への発展を論ずる。知識情報学は、図書館情報学を「メディアを介した知識共有とその社会的・文化的・技術的仕組み」という視点の中でとらえ直し、より一般的な枠組に発展させるべく構想されるものである。この視点から、図書館情報学を、個人、知識情報資源、社会のそれぞれのレベルで展開される知識のサイクルとして組み替えて解説する。図書館情報学（とその発展としての知識情報学）は人間、知識情報資源、社会の各レベルでの固有の課題と、各レベルでの技術的課題、及びレベル間の相互作用をカバーする総合的領域であることを踏まえて、その点に目配りをしながら解説する。				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識情報・図書館学類の対象主題領域（図書館情報学とその知識情報学への発展）の概要を理解する。 2. この領域の学問的特性、歴史的発展、方法的特徴を理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> I 対象世界 <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションと知識共有 2. 情報と情報メディアと情報行動 II 知識のサイクル：人間のレベル <ol style="list-style-type: none"> 3. 知識の意味 4. 知識の発見と表現 III 知識のサイクル：知識情報資源のレベル <ol style="list-style-type: none"> 5. 知識情報資源（科学活動を例として） 6. 情報の蓄積と検索 7. 知識情報システムとネットワーク IV 知識のサイクル：社会のレベル <ol style="list-style-type: none"> 8. 知識と情報共有の制度と文化 9. 図書館の制度と経営 10. インターネットと知識共有 V まとめ <ol style="list-style-type: none"> 11. 図書館情報学の知識情報学への発展 				
成績評価の方法	期末試験による（出席状況が悪い場合はマイナス要因として加味する）。				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配付する。また、授業の中で参考書等を紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業後の復習として、毎回の授業内容をA4用紙数枚程度にまとめて整理する。試験は小論文形式で授業内容を記述する方式とするので、復習をきちんと積み重ねておくこと。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	横山 幹子	オフィスアワー と研究室	火 15:30～17:00 405		
授業概要	古代ギリシアに源を発する西洋哲学の歴史を、古代の哲学から現代の哲学まで概観する。また、哲学史を概観するなかで、随時、演繹や帰納、帰謬法などの、論理学の基本的な概念の説明も行う。そして、特に、現代の哲学との関わりにおいて、記号論理（命題論理と第一階の述語論理）の基本的な考え方や表記の方法についても触れる。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 西洋哲学史に関する基礎的な知識を習得する。 論理学の基本的な考えを理解する。 「考えること」の意味と重要性について考える契機を得る。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 古代の哲学 2) 中世の哲学 3) 近代の哲学（および演繹と帰納） 4) 現代の哲学（および記号論理の基本的な考え方） 				
成績評価の方法	出席と学期末の筆記試験による。				
教材・教科書・参考書等	教科書は特に指定せず、資料を配付する。 参考書は授業において、指示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	配布資料の見直しと指示された参考書のうち、興味を引かれたものを読むこと。				
備考 講義のホームページ等	授業の2／3以上は出席することを前提とする。				

GE1 0301 情報基礎

Basics of Information Technology

学期曜時限	1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	鈴木 伸崇	オフィスアワー と研究室	金 6 限 204		
授業概要	情報やデータの表現、メール、Web、インターネット接続などの仕組み、それらを実現するための必要なコンピュータとネットワークに関連した諸要素の原理を概説する。				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報やデータの表現の基礎を理解する 2. コンピュータの構成と動作原理の基礎を理解する 3. ネットワークの基礎を理解する 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、コンピュータの歴史 2. 情報の表現(1) 3. 情報の表現(2) 4. ハードウェア 5. アルゴリズムとデータ構造 6. ソフトウェア 7. ネットワーク(1) 8. ネットワーク(2) 9. 情報システムと社会 10. 予備 				
成績評価の方法	出席状況・小テスト(30%)および期末試験(70%)				
教材・教科書・参考書等	授業時に資料を配布する。 参考書：大内東・岡部成玄・栗原正仁，情報学入門，コロナ社，2006				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	資料の PDF ファイルを予め公開するので、事前によく読み内容の理解に努める必要がある。また、授業時に課題を指示する。				
備考 講義のホームページ等	ホームページ：http://klis.tsukuba.ac.jp/jk08/				

GE1 0413

情報基礎実習-1,-2

GE1 0423

Basics of Information Technology Lab. -1, -2

開設学期 曜時限	1 学期 木曜日 1・2 時限 1 学期 金曜日 1・2 時限	教室	春日実習室 I	1 年	1 単位
担当教員	逸村 裕 長谷川 秀彦	オフィスアワー 研究室	火 16:45-18:15 313 水 16:00-17:00 211		
授業概要	知的生産のための基礎技術を修得する。情報検索、文献情報管理、文書作成、画像加工、表計算、プレゼンテーション作成、Web ページ作成など、コンピュータを用いた情報処理技術の基礎を実習によって学ぶ。実習には学術情報メディアセンターの教育用計算機システムの Windows を利用する。				
学習・教育目標	知識情報・図書館学類の学生として学ぶべき情報技術の基礎を修得する 図書館及び情報通信技術を用いたデータベースなど、情報検索の基礎を修得する				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な情報処理技術 (3 回) メールをきちんと書く 文書作成 画像加工 PDF 表計算とグラフ作成 2. 図書館と情報検索－基礎 (3 回) WWW, 図書、雑誌記事／論文、新聞記事、辞書、データ、各種情報を探す 筑波大学附属図書館 WWW を使いこなす 情報源と書誌要素 サーチエンジンと二次資料データベースの細かい使い方 Bibliography を作る 3. Web と HTML 言語 (3 回) 4. 図書館と情報検索－応用 (3 回) RefWorks 雑誌記事／論文を探す－続編 図書をを探す 5. プレゼンテーションの作成 (1 回) 				
成績評価の方法	出席状況、参加態度、レポートなどを総合的に評価する 参考：2007 年度は $A+(\sum \text{レポートの得点}) * \text{出席回数}/B$, A, B は定数とした				
教材・教科書・ 参考書等	実習教材は Web ページにて公開、あるいはプリントとして配布する 参考書等は授業時に紹介する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	木曜は 1 年 1・2 クラス対象、金曜は 1 年 3・4 クラス対象 受講定員を超えた場合は知識情報・図書館学類の学生を優先する				
授業外の学習内 容・方法	実習時間外に試行錯誤を繰り返しながら与えられた課題を完成させ、レポートにまとめる なお、実習時間は基本操作をマスターするだけで手いっぱいである				
備考 講義のホームページ等	ホームページ： http://klis.tsukuba.ac.jp/jk08/				

1320 102
1320 202
1320 302
1320 402

フレッシュマン・セミナー

Freshmen Seminar

開設学期 曜時限	1 学期 水曜日 3 時限	教室	7A201~7A204 7A205	1 年	1 単位
担当教員	佐藤 哲司・横山 幹子・ 時井 真紀・池内 淳	オフィスアワー 研究室	教員一覧参照		
授業概要	大学と社会の関係や大学における生活，学問に対する取り組み方などについて指導を行いつつ，クラス担任と学生間および学生相互の間のコミュニケーションをはかる。				
学習・教育目標	大学生生活を有意義に過ごすために必要な知識技能を身につける				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学とは 2. 学生生活 3. 大学のさまざまな仕組み 4. 大学での学習 5. 研究と教育そして学習 6. キャリアを考える 				
成績評価の方法	出席状況、参加態度、発表、レポートなど総合的に評価する				
教材・教科書・ 参考書等	授業時に配布及び紹介する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	教科書、参考書の確認とレポート作成				
備考 講義のホームページ等					

GE1 0513
 GE1 0523
 GE1 0533
 GE1 0543

情報リテラシ実習-1~-4

Information Literacy Lab.

開設学期 曜時限	2-3 学期 水曜日 3 時限	教室	201・202・203 204・(205)	1 年	1 単位
担当教員	1 年クラス担任	オフィスアワー 研究室	教員一覧参照		
授業概要	レポートライティング、テクニカルライティング、プレゼンテーション、ディベートなど大学生の 3R's に相当する基本的な知的生産技法を少人数クラスで学ぶ。				
学習・教育目標	<p>大学における学習方法を学ぶ。 レポート作成技術の基礎について実習を通じて修得する。 論理的な文章の作成、Bibliography 作成、基礎的な英文（メール）記述、情報探索の基礎、図書館及び基礎的なレファレンス資料と文献データベースの使い方、グループワークの実践等を行う。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学における 3R's 2. レポート作成の基礎 3. より良いレポートを作成する 4. 図書館を実践的に使う 5. 情報を探索する 6. 情報を分析する 7. 発表する 8. 質問する 9. グループワークによる問題解決を行う 10. ライフデザインとキャリアデザインを検討する 				
成績評価の方法	出席状況、参加態度、発表、レポートなど総合的に評価する				
教材・教科書・参考書等	授業時に配布及び紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	1 年次対象				
授業外の学習内容・方法	教科書、参考書、配布資料掲載ツールの確認とレポート作成				
備考 講義のホームページ等					

GE1 0612

プログラミング演習 I -1,-2

GE1 0622

Computer Programming Lab. I-1, -2

学期曜時限	2 学期 木曜日 1・2 時限 2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	春日実習室 I	1 年	2 単位
担当教員	松村 敦 時井真紀	オフィスアワー と研究室	火 5・6 限 212 火 5・6 限 203		
授業概要	コンピュータ・プログラミングの基礎を学習する。具体的にはプログラミング言語と幾つかの基本的なアルゴリズム、処理の流れを習得するプログラミング演習を行う。最終的にはプログラムが自分で書けることを目標にする。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・逐次実行の仕組みと多くのデータを繰り返しや場合分けで処理する仕組みを理解する。 ・プログラムの有用性と必要性を理解する。 ・単純な処理を行うプログラムを自力で書ける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：自作プログラムでコンピュータを操ることを体験する。 2. プログラミング基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・変数，配列，文字列，クラス ・制御構造（繰り返し，条件分岐） ・メソッド 3. 応用問題による演習 				
成績評価の方法	演習中の課題とレポートを総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて教材としてプリントを配布する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	木曜は1年1・2クラス対象，金曜は1年3・4クラス対象 情報基礎実習で学ぶコンピュータの基本的な操作方法に習熟していることを前提とする。 知識情報・図書館学類の学生に限る。				
授業外の学習内容・方法	配布テキストの予習と復習、数回のレポート課題				
備考 講義のホームページ等	http://klis.tsukuba.ac.jp/klib/				

GE1 0712

プログラミング演習Ⅱ-1,-2

GE1 0722

Computer Programming Lab. II-1,-2

学期曜時限	3 学期 木曜日 1・2 時限 3 学期 金曜日 1・2 時限	教室	春日実習室 I	1 年	2 単位
担当教員	真榮城 哲也 阪口 哲男	オフィスアワー と研究室	火 5・6 限 409 木 5・6 限 312		
授業概要	プログラミングの基礎知識を前提として、マルチメディアデータを使うようなより実践的なプログラミング技術を身につける。最終的に問題解決手段としてのプログラミングが行えることを目標にする。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際のデータ（テキスト、マルチメディア等）を扱うプログラムが書ける。 ・ 大きな問題を切り分けることができ、切り分けた問題に対するプログラムが書ける。 ・ プログラムの分かりやすい説明が書ける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：自作プログラムで自在にデータを操ることを体験する。 2. 実データの処理 <ul style="list-style-type: none"> ・ ファイル入出力 ・ テキストデータ処理 ・ マルチメディア表現とその処理 3. GUI(グラフィカルユーザインタフェース)プログラム作成 4. 応用問題による演習 				
成績評価の方法	演習中の課題とレポートを総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じてプリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	プログラミング演習Ⅰでの学習内容に習熟していることを前提とする。 木曜は1年1・2クラス対象、金曜は1年3・4クラス対象。 知識情報・図書館学類の学生に限る。				
授業外の学習内容・方法	配布テキストの予習と復習、数回のレポート課題				
備考 講義のホームページ等	http://klis.tsukuba.ac.jp/klib/				

GE1 0801 情報数学

Information Mathematics

学期曜時限	2 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	鎮目 浩輔	オフィスアワー と研究室	水 3 限 314		
授業概要	<p>数学の基礎であり情報科学にも直接的な応用を持つ記号論理、集合と写像、ベクトルと行列の入門的な部分を講義する。基礎的な概念とともに簡単な応用例にも触れる。また数学では手を動かしての習得が不可欠なので、練習問題を多く入れ、授業中にもある程度演習を行う。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的・論理的な考え方を論理の形式論を通してきちんと身につける。 ・ 集合と写像の基礎概念を理解し基本的な演算ができるようになる。 ・ ベクトルと行列の関係を理解し、行列計算ができるようになる。 				
授業計画	<p>I. 論理学の基礎 命題論理、ブール代数、述語論理</p> <p>II. 集合と写像 集合の概念、集合演算、写像、写像の合成と逆写像等</p> <p>III. ベクトルと行列の演算 幾何学的ベクトルと行列、行列の定義、行列の演算（和、差、積、逆行列）、図形の Affine 変換（平行移動、回転、拡大など）</p>				
成績評価の方法	試験による。必要に応じてレポートも課す。				
教材・教科書・参考書等	プリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<p>前提知識 高校数学 A の「論理と集合」 また高校数学 B の「ベクトル」の入門的な事項</p>				
授業外の学習内 容・方法	プリントに練習問題を多く入れるので、それを解きつつプリントやノートで復習すること。				
備考 講義のホームページ等					

GE1 0911

統計-1,-2

GE1 0921

Statistics -1,-2

学期曜時限	3 学期 水曜日 1・2 時限 1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205 7A201	1 年	2 単位
担当教員	長谷川 秀彦	オフィスアワー と研究室	水 16:00～17:00 211		
授業概要	<p>統計はデータの分析と解釈，意思決定において不可欠で，好むと好まざるとにかかわらず日常でも目にするものである。世間には統計のハウツー本があふれているが，大事なことは「統計リテラシー」，「統計的なものの考え方」である。本講義では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書にとりあげられたテーマを講義し， ・各自が関連した身近な話題について考える <p>というプロセスを通して，統計の意味，確率，二項分布，正規分布，統計的仮説検定，推計の考え方などを理解してもらう。</p> <p>「自分で試してみる」，「自分で考える」ことが重要なので必ず課題をこなすこと。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計的考え方のマスター：統計量についての基本概念，正規分布 少なくとも「統計でだまされない」，「統計でだませる」ようになってほしい。 ・ 統計的仮説検定の考え方 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 データを図や表にまとめる 2 平均・分散・標準偏差・モード・メディアン 3 相関・回帰 4 確率の考え方 5 正規分布の使い方 6 統計的仮説検定の考え方 7 独立性の検定・母平均の検定・等平均仮説の検定 8 推定 				
成績評価の方法	レポートと試験。				
教材・教科書・参考書等	『ゼロから学ぶ統計解析』, 小寺平治, 講談社サイエンティフィク, 2500 円, ISBN 4-06-154656-2 を教科書とする。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「統計-2」は再チャレンジコースです ・ 卒業予定者は「統計-1」を受講できません ・ 特別な予備知識は仮定しない。社会人の常識として，なるべく多く履修してもらいたい。 				
授業外の学習内 容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に書いてある式・論理を注意深く読んで理解すること ・ 少なくとも教科書の演習問題は自分で解いてみる ・ 与えられた課題に対して，課題を満足する問題を自分で設定し，解くこと ・ 指定された文献を読むこと 				
備考 講義のホームページ等					

GA1 0101 情報社会と法制度

Information Society Law

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限	教室	春日講堂	1 年	2 単位
担当教員	新保 史生	オフィスアワー と研究室	火 12:15～15:00 407		
授業概要	<p>ネットワーク社会における法制度を総合的に学ぶ上で必要な基礎知識を習得することを目指します。ネットワーク社会においては、多くの人々が利用している情報発信活動や電子商取引、電子政府の構築を目指して推進されている行政の情報化、サイバー犯罪をはじめとする新たな犯罪の出現、ネットワーク社会の安全確保のための情報セキュリティ対策などとの関係において、日々新たな法律問題が発生しています。それに伴い、これらの諸問題に対応すべく新たな法律も制定されていますが、それらの問題解決に必要な法的枠組みの基本は従来から変わらないものです。そこで、本講義では、憲法、民法、刑法、行政法を中心に、現行の我が国の法制度の基礎を学んだ上で、ネットワーク社会における法整備の現状から、具体的な法的諸問題解決のための法的対応について講義します。</p>				
学習・教育目標	<p>情報化社会における身近で具体的な法律問題に即しながら、法学の基礎知識と主要な概念や法理を習得することにより、情報化社会において最低限必要な法的知識を身につけます。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 法学の基礎知識 2 憲法の要点（基本的人権、統治機構） 3 政治と法 4 民法の基礎 5 刑法の基礎 6 行政法の基礎 7 ネットワーク社会における法的諸問題の類型 8 IT 関連の法整備の状況 9 高度情報通信ネットワーク社会の実現のための法制度 10 電子商取引の推進と規制のための法制度 				
成績評価の方法	定期試験及び小テストにより評価する				
教材・教科書・参考書等	講義において指示する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	<p>レジュメに記載されている法令の条文について、電子政府の総合窓口 <http://www.e-gov.go.jp/>の「法令検索」を活用し該当条文の内容を講義前に確認しておくこと。</p>				
備考 講義のホームページ等	講義に関する情報は、 www.shimpo.org (www.hogen.org) に掲載する				

GE2 0101 情報システム概説

Foundations of Information Systems

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A205 春日実習室 I	1 年	2 単位
担当教員	中井 央	オフィスアワー と研究室	月 2 限 309		
授業概要	現代は、さまざまな情報がコンピュータを利用して処理されている。情報システムを構成する要素について、ハードウェア、ネットワーク、ソフトウェアの観点から概説する。				
学習・教育目標	現代にはさまざまな情報システムが存在すること、それぞれのシステムを理解するにはどのような基盤的な知識を必要とするか、ということを知ることが目標とする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. システムを構成するハードウェアの側面について (UNIX の入門を含む) (4 週程度) 2. ネットワークシステムについて (3 週程度) 3. ソフトウェアの観点から (3 週程度) 				
成績評価の方法	期末試験もしくはレポート				
教材・教科書・参考書等	授業用の Web ページ上に掲載				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	情報システムに関しての(たぶん)新しい用語、説明がたくさん出てくるのでそれらを使用する場面、文脈、使われ方について復習をしましょう。わからなかった言葉は積極的に調べましょう。				
備考 講義のホームページ等	http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~nakai/2008/FIS/ なお、テキストは配布しないので各自が印刷して授業に臨んでください。 (前日の正午までにはアップします)				

学期曜時限	1 学期 火曜日 1・2 時限	教 室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	松本 紳	オフィスアワー と研究室	金 10:00～11:30 または 16:45-18:00 202		
授業概要	関数や微積分は、必ずしも数学・物理などの自然科学に限られたものではなく、統計処理や情報学、グラフィックスなど様々なところで必要となっている。本講義では、図書館情報学の基礎となる数学のうち、解析学の初歩を行う。授業では、数学的厳密さを求めるのではなく、これらの数学を使いこなせるように平易に解説するつもりである。また、解析的な解法だけでなく、数値計算に関する解法も時間があれば紹介する				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 関数の概念を理解し初等関数を使いこなせるようにする。 2 微積分の概念を理解し、それらに関する具体的問題解決の応用力をつける。 3 実際の計算を通して、基礎的な計算力や技術（工夫）を身につける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 実数の概念・実数の連続性・実数の性質・数列の極限 3 関数（連続関数・逆関数・指数関数・対数関数・三角関数） 4 微分・初等関数の微分・平均値の定理・テーラー展開・微分法の応用 5 数値微分の例 6 積分・初等関数の積分・広義積分・積分法の応用 7 数値積分の例 8 無限級数 				
成績評価の方法	出席（クイズ）、レポート、試験を総合的に評価する				
教材・教科書・参考書等	必要に応じてプリントを配布する。参考図書等は授業時に紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	前提知識は特に必要としないが、高校の数学 II 程度の知識を習得している方が望ましい				
授業外の学習内容・方法	必ずノートを作り、毎回、予習復習をする必要がある。授業中に理解し得なかった部分を各自で調べ理解することも必要である。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	森継 修一	オフィスアワー と研究室	月 17:30～19:30 214		
授業概要	<p>図書館情報学の基礎となる数学のうち、線形代数の初歩を講義する。 連立1次方程式の解法であるガウスの消去法を基礎として、抽象的な理論と具体的な計算の結びつきを示しながら、諸概念を論じる。内容の確実な理解のために演習を課すが、その際、「技巧的・場当たりの」な解法を排除し、「アルゴリズム的」な解法が身に付くよう指導する。これは、プログラミングを学ぶ際の基礎的な思考訓練でもある。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校数学の確実な理解を土台として、線形代数における基本的諸概念を理解する。 ● 問題解決のための計算が確実に実行できるようにする。 ● 数学の答案の記述法およびレポートのまとめ方を身に付ける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガウスの消去法 連立1次方程式の代表的な解法であるガウスの消去法を用いて、連立1次方程式が確実に解けるようにする。「軸選択」の手順を通して、「すべての場合に適用できる一般的な手続き」のための思考方法を指導する。 2. 実数ベクトル空間と線形写像、行列 ベクトルの1次独立性・行列の正則性・逆行列・行列の階数とゼロ空間の次元などの概念を論じる。具体的な計算はすべて、ガウスの消去法に帰着させる。 3. 行列の固有値・固有ベクトル、行列式 まず、固有値・固有ベクトルを定義に基づいて直接求める方法を示し、固有値を特性方程式の根として位置づけるために、行列式を導入する。行列式の計算においても、ガウスの消去法に基づいた方法を用いる。 <p>内容の確実な理解のため、各自における講義時間以外の演習を重視する。</p>				
成績評価の方法	複数回のレポートと試験の結果をあわせて評価する。				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書：村田健郎 『線形代数と線形計算法序説』 サイエンス社 (1986) 教科書：岡本和夫 『行列と1次変換』 実教出版 (1998) 教科書：佐藤文広 『数学ビギナーズマニュアル』 日本評論社 (1994)</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ● GE1 0801 「情報数学」の単位取得者に限る。 ● 高校数学 I,A,II,B までの知識が確実に使いこなせることを前提とする。 ● 履修希望者が100名を大幅に超えた場合は、知識情報・図書館学類1年次生を優先として、人数制限を行う可能性がある。 				
授業外の学習内容・方法	授業内容に関連する課題をほぼ毎週示す。期末試験を受けるためには、それまでのすべてのレポートが提出済みで、かつ合格点を得ている必要がある。				
備考 講義のホームページ等					

科目シラバス（2年次科目）

GE1 1012

知識情報演習 I -1,-2

GE1 1022

Knowledge Information Resources Lab. I-1, -2

学期曜時限	1 学期 火曜日 1・2 時限 1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	春日実習室 I	2 年	2 単位
担当教員	谷口 祥一・宇陀 則彦 原 淳之・阪口 哲男	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	知識資源の組織化とそのメタデータ作成、検索システム構築の概要の理解を目的として、知識資源に対するメタデータ（書誌レコードなど）の作成演習と、作成したメタデータの検索システム構築演習を行う。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・標準的な書誌レコードの作成法について理解し、書誌レコード作成が行えること ・Dublin Core メタデータのスキーマについて理解し、同メタデータ作成が行えること ・書誌レコード用のデータベースを構築できること ・構築したデータベースに対する検索システム（検索インタフェース）を構築できること 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本目録規則を用いた書誌レコード作成 (1) 2. 日本目録規則を用いた書誌レコード作成 (2) 3. 日本目録規則を用いた書誌レコード作成 (3) 4. 日本目録規則を用いた書誌レコード作成 (4) 5. Dublin Core メタデータの作成演習 6. OPAC 構築 (1) 7. OPAC 構築 (2) 8. OPAC 構築 (3) 9. OPAC 構築 (4) 10. OPAC 構築 (5) 				
成績評価の方法	レポート（100%）。レポート評価の観点は指示事項について妥当な処理が行われているか、考察は十分に展開されているかなど なお、著しく低い出席状況については加味（減点）することもある				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配布する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	2 年 1・2 クラスは火曜クラス、3・4 クラスは水曜クラスを受講すること （ただし 3・4 クラスで、情報基礎を履修する者または社会の教員免許取得中の者は火曜クラスを受講して良い） 知識資源組織化論を履修している（履修中である）ことが望ましい				
授業外の学習内容・方法	指示された演習課題の処理 レポートは 3 回程度課す予定				
備考 講義のホームページ等					

GE1 1112

知識情報演習Ⅱ-1,-2

GE1 1122

Knowledge Information Resources Lab. II-1,-2

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限 2 学期 水曜日 1・2 時限	教室	春日実習室 I 7A103	2 年	2 単位
担当教員	原 淳之・逸村 裕・藤井 敦 原 淳之・大庭 一郎・辻 慶太	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	前半では各種情報源を用いてレファレンスサービスに用いる冊子体、オンライン DB 等の情報探索ツールとその使い方について学ぶ。後半ではその知識技能を生かし、パスファインダーを作成する演習を行う。				
学習・教育目標	レファレンスサービスの基本となる各種情報源についての知識とその活用法についての能力を身につける。				
授業計画	1～5. 各種情報源についての演習 6～7. パスファインダーの原理と評価法 8～10. パスファインダーの作成				
成績評価の方法	出席と授業参画度 (30%)、レポート (40%)、試験 (30%)。レポートについては、出題意図と必要とされるツールの理解、様式がポイントとなる。				
教材・教科書・参考書等	授業開始時に指示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	2 年 1・2 クラスは火曜クラス、3・4 クラスは水曜クラスを受講すること (ただし 3・4 クラスで、情報数学を履修する者または社会の教員免許取得中の者は火曜クラスを受講して良い)				
授業外の学習内容・方法	教科書、参考書、配布資料掲載ツールの確認とレポート作成				
備考 講義のホームページ等					

GE1 1212

知識情報演習Ⅲ-1,-2

GE1 1222

Knowledge Information Resources Lab. III-1, -2

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限 3 学期 水曜日 1・2 時限	教室	春日実習室 I	2 年	2 単位
担当教員	緑川 信之・藤井 敦 吉田 右子・辻 慶太	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	前半は主題分析のツールと方法について学ぶ。主題分析とは、文献が扱う主題を明らかにし索引語、分類記号、要約などの形で表現することである。主題分析のためのツールにはシソーラスや分類表がある。これらのツールを用いて主題分析の演習を行う。 後半は情報検索システムの構築について学ぶ。具体的には、Web ページの収集や検索エンジンの構築に関するプログラミング演習を行う。				
学習・教育目標	前半は、主題分析ツールの構造と使用法を習得し、主題分析のプロセスを理解することを目標とする。 後半は、情報検索システムの仕組みについて理解し、自分である程度のプログラミングができることを目標とする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主題分析(1) 2. 主題分析(2) 3. 主題分析(3) 4. 主題分析(4) 5. 主題分析(5) 6. Web ページの収集と検索システム構築(1) 7. Web ページの収集と検索システム構築(2) 8. Web ページの収集と検索システム構築(3) 9. Web ページの収集と検索システム構築(4) 10. Web ページの収集と検索システム構築(5) 				
成績評価の方法	出席（30%）とレポート（70%）で成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業時間に提示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	2 年 1, 2 クラスは火曜クラスを受講し、3, 4 クラスは水曜クラスを受講すること。 (ただし、3, 4 クラスで社会の教員免許取得中の者は火曜クラスを受講して良い)				
授業外の学習内容・方法	演習資料の予習・復習、レポートの作成を行う。 レポートは 1 回から数回に一度を目安に出す。				
備考 講義のホームページ等					

GE1 1312

専門英語 I -1,-2

GE1 1322

English for Specialized Subjects I-1,-2

学期曜時限	1～3 学期 水曜日 4 時限 1～3 学期 水曜日 3 時限	教室	7A101	2 年	1.5 単位
担当教員	田中 裕司	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	大学で専門科目を学習・研究していくとき、英文の読み書きは避けて通ることはできない。この授業では、論文・レポートにおいて理路整然とした議論を展開するのに不可欠な知識と技法を養うため、いくつかの題材について英文を読み、書く練習を行なう。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい（伝えなければならない）内容を平易な英語で表現できるようになること ・ 読み手が納得するような形で話が進められるようになること。 ・ きちんとした書式に従って文書が作成できるようになること。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ある主題についていろいろな視点から考えて、知っていることと知らないことをはっきりさせる。 2. 文章を読み、正確に内容を把握するために、語彙の意味と使い方、英語らしい表現方法、話の組み立て方を学習する。 3. その主題について、さらに知りたいことや知っておくべきことをインターネット、新聞・雑誌記事、その他の情報源を使って調べ、理解を深める。 4. 収集した情報を整理・分析して意見をまとめ、口頭で発表したり、文章にしたりする。 				
成績評価の方法	評価は主に各学期末に提出される課題作文に基づいて決める。				
教材・教科書・参考書等	教科書：Broukal, Milada. 2004. <i>Weaving It Together: Connecting Reading and Writing</i> . Vol. 3. 2nd ed. Cengage Learning.（書籍部で購入すること） 参考書：長部三郎. 2001. 『伝わる英語表現法』岩波新書 765. 辞書：①英英辞書（ <i>Collins COBUILD Dictionary for Advanced Learners, Longman Dictionary of Contemporary English</i> など）②連語辞書（『研究社新編英和活用大辞典』など）				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	水曜 4 限（I-1）は 2 年 1・2 クラス対象，水曜 3 限（I-2）は 2 年 3・4 クラス対象。				
授業外の学習内 容・方法	予習・復習は必ずすること。なるべく英和・和英辞書に頼らず、英英辞書・連語辞書を使って、より正確に内容を把握・表現する力を養ってほしい。新たに電子辞書の購入を考えているのであれば、少なくとも①が収録されているものを検討してほしい。授業には必ず辞書を持参すること。				
備考 講義のホームページ等					

GE1 1412

専門英語Ⅱ-1,-2

GE1 1422

English for Specialized Subjects II -1, -2

学期曜時限	1～3 学期 金曜日 4 時限 1～3 学期 金曜日 5 時限	教室	7A101	2 年	1.5 単位
担当教員	一戸 克夫	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	ウェブサイトの記事やコラム、アカデミックな論文、英語母語話者のブログに見られる日常についての英文、さらには文学作品と、トピックからフォーマリティ、文体まで様々な英文を題材として取り上げて読んでいく。毎回、次の授業で取り上げる英文のコピーを配り、課題としてその一部を全員に日本語に訳してもらい、期日までにメールで提出してもらう。授業ではボキャブラリーや内容把握を確認するための小テストを行い、さらに提出された課題のいくつかを取り上げ、解説したり、質疑応答を行う。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 幅広い種類の英文を読むことで、英文を読むことに対する興味を持ってもらうことと、英語の感覚を養うこと。 ● 英文の意味やニュアンスを可能な限り日本語で再現することで、日・英語両方に共通する「言葉の基礎力」を養うこと。 				
授業計画	<p>4. ウェブ上の記事、コラムの英文 比較的、教科書的で整った英文を読み、概要をすばやく把握する読み方を身に付ける。</p> <p>5. ブログの英文 口語的で、日常会話の英語に近い英文を読み、会話にありがちな、表現の省略や話題の転回についていく想像力を養う。また、英文のニュアンスを日本語で生かすために、細かな点に配慮して訳す訓練をする。</p> <p>6. 論文の英文 しっかりとした構造を持つ文章を読むことで、英文を読むことと論理的な思考を働かせることを両立させる。</p> <p>4. 文学作品 比喩や心理描写など、文学特有の英語表現に親しむ。会話の文と字の文の区別や、年齢、性別などを考慮したうえで適切な日本語に訳す。</p>				
成績評価の方法	毎回提出してもらう課題と小テスト、試験の結果をあわせて評価する。				
教材・教科書・参考書等	特にありませんが、辞書は特徴の異なるものを複数使用することを勧める。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	金曜 4 限 (II-1) は 2 年 1・2 クラス対象、金曜 5 限 (II-2) は 2 年 3・4 クラス対象。				
授業外の学習内容・方法	毎回、次の授業で取り上げる英文のコピーを配り、課題としてその一部を全員に日本語に訳してもらい、期日までにメールで提出してもらう。				
備考 講義のホームページ等					

GA1 0201 知的財産概論

Introduction to Intellectual Property

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	春日講堂	2 年	2 単位
担当教員	村井 麻衣子	オフィスアワー と研究室	火 6 限 506		
授業概要	知的財産に関する法制度を主要な概念や法理に基づいて学ぶ。著作権法、特許法を中心に、不正競争防止法、商標法など、知的財産諸法についての基礎的な知識を身につけ、知的財産法の法技術的な特色を理解する。				
学習・教育目標	知的財産諸法についての基礎的な知識を身につけ、現代における望ましい制度のあり方について考察し、情報の保護と利用についてのバランス感覚や、問題解決能力を身につけることを目的とする。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産法概論 ・ 法律を学ぶための基礎知識 ・ 不正競争防止法の概要 ・ 商標法の概要 ・ 特許法の概要 ・ 著作権法の概要 				
成績評価の方法	主に試験による。その他、小テスト、出席、授業態度等を考慮することもある。				
教材・教科書・参考書等	教科書：田村善之『知的財産法』（有斐閣）、六法（詳細については授業で指示する） 参考書は授業で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「情報社会と法制度」を履修していることが望ましい。				
授業外の学習内 容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習として：教科書、参考書を購読し、内容を把握する ・ 復習として：授業内容を教科書等に照らして確認する、授業で示された論点を自分なりに検討する、判決原文にあたって理解を深める 				
備考 講義のホームページ等					

GE2 0401 量的調査法

Quantitative Survey

学期曜時限	2 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	歳森 敦	オフィスアワー と研究室	水 9:30~11:30 114		
授業概要	質問紙調査（いわゆるアンケート調査）の方法論と、結果の分析のための一連の統計的手続きを学ぶ。具体的には、調査の計画、標本抽出の方法、調査票の設計、調査の実施から、データの入力、結果の集計、調査結果の報告に至る一連のプロセスを、演習を交えつつたどる。				
学習・教育目標	一般的な量的調査の方法を理解し、その結果を批判的に評価できる。 量的調査の企画と実行のための基礎知識を身につけ、適切な指導の下で調査ができる。 調査結果の情報処理手順を理解し、定型的な報告書を作成することができる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 質問紙調査の方法 2) 標本の抽出方法 3) 調査テーマの設定 4) 調査票の作成 5) 調査票の作成 6) 結果の入力 7) 結果の単純集計・グラフ化 8) 結果の集計・分割表 9) 結果の集計・相関 10) まとめ 				
成績評価の方法	試験				
教材・教科書・参考書等	原純輔，浅川達人，社会調査，放送大学教育振興会，2005，258p.				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	より高度な分析のために「多変量解析」の履修を，関連科目として「質的調査法」の履修を勧める				
授業外の学習内容・方法	毎回，教科書の指定箇所までを予習してくるこゝ。復習のための宿題あり。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	田村 肇	オフィスアワー と研究室	水 10:00-11:30 311		
授業概要	情報社会を生き抜いていくために我々に必要となる基本的な能力の一つとして、客観的なデータに基づく分析能力がある。本授業では、データ分析に用いられる有力な手法の一つである、多変量解析について解説する。授業は講義によって行うが、あまり理論的になりすぎないように配慮し、さまざまな多変量解析の手法が、現実のどのような問題にどのように適用可能であるかということの解説を中心に行う。また、分析を行う際に必要となる実際的な知識も解説する。				
学習・教育目標	なんらかの現象（特に社会現象）が、何故、どのように生じているかを客観的に記述し説明するための基礎的な知識と技術が身につく。また、分析を通じて予測を行うための能力も得ることができる。原則的に演習は行わないが、分析のためのツール（ソフトウェア）の使用方法についての解説は授業で行い、実際に課題を与えそれをツールを用いて解いてもらいレポートとして提出してもらうので、実際的なデータ分析の技術も身につく。				
授業計画	第1・2週 多変量解析を理解するために必要となる主に統計学の知識の復習 第3週 多変量解析をパソコンで行うための各種ツールの使い方の紹介 第4週 回帰分析と判別分析 第5週 主成分分析と因子分析 第6週 クラスタ分析と潜在クラス分析 第7週 事例研究1（現実の問題をどのように多変量解析で分析するか） 第8週 事例研究2 第9週 より進んだ話題（アソシエーションルール） 第10週 さらに進んだ最近の話題				
成績評価の方法	成績は、レポート、試験、出席によって総合的に決定する。ウェイトはレポート50%、試験50%であり、出席は足切りに用いる。レポートはデータをコンピュータで分析し、結果をまとめてもらう。				
教材・教科書・参考書等	基本的にプリントを配布する。 参考書としては、「Rによるデータサイエンス」（金明哲著 森北出版）を紹介しておく。レポートの課題を解くときに役に立つ。その他の参考書などは授業中に紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業中に指定しない限り予習の必要はない。レポート課題を3～4回課す予定なので、それを作成するためにかなりの労力を要すると思う。（1回15～20時間程度）				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	岩澤 まり子	オフィスアワー と研究室	月 5 限 304		
授業概要	情報探索の基本的な方法・理論を、情報の分析・加工・蓄積・探索・アーカイブなど情報探索に関わる組織化、および再発見の両プロセスについて、利用者の探索行動の特性および情報要求と関連付けながら学ぶ。また、情報探索戦略については、図書館情報学分野の代表的なデータベースを取り上げ、実践的な方策を解説する。				
学習・教育目標	情報探索の基本を理解する。 情報探索戦略を策定できるようになる。 卒業研究に必要な先行研究論文が、調査できるようになる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報探索とは 2. 情報探索の歴史 3. 情報の組織化と再発見のプロセス 4. シソーラス 5. 情報探索に関わる規格 6. 情報探索の流れ 7. プレサッチインタビュー 8. 情報探索戦略の策定 9. 検索結果の評価 10. 情報検索システム 				
成績評価の方法	出席状況、小レポートおよび学期末試験の成績により、総合的に評価します。				
教材・教科書・参考書等	講義資料はプリントとして配布する。また参考書および関連文献は、講義の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	復習を行ない、理解できなかった点を明らかにして、授業に出席して下さい。情報探索に対する理解を深めるために、図書館情報学分野のデータベースを使用した情報探索を、三回程度、宿題として課します。また宿題の一部は、小レポートとして提出していただきます。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	武者小路 澄子	オフィスアワー と研究室	木 5 限 516		
授業概要	<p>人文・社会科学における調査方法としての質的調査法について、その基本的考え方と手法を理論的・実践的に学ぶ。質的調査法が前提とする「研究とは何か」、そこで基盤とされる諸々の研究上の立場 — 方法論 (methodology) — も射程に入れ、代表的な調査・分析方法を具体的に習得する。</p> <p>質的調査法は、未知で複雑な現象に対して、調査者が予め意識化していなかったことを多層的に発見するのに有効であり、また人々が現実世界をどのように認識し、意味付けし、言語化しているか、等についての洞察を深めることが可能である。一方で、調査や分析における“客観性”や“妥当性”が問われることも多いため、こうした問題を整理して扱い、研究成果の提示方法についても検討する。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査法とは何か、その基本的立場や考え方について理解する ・ 具体的な諸手法について学び、これらを用い方・有効性・用いる上での留意点などの基礎知識を身に付ける ・ 自らの調査課題について、具体的に諸手法の適用・応用を検討する ・ 具体的な事例の中から、どのような課題にどういった手法が適切であるか、どのような成果はどのような提示の仕方が有効かなどを整理・判断する能力を身につける 				
授業計画	<p>以下の課題を順に取り上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質的調査法とはどのような方法か 2. 調査方法とその実践計画、具体例 (インタビュー調査、参与観察、エスノグラフィ、ライフヒストリーとオーラルヒストリー、ドキュメント分析等、フィールドワークにおける代表的調査方法を取り上げる) 3. 調査に関する基本用語、調査上にあたっての理論的背景と立場 4. 分析方法とその方法論的立場、具体例 (データとその解釈、コーディング、内容分析、会話分析、談話分析、映像資料の分析等と方法論的立場を取り上げる) 5. 質的調査法による研究成果の提示 (研究の評価基準、倫理的問題、プレゼンテーションに関して取り上げる) 6. 質的調査の選択と意義 				
成績評価の方法	学期末試験				
教材・教科書・参考書等	授業中に配布するプリントおよびプリントにて参照する文献				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	プリントと講義中に説明したこと・考えてみるように促したことについて理解し考えてください。特に、卒業研究で質的調査を用いる場合、自分だったらどうするかを必ず考え、そのために準備段階として必要な知識を上記の教材で身につけてください。				
備考 講義のホームページ等	プリント以外に講義で説明することがあるので講義ノートを取るようになさってください。				

学期曜時限	3 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	松林 麻実子	オフィスアワー と研究室	金 4・5 限 111		
授業概要	<p>情報行動とは、コミュニケーションやメディアの利用など、人間が情報と関わる行為全般を指す。すなわち情報行動とは、人間が日常的に行っている様々な行為のうち、特に重要なものの一つである。本講義では、そのような人間の行為がこれまでどのように研究されてきたのか、ということ概観するとともに、自分が日頃行っている情報行動を様々な方向から解釈してみることを目的とする。昨今、様々な文脈で話題になる新規メディア（Google や SNS など）を題材にするなど、出来る限り身近な事例を取り上げながら分析を進めていきたい。</p>				
学習・教育目標	<p>本講義は下記のような知識や能力を身につけることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館情報学領域で発展してきた情報行動研究の系譜を知っている ・自らの行動をモデル化（＝構成要素とその関係に分解）してとらえることができる ・論理的に思考することや学術的な文章を書くことができる 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：情報行動とは 2. 情報通信モデルとコミュニケーションモデル 3. 情報行動の契機となる要素／情報行動を表現したモデル 4. 認知的観点からとらえる情報行動 5. 社会的観点からとらえる情報行動 6. 情報行動を様々な視点から解釈してみる 7. 技術決定論的メディア観からみる人間とメディアの関係 8. 社会に埋め込まれたメディア観からみる人間とメディアの関係 9. 人間とメディアの関係を様々な視点から解釈してみる 10. まとめ 				
成績評価の方法	<p>授業期間中に課す3回程度のレポートによる。レポートの採点基準は、1)学術的な文章を書けているかどうか、2)自分の行動を概念図や専門用語を使って説明することができているかどうか、3)指示した形式にしたがっているかどうか、である。提出期限は厳守するものとし、指定した期限までに提出されなかったレポートが一つでもあった場合、授業を放棄したものとみなす。出席状況を評価に加味するかどうかは初回の授業において受講生と相談の上決定する。</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書は特に指定しない。ただし、毎回、次の授業までに読んでおくべき関連文献を指示するので、それを読んだ上で授業に臨んでもらいたい。</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	<p>レポートを1ヶ月に1本程度のペースで課す予定。分量はどれもA4判2～3枚程度のものとする。ただし、第1回レポートの出来や講義における受講生の反応などを見ながら、第2回以降のレポートの内容や分量を変更する可能性もある。</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>現象学、心理学、認知科学、社会学など多様な領域の考え方を駆使しながら、人間の情報行動について考える講義です。図書館情報学に限らず、様々なバックグラウンドを持った学生を歓迎します。</p>				

学期曜時限	1 学期 月曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	中山 伸一	オフィスアワー と研究室	月 4・5 限 410		
授業概要	我々が知的活動を行っていく上において、課題やその解決法の発見は欠くことのできない要素であり、その能力を開発する事は、研究や社会生活をおくる上で有用である。この授業においては、創造性の科学について概観するとともに、各種の創造性開発技法を紹介し、その実践を行うことにより、問題発見や課題解決における創造的思考を身につけさせる。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・創造性とは何かを理解する ・創造的な問題発見や課題解決の方法を身につける ・創造的な心を養う 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：創造とは 2：創造性の科学 3：創造性の測り方 4：自由連想法（ブレインストーミング）とその実践 5：強制連想法（チェックリスト法）とその実践 6：類比法（シネクティクス法）とその実践 7、8：KJ法とその実践 9：PERT法とその実践 10：その他の技法 				
成績評価の方法	出席および実践への取り組み状況、レポート、試験をそれぞれ等価に評価する。なお、レポートは技法毎に提出させるが、技法の理解を中心に評価する。				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考書：『創造的能力：開発と評価』佐藤三郎, 恩田彰共編. 東京心理, 1978. 『発想法』川喜田二郎著. 中央公論社, 1967 (中公新書:136). 『続発想法』川喜田二郎著. 中央公論社, 1970 (中公新書:210).</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	各種技法については、あらかじめどのようなものを調べさせる。授業中に実践を行うが、そのまとめを授業後に行わせる。これらについては5回程度をレポートとして提出させる。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	谷口 祥一 緑川 信之	オフィスアワー と研究室	火 6 限 303 随時 306		
授業概要	知識資源の組織化全体を概観するとともに、主に効果的かつ効率的な利用を目的として行われる広義のメタデータを用いた組織化について学習する。具体的には、対象とする知識資源の分析や記述に基づく組織化について基本的な考え方を学ぶ。				
学習・教育目標	知識資源の組織化に関する基本的な考え方、および、メタデータ、固有名称管理、分類、索引、要約など組織化のための様々な手法・技術について理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識資源組織化の概要 2. メタデータ(1)：書誌レコード 3. 固有名称管理（典拠コントロール） 4. メタデータ(2)：Web 資源に対するメタデータ 5. 検索システム 6. 分類 7. 索引 8. 要約 				
成績評価の方法	レポート（30%）、筆記試験（70%）。レポート評価の観点は指示事項について妥当な処理が行われているか、考察は十分に展開されているかなど なお、著しく低い出席状況については加味（減点）することもある				
教材・教科書・参考書等	[教科書] 谷口祥一，緑川信之『知識資源のメタデータ』勁草書房，2007 その他，適宜プリントを配布する				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業内容の再確認による復習，教科書の該当箇所の内容確認による復習 レポートは，2 回程度課す予定				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A205 春日実習室 I	2 年	2 単位
担当教員	宇陀 則彦	オフィスアワー と研究室	水 2 限 210		
授業概要	<p>“データベース”という言葉は、データを指す場合もあればシステムを指す場合もあり、文脈によって意味が異なる。本講義では、データベースの基礎概念を学ぶことで、知識資源システムの基礎となるデータベース技術を総合的に理解する。具体的には、データベースの定義と種類、データモデリングの考え方、リレーショナルモデルの基礎、データベース管理システム(DBMS)の基本機能、データベース設計と管理などを講義と演習を通じて学ぶ。</p>				
学習・教育目標	<p>図書館情報学を学んでいると“データベース”という言葉がたくさん出てくるが、データベースの基礎概念を学ぶことで、単なるデータの集まりとデータベースの違いがわかるようになる。また、データベースが知識情報システムにおいてなぜ不可欠な技術なのかも理解できる。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースの意義 2. データベースの実際(1) [演習] 3. データベースの実際(2) [演習] 4. リレーショナルデータベース (1) 5. リレーショナルデータベース (2) 6. データベースの設計 (1) 7. データベースの設計 (2) 8. データベースの設計 (3) 9. データベース管理システムの機能 (1) 10. データベース管理システムの機能 (2) 				
成績評価の方法	試験				
教材・教科書・参考書等	資料を配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	なし				
授業外の学習内容・方法	データベースに関する図書は非常に多く出版されているので、最もわかりやすいと思ったものを選ぶ。本を選ぶのも勉強の一部である。前もって読んでおけば授業はすらすらと理解できる。				
備考 講義のホームページ等	講義のページ http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~uda/lecture/				

学期曜時限	2 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	阪口 哲男	オフィスアワー と研究室	火 4 限 312		
授業概要	コンピュータシステムとネットワークについてその基本構成と動作原理について学ぶ。コンピュータシステムのハードウェア構成要素の概要を示し、それと関連付けながらプログラムやデータ等のソフトウェアについて解説する。またネットワークについてはインターネットを事例とし、コンピュータシステム間のデータ送受の基本的な手順とそのための通信規約の役割について概説する。そして総括としてコンピュータシステムとネットワークを組み合わせた活用事例を紹介する。				
学習・教育目標	以下の事項に関する基本原理と実際について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータのハードウェア構成 ・ コンピュータソフトウェア ・ コンピュータネットワークとプロトコル(通信規約) 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基本構成 2. コンピュータにおける情報の表現とその処理 3. 記憶装置と入出力装置 4. ソフトウェア 5. コンピュータネットワークとプロトコル 6. インターネットとは 7. ネットワーク事例: WWW と電子メール 8. セキュリティなど諸問題 				
成績評価の方法	筆記試験				
教材・教科書・参考書等	教科書: 趙華安 著. コンピュータとネットワーク概論. 共立出版. ISBN 4-320-12148-1. 補足資料は随時配布する				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等	情報基礎、情報基礎実習、プログラミング演習 I および II についての履修を終えていることを前提として授業を進める				
授業外の学習内容・方法	教科書のほかに授業内容に関する有益な情報資源を紹介し、各自の予習復習を促す。				
備考 講義のホームページ等	講義情報 Web ページ: http://www.sakalab.org/lectures/				

学期曜時限	3 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	藤井 敦	オフィスアワー と研究室	水 10:30～11:45 215		
授業概要	コンピュータが人間の日常言語（自然言語）を理解することができれば、私たちの生活に革命的な変化をもたらすことは間違いありません。しかし、自然言語はプログラミング言語のように形式化されていないため、現状では、コンピュータによる完全な処理は空想に過ぎません。他方において、ワードプロセッサ、機械翻訳、情報検索、音声認識などのアプリケーションにおいて、自然言語解析の理論が応用されて一定の成果をあげていることも事実です。本講義は、自然言語解析に関する基礎理論やモデルについて、伝統的な内容から最新事情までを講義します。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然言語解析とは何であるかを理解する。 ・ 自然言語解析の基礎理論とモデルについて理解する。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然言語解析の概要 ・ 形態素解析 (1) ・ 形態素解析 (2) ・ 形式文法 (1) ・ 形式文法 (2) ・ 構文解析 (1) ・ 構文解析 (2) ・ 統計的言語モデル (1) ・ 統計的言語モデル (2) ・ 統計的言語モデル (3) 				
成績評価の方法	筆記による中間試験と期末試験の結果を同等に考慮して成績を評価します。				
教材・教科書・参考書等	必要な資料や参考書等は講義時間に提示します。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	講義時間に説明した内容や演習問題を次回の講義までに復習する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	春日講堂	2 年	2 単位
担当教員	後藤 嘉宏	オフィスアワー と研究室	金 2 限 513		
授業概要	<p>社会学の基礎を学び、それにあわせて情報メディアの比重が大きくなった現代社会を見る目を養おうとする授業科目である。</p> <p>この授業では、社会現象を捉える際の、社会的な物の見方（方法論・捉え方）を学ぶ。特に図書館やマスメディア、インターネットを文科系的に研究する際、アンケート調査やインタビュー調査等を行うことが多いと思われる。そういった調査を行う場合の基本的な考え方、背景にあるものの捉え方を学ぶ。</p> <p>それら社会的な物の見方の修得を経て、メディア社会といわれる現代社会の根本的な流れを受講生各自が自分なりに捉えることを目指す。</p>				
学習・教育目標	<p>社会的な物の見方を学ぶことによって、論理的かつ柔軟に社会を見る眼を養おうとするものである。また世の中の動きを斜に構えた視線から眺め、なにものにも騙されない批判精神が身につく。特に、受講生の皆さんが今後、現代のコミュニケーションやメディア、さらには図書館やネット社会の状況を分析、理解するための一助となるような方法論（「質的調査法」や「量的調査法」等の個々の研究技法の前提となる知識・ものの考え方）が得られる授業を目指したい。</p>				
授業計画	<p>第1週 1. 社会学とは？－その学際性と固有性（1）</p> <p>第2週 1. 社会学とは？（2）</p> <p>第3週 1. 社会学とは？（3）</p> <p>第4週 2. 行為の意味理解について</p> <p>第5週 3. 属性的な理解</p> <p>第6週 4. 性別</p> <p>第7週 5. 年齢</p> <p>第8週 6. 学歴</p> <p>第9週 7. 職業と地位、収入</p> <p>第10週 8. メディアと現代社会（詳細は下記 URL に掲載）</p>				
成績評価の方法	<p>平常点（出席点・質問頻度）と最終レポートないしは最終試験結果を加味する。最終レポートないしは最終試験のいずれにするかは受講生の意向を調査して決める。レポートの評価の観点は、授業内容の適切な要約がなされているか否かと、授業内容への批判の鋭さや適切性、あるいはそれらを補足し発展させる際の説明の独自性等である。これらをあわせて評価する。</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書は使わず、ひたすら板書と口頭説明をする予定である。後藤は板書魔である。配付資料を http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~ygoto/class-uploader.htm にアップするので、それらを各自印刷して授業に臨むことを求めるが、それらもあくまでも参考で、授業の基本は板書である。</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<p>特に本科目を受講するに際して、予備知識はいらない。</p> <p>ただし知識情報・図書館学類の「量的調査法」「質的調査法」「メディア社会文化論」を履修する人にとって、それらの前提となる（あるいは相互に関連する）科目といえる。</p> <p>また本科目の前提知識ではないが、「メディア社会学」を将来きちんと学ぶためには、「統計」「多変量解析」あるいは上記「量的調査法」などを履修して、統計的手法に精通するか、「質的調査法」を履修して、質的調査を熟知しておくことが望まれる。</p>				
授業外の学習内容・方法	<p>単位の实质化に向けて次のようなことを想定・計画している。</p> <p>1. 授業で説明した専門用語の簡単な説明のための小テスト。これは必ずしもペーパーテストの形式に限らず、出欠表で任意に当てた受講生に、答えさせる方式も想定できる。</p> <p>2. 授業の進捗状況によっては、配付資料の一定部分を事前に受講生に読んでおいてもらい、受講生数名ずつグループを組んで貰って、配付資料の知識を前提にした新たなテーマについて討論させ、その結果を授業時間内に発表させる時間を用意する。</p> <p>最低限、配付資料等の予習・復習をきちんと行うことで、上記1, 2には対応できる。</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~ygoto/class-uploader.htm に資料をアップする。</p> <p>ここのページの目的は主に配付資料のアップではあるが、他に、授業に関する連絡に適宜使うこともあるので、授業期間及び試験期間中は注意しておくように。また、ここに昨年度までの学群開設科目「社会学」の過去の配付資料、TA によるノート、板書の画像等がアップされている。</p>				

学期曜時限	1 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	大庭 一郎	オフィスアワー と研究室	水 2 限 113		
授業概要	この講義では、図書館の経営や情報システムの構築に必要な、経営概念、経営管理、意思決定、組織、人間行動等についての基礎を概説する。経営管理機能は、一般に人々が共通の目標を達成するために協同で活動する場合に、常に存在する機能である。そこで、この講義では、経営管理一般についての入門的解説に重点を置いて講義を展開し、あわせて、経営管理論の視点から図書館や情報システムのとらえ方について解説する。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の経営や情報システムの構築に必要な、経営概念、経営管理、意思決定、組織、人間行動等についての基礎知識を理解することができる。 ・人々が協同で活動する際の組織とそれを取り巻く環境について、経営学の視点から考察することができる視野を養うことができる。 ・「経営学検定試験（初級）」に自学自習で取り組めるような、経営学の入門知識を身につけることができる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「経営・組織論」のガイダンス 2. 経営管理とは 3. 経営組織体としての図書館や情報システム 4. 経営の計画 5. 組織化 6. 組織の運営 7. 経営コントロール 8. 経営と情報 9. 「経営・組織論」の総まとめ 10. 「学期末試験」・「授業評価」 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況と授業参画度（発表）（約 20%）、課題レポート（約 30%）、学期末試験（持込不可）（約 50%）によって総合的に判定する。ただし、いずれかの評価項目の成績が著しく低い場合には、減点評価の対象とする。 				
教材・教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：塩次喜代明ほか著．経営管理．東京，有斐閣，1999. 3， xv, 308p.（有斐閣アルマ） ・教科書：野中郁次郎，紺野登．知識経営のすすめ：ナレッジマネジメントとその時代．東京，筑摩書房，1999. 12， 238p.（ちくま新書，225） 				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ・2 年次以上の学生のみ対象。 ・第 1 回目の配布資料と教科書を準備するために、講義開始前に履修希望者数を把握する必要があります。履修希望者は、2008 年 4 月 15 日（火）の午後 1 時まで、T W I N S で履修申告をして下さい。 				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回目の講義開始までに、必ず教科書を購入し、講義に出席すること。 ・第 1 回目の講義を欠席した学生は、この講義の受講を認めないので、十分注意すること。 ・毎回新しいテーマを扱い、欠席するとその後の講義を理解する上で障害になるので、全て出席する覚悟で受講すること。課題レポートの提出の遅れは、認めないので注意すること。 				

学期曜時限	2 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	池内 淳	オフィスアワー と研究室	火 3 限 413		
授業概要	経済学の基礎的概念を踏まえて、図書館やインターネットなど、知識・情報を共有する公共的な仕組みの特性について学習します。また、(1) 公共図書館における無料の原則、(2) デジタルネットワーク環境における知的財産権の在り方といった具体的な問題について、経済学的な観点から検討を加えます。				
学習・教育目標	厚生経済学や公共経済学の基礎的な概念を学習するとともに、知識・情報を共有するシステムに関わる環境の変化と現代的諸問題を認識し、公共性という一貫した視点から、そうした問題にアプローチするための広範な知識の習得を目指します。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 知識・情報の共有現象の拡大と今日的諸問題 (2) 厚生経済学の基礎概念 (3) 市場の失敗と政府の機能 (4) 公共財の性質 (5) 外部性とその内部化方策 (6) 公共図書館における無料の原則 (7) 図書館サービスの課金方針 (8) 費用便益分析 (9) 非市場財の経済評価 (10) 公共財の最適供給 				
成績評価の方法	出席・平常点（50%）と試験（50%）によって総合的に評価します。				
教材・教科書・参考書等	教科書は特に指定しません。教材を配布します。 参考書：J.E.スティグリッツ，公共経済学 第二版 上巻，東洋経済，2003				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業は講義中心ですので、講義内容をきちんと復習してください。				
備考 講義のホームページ等					

GE2 1711

生涯学習と図書館-1,-2

GE2 1721

Lifelong Learning and Libraries-1, -2

学期曜時限	3 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A105 7A106	2 年	2 単位
担当教員	吉田 右子 溝上 智恵子	オフィスアワー と研究室	火 1 限 116 金 3 限 504		
授業概要	<p>現在、わが国では様々な生涯学習活動が実践されている。この授業では、こうした現状を踏まえつつ、その背景にある生涯学習の概念や意義を理解し、生涯学習活動をとおして、自らの人生を切り拓き社会を改革してゆくための視点を学ぶとともに、学習活動を効果的に援助する政策の在りようについて考察する。</p> <p>生涯学習は、社会教育、学校教育や家庭教育も含めた広い概念であるが、それらの歴史的展開過程を踏まえつつ、生涯学習を支える制度等の概略を明らかにする。あわせて生涯学習社会の未来像を展望しながら、図書館を含めた社会教育の在り方などについて焦点をあてる。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を通して、様々な生涯学習活動に関わる基本的な知識を修得する。 ・生涯学習を取り巻く現代的課題を踏まえて、生涯学習プログラムを計画・立案していくための基本的スキルを修得する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODAGクシヨン：情報化と生涯学習 2 生涯学習の行政 3 生涯学習と評価 4 生涯学習論の系譜と歴史 5 日本における生涯学習の導入と展開成人教育の発展 6 現代的課題（少子・高齢化対応、環境問題、男女共同参画など）と生涯学習 1 7 現代的課題（少子・高齢化対応、環境問題、男女共同参画など）と生涯学習 2 8 リカレント教育と大学開放 9 博物館と生涯学習 10 ボランティアと生涯学習 11 図書館と生涯学習 12 まとめ 				
成績評価の方法	学期末試験 60%、レポート 40%として評価し、受講態度などを考慮して最終的に評価する。レポートは形式・内容の両観点から評価を行う。				
教材・教科書・参考書等	教科書不要、参考資料については授業中に随時紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	学籍番号の末尾が奇数の学生は「生涯学習と図書館-1」を、偶数の学生は「生涯学習と図書館-2」を履修のこと。				
授業外の学習内容・方法	授業時に配布した資料を読み直すとともに、授業で紹介された参考資料を読み、関連ウェブサイトを閲覧する。				
備考 講義のホームページ等					

GE2 1812 テクスト解釈-1

Comprehension of Text -1

学期曜時限	2・3 学期 金曜日 3 時限	教室	7A202	2 年	2 単位
担当教員	黒古 一夫	オフィスアワー と研究室	木 3 限 (1・2 学期), 木 5・6 限 (3 学期) 503		
授業概要	本授業では、「小説」というテキストを題材に、どのような「読み」＝解釈が可能なのか、具体的な作品（よしもとばなな「キッチン」、村上春樹「アフターダーク」、林京子「祭りの場」、大江健三郎「個人的な体験」など）を通して検討し、「読み」＝解釈の多様性を考察する。また同時に、その「読み」＝解釈の多様性が社会や時代状況との関係によって作り出されるものであることを学ぶ。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者は、まず日本の現代文学がどのような状況にあるか、またそれはどのような「よみ」＝解釈を可能にしているのかを理解すること。 ・ またそれは、具体的な作品を実際に読み、分析・検討することから実現されることを学ぶ。 ・ 4 人の作家（作品）を読むことによって、その多様性を読み取る。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～4 週：現代文学講義（概論：現代文学はどのような状況にあるか） ・ 5～8 週：よしもとばなな「キッチン」を読む ・ 9～12 週：村上春樹「アフターダーク」を読む ・ 13～16 週：林京子「祭りの場」を読む ・ 17～20 週：大江健三郎「個人的な体験」を読む ・ 21 週：試験（ないしは「まとめ」） 				
成績評価の方法	受講生の人数によって、「試験」か「レポート」かを定める。レポートの場合、授業中の報告を課す場合がある。				
教材・教科書・参考書等	教科書（テキスト）として指定はしないが、様々な形で流布しているもの（例えば文庫本）を各自用意する。 また、参考文献としては、黒古の著作（図書館にあり）を読むことが望ましい（強制はしない）				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	何より大事なのは、ただ講義を聴いているのではなく、作品を読むこと。それにできれば、様々な「読み」＝解釈が可能であることを、参考文献を読むことによって実践的に知ってほしい。				
備考 講義のホームページ等	時間があったら黒古のブログ（ http://blog.goo.ne.jp/kuroko503 ）を読んで欲しい。				

学期曜時限	2・3 学期 金曜日 3 時限	教室	7A203	2 年	2 単位
担当教員	松本 浩一	オフィスアワー と研究室	火 2 限 301		
授業概要	漢文テキストの解釈を通じて、言語および意味の視点から、メディアの読解に関する基礎的なトレーニングを行う。				
学習・教育目標	標準的な漢文を、日本独自の読み方である訓読の方法によって読解する能力、および漢文読解のための基本的なツールを使いこなす能力を身につけると同時に、この方法によって日本語と構文が異なる漢文をどのように理解し解釈していったかを学ぶ。				
授業計画	漢籍古典の一大叢書である、「四庫全書」の解題付き目録である『四庫全書総目提要』を読み進めていく。はじめは訓点付きのテキストを用い、慣れてきたら句点付きの白文テキストを使用する。今年度は「史部」の部分から読み進める。始めに受講者それぞれの担当部分を決めておき、授業では担当者が、はじめに訓読で読み、その後現代日本語で解釈するという順序で進めていく。そのため受講者は、次の授業で読み進める部分を予習しておく必要がある。				
成績評価の方法	基本的に出席を重視する。さらに授業における発言と、最後に担当した部分についてのレポートによって評価する。				
教材・教科書・参考書等	テキストはプリントを配布する。 漢和辞典は必須アイテムであるが、手持ちのものでよい。漢文の文法書や参考書については、授業の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	担当した部分についての下調べが必要である。				
備考 講義のホームページ等					

GE2 1832 テクスト解釈-3

Comprehension of Text -3

学期曜時限	2・3 学期 金曜日 6 時限	教室	7A202	2 年	2 単位
担当教員	綿拔 豊昭	オフィスアワー と研究室	水 1 限 511		
授業概要	<p>古来、日本では多くの和歌集が編纂された。その中で日本の伝統文化にもっとも影響を与えたものの一つが藤原定家の編んだ「小倉百人一首」である。その「百人一首」をテキストとして、収録和歌および選集そのものの解釈などを通じて、言葉および意味などの視点から、メディアの読解などに関する基礎的なトレーニングを行う。</p>				
学習・教育目標	<p>編纂者の視線を理解 享受者の視線を理解 日本文化の一特質の理解</p>				
授業計画	<p>1 「百人一首」について 2～5 巻頭・巻尾について 6～9 春の和歌について 10～13 秋の歌について 14 日本の季節感について 15～19 恋について 20 試験</p>				
成績評価の方法	試験 70 点 出席 30 点				
教材・教科書・参考書等	教科書 「百人一首集Ⅱ」桂書房、1, 500 円				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	<p>使用テキストには現代語訳、作者略歴、語注などはないので、そうしたものを講義がはじまる前に予習する。復習は、予習事項と講義中の説明との違いなどを整理する。</p>				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1・2 学期 水曜日 5・6 時限	教室	7A205 春日講堂	2 年	1 単位
担当教員	緑川信之・佐藤哲司・大庭一郎	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	この科目では、(1)知識情報・図書館学類で学ぶ学問領域が、社会の中でどのような役割を担っているのか、(2)この学問領域を学び、分野に応じた専門知識・技術を身につけることで、どのような社会貢献ができるようになるのかについて、講義やキャリアポートフォリオ (TCPF) を活用した演習等を通じて理解を深める。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・知識情報・図書館学類で学ぶ学問領域が、社会の中でどのような役割を担っているのか理解できる。 ・この学問領域を学び、分野に応じた専門知識・技術を身につけることで、どのような社会貢献ができるようになるのか理解できる。 ・知識情報・図書館学類の主専攻の概要、主専攻と社会との接点について理解できる。 ・就業の意義や 10 年後の自分をイメージすることによって、大学における基礎教養・専門科目の履修指針を再確認できる。 				
授業計画	<p>【1 学期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス／知識情報・図書館学類で学ぶ学問 (図書館情報学／知識情報学) の世界 2. 2 年次の目標シート (TCPF) の作成／職業興味シートの作成／グループワーク 3. 知識情報・図書館学類の最前線 (活用領域：外部講師の講演) (1) 4. 知識情報・図書館学類の最前線 (活用領域：外部講師の講演) (2) 5. 知識情報・図書館学類の最前線 (活用領域：外部講師の講演) (3) <p>【2 学期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 主専攻の世界(1)：知識科学主専攻 7. 主専攻の世界(2)：知識情報システム主専攻 8. 主専攻の世界(3)：情報経営・図書館主専攻 9. 知識情報・図書館学類からの飛躍 (大学院進学・海外留学) 10. 新しい目標シート (TCPF) の作成／グループワーク／まとめ／授業評価 				
成績評価の方法	・出席状況，課題レポート (複数回) によって総合的に判定する。				
教材・教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回，キャリアポートフォリオ (TCPF) を持参すること。 ・必要に応じて資料を配布する。参考文献は，適宜，紹介する。 				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	・知識情報・図書館学類の 2 年次生と 3 年次編入生対象。				
授業外の学習内容・方法	適宜，レポートを課す。				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> ・知識情報・図書館学類の 2 年生は履修することが望ましい。 ・各月の第 1 週と第 2 週の水曜 5・6 時限を主に利用して，1・2 学期を通じて開講する。日程は，第 1 回のガイダンスで説明する。 				

学期曜時限	1 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	平久江 祐司	オフィスアワー と研究室	月 3 限 404		
授業概要	学校図書館の現状と学校図書館経営の基本的事項について解説し、学校教育と学校図書館活動の有機的な連携の在り方を考える。				
学習・教育目標	「授業計画」に掲げた 9 項目についての基礎的知識や重要な概念を習得するとともに、それらについて考察し、自己の見解や主張を形成する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育と学校図書館経営 2. 学校図書館の現状と課題 3. 学習情報センターとしての学校図書館の役割 4. 学校図書館法の制定とその改正運動 5. 米国の学校図書館制度 6. 学校図書館経営の計画 7. 学校図書館運営の実際 8. 学校図書館経営の評価 9. 学校図書館担当者の役割 				
成績評価の方法	期末試験やレポート等により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	全国学校図書館協議会編『学校図書館・司書教諭講習資料』第 5 版, 全国学校図書館協議会, 2006, 261p.				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等	司書教諭科目をすべて履修することが望ましい。また, 教職関連科目を履修していることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	レポートの詳細については学期の中頃に発表する。レポートの分量は原稿用紙 6 枚程度で, 期末試験時に提出する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	平久江 祐司	オフィスアワー と研究室	月 3 限 404		
授業概要	学校図書館及び学校図書館メディアを効果的に活用する学習指導計画の立案，教師や児童・生徒に対する司書教諭の支援の在り方等について解説し，メディア活用能力育成のための学習指導の在り方について理解を図る。				
学習・教育目標	「授業計画」に掲げた 10 項目についての基礎的知識や重要な概念を習得するとともに，それらについて考察し，自己の見解や主張を形成する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導における学校図書館の役割 2. 学習指導における情報・メディアの活用 3. 学校図書館における利用指導の変遷 4. 学校図書館における情報提供サービス 5. 学校図書館におけるメディア活用能力の育成 6. 学校図書館における利用指導の理論的展開 7. 学校図書館メディアの利用指導計画の立案 8. 学校図書館メディアの利用指導計画の展開 9. 学校図書館メディアの利用指導計画の評価 10. 学習支援における司書教諭の役割 				
成績評価の方法	期末試験やレポート等により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配布する。また教科書・参考書等については講義の初回に説明する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	司書教諭科目をすべて履修することが望ましい。教職関連科目を履修していることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	レポートの詳細については学期の中頃に発表する。レポートの分量は原稿用紙 6 枚程度で，期末試験時に提出する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	吉田 右子	オフィスアワー と研究室	火 1 限 116		
授業概要	この授業では学校図書館メディアに関する技術を学びながら、学校図書館におけるコレクションの形成について総合的に考えていく。さらに、すぐれたサービスを行なっている日本とアメリカの学校図書館（メディアセンター）の事例を紹介し、学校図書館のコレクションがいかにあるべきかを探っていきたい。				
学習・教育目標	<p>受講生が学校図書館メディアについて自分なりの考えをまとめていく機会を持てるよう授業を構成し、次のような目標を達成する。</p> <p>(1) 学校図書館メディアに関わる基本的な知識を修得する。</p> <p>(2) 学校図書館メディアに関わる様々な資料から学校図書館の持つ課題を理解し、司書教諭の役割と結びつけて考えられるようになる。</p>				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・学校図書館メディアとメディアの構成・メディア専門職 ・メディアの種類 ・メディアにかかわる情報源 ・コレクション形成の方針 ・コレクション形成の計画 ・メディアへのアクセス支援 ・学校図書館メディアの組織化(1) ・学校図書館メディアの組織化(2) ・まとめ 				
成績評価の方法	授業の進行に合わせて出題する数回のレポートを中心に、最終的には受講態度などを考慮して総合的に評価する。レポートは形式および内容から評価する。受講態度 (30%) とレポート (70%) で成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業で使う資料と参考資料については、授業中に示す。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	<p>予習：次回の教材に目を通し、概要をつかんでおく。</p> <p>復習：授業で紹介したウェブサイトを通覧する。</p>				
備考 講義のホームページ等					

GE4 0501 情報メディアの活用

Use of Information Media

学期曜時限	集中 7/2, 3, 4, 5	教室	7A205 春日実習室 I	3 年	2 単位
担当教員	大澤 文人	オフィスアワー と研究室	火 11:00~12:00 115		
授業概要	今日では、学校図書館が所蔵する活字メディアや視聴覚メディア、教育用ソフトウェアなどに加えて、外部のデータベースやインターネット情報資源から多種多様な情報メディアが利用可能であるが、それぞれの特性を踏まえながら、これらを教育の現場で活用していく方法について解説する。特にコンピュータとインターネットを活用する方法に重点を置き、かつ実践的演習を含めて授業を進める。				
学習・教育目標	メディア教育の場で利用できるコンピュータ活用スキルの習得を目標とする。画像処理、音声処理を行って教材作成ができることが主な内容である。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度情報社会と情報メディア 2. 情報メディアの種類と特性 3. 視聴覚メディアの意義と活用 4. コンピュータの活用 5. データベースと情報検索 6. インターネットと情報検索・情報発信 7. 情報メディアと著作権 8. 情報セキュリティ 				
成績評価の方法	出席、毎回行う小テスト、レポート課題による。レポート課題はマルチメディアを使った教材を作成してもらうが、テクニク的なことより教育的観点が重視されたものを評価する。				
教材・教科書・参考書等	資料を授業時に配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	司書教諭科目をすべて履修することが望ましい。また、何れかの教科教育法を履修中であることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	授業中には資料をかなりの量、配布する。毎回、範囲を指定するので、授業の前後でよく読んでおくこと。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 水曜日 1・2時限	教室	7A201	3・4年	2単位
担当教員	佐藤 哲司	オフィスアワー と研究室	火5・6限 205		
授業概要	電子出版、ウェブでの情報発信など、デジタル化によって書籍の出版・流通・利用の形態が大きく変容してきている状況を視野に入れ、編集や検索、翻訳など、テキストを有効利用するための要素となるテキスト処理技術と、これらの技術を応用した様々なシステムについて理解を深めます。				
学習・教育目標	テキスト処理の要素技術を習得し、様々なシステムの中で実現されている機能を理解することで、テキストの作成・管理・流通を効率よく行う基礎知識を習得する。より高度なテキスト処理技術への発展や、新規な機能を有するシステムを研究開発するための基本スキルを身につけことを目標とします。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 文字コードの成り立ちとコード変換 ● 統計量に基づく文字コード識別 ● テキストの構造理解 ● テキスト流通とデスクトップパブリッシング ● XMLによる文書の構造化 ● 文字列照合と正規表現 ● 文書からの索引構成法 ● 文書の特徴量と文書間の類似性判別 ● 情報検索の評価方法と文書推薦への応用 				
成績評価の方法	筆記試験による評価。				
教材・教科書・参考書等	主要部分についてテキストを配布します（配布方法は備考欄を参照のこと）。 参考書：情報検索アルゴリズム，北研二 他著，共立出版				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内容・方法	各回の講義後半は演習問題に取り組みます。講義時間中には解法の筋道を示すことに重点を置くので、授業外の時間を活用して具体的なデータで実践してください。				
備考 講義のホームページ等	講義で使用するテキストは http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~satoh/index-j.html から迎れるようにしますので、各自で所定の様式に印刷して持参してください。詳細は第1回に説明します。				

学期曜時限	2 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A201	3・4 年	2 単位
担当教員	森継 修一	オフィスアワー と研究室	火 18:00～19:30 214		
授業概要	知識情報システム構築の基礎となる基本的なデータ構造とアルゴリズムについて解説する。コンピュータ科学の立場から、既修の数学的知識を活用して、効率的アルゴリズムの設計・解析・評価を行うことを目指す。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的なアルゴリズムとデータ構造を理解する。 ● 与えられたアルゴリズムに即したプログラミングができるようになる。 ● コンピュータ科学におけるレポートのまとめ方を身に付ける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アルゴリズムの計算量 計算量の定義とアルゴリズムの評価・高速アルゴリズムの設計法 2. 探索アルゴリズム 2分探索木・平衡木・B木・ハッシュ法など。 3. 整列アルゴリズム 特に2次記憶上のデータのソートについて。 4. グラフのアルゴリズム オイラーグラフ/通路/回路・2部グラフにおけるマッチング・ネットワーク 5. 多項式のアルゴリズム 多項式乗算の高速化・FFT の利用 				
成績評価の方法	複数回のレポートの総合点による。 (試験でないからといって単位が保証されているわけではない。)				
教材・教科書・参考書等	参考書：『岩波講座ソフトウェア科学3 アルゴリズムとデータ構造』石畑清，岩波書店(1989) 参考書：『岩波講座情報科学11 データ管理算法』渋谷政昭・山本毅雄，岩波書店(1983) 参考書：『アルゴリズム+データ構造=プログラム』Niklaus Wirth, 日本コンピュータ協会(1979)				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	「情報数学」「基礎数学 A」「基礎数学 B」「プログラミング演習 I」「プログラミング演習 II」の単位をすべて取得済みの者に限る。				
授業外の学習内容・方法	その日の授業内容に関連する課題を毎週示す。すべての提出を義務付けるものではないが、単位が認定されるためには、規定回数以上のレポートで合格点を取る必要がある。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	吉田 右子	オフィスアワー と研究室	水 1 限 116		
授業概要	図書館コレクションをめぐるさまざまな問題を取り上げ、それらを図書館内部（図書館界での議論）と図書館外部（出版界などでの議論）の両面から考えていく。また現在、図書館コレクションが直面している課題について関連資料を示しながら言及する。さらにアメリカの先進的事例についても随時紹介し、図書館コレクションへの理解を深める。				
学習・教育目標	<p>受講生が図書館コレクションについて自分なりの考えをまとめていく機会を持てるよう授業を構成し、次のような目標を達成する。</p> <p>(1) コレクション形成の基本的な知識を修得する。</p> <p>(2) コレクション形成に関する様々な資料から、コレクションをとりまく状況を総合的に理解する。</p>				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・図書館資料とは ・図書館資料の種類 1（印刷資料） ・図書館資料の種類 2（非印刷資料） ・コレクション形成のプロセス ・資料の選択 ・資料の収集・蓄積・保管 ・コレクション形成と図書館の自由 ・コレクション形成と出版流通 ・まとめ。 				
成績評価の方法	授業の進行に合わせて出題する数回のレポートを中心に評価する。最終的には受講態度などを考慮して総合的に評価する。レポートは形式および内容から評価する。受講態度（30%）とレポート（70%）で成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業で使う資料と参考資料については、授業中に示す。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	<p>予習：次回の教材に目を通し、概要をつかんでおく。</p> <p>復習：授業で紹介したウェブサイトを通覧する。</p>				
備考 講義のホームページ等					

MEMO

科目シラバス（自由科目）

学期曜時限	1～3 学期 集中	教室	—	1～4 年	1 単位
担当教員	平久江 祐司 鈴木 佳苗	オフィスアワー と研究室	月 3 時限 404 木 4 時限 112		
授業概要	知識情報・図書館学類の専門領域が活用される公共的な現場において、教員・専門家の指導のもとで、その実務の一端を体験する。対象となる実習は、学類の教育課程グループによって審査された認定プログラムであり、各プログラム単位で参加者の募集を行う。参加者は、希望する実習担当の教員と面談し、実習前に指導を受け、実習中、実習後に活動の報告を行う。				
学習・教育目標	社会体験実習を通して、知識情報・図書館学における専門的知識・技術を深める。また、実社会における学問領域の位置づけ・意義を理解する。				
授業計画	<p>詳細は実習ごとに異なるため、以下には実習の例を示す。 単位取得には、いずれの実習においても年間で 40 時間以上の活動への参加が求められる。</p> <p>○つくば市の小中学校における読書指導ボランティア 学生がつくば市の小学生・中学生に読み聞かせや音読の仕方を指導する。 読み聞かせについては、さらに、異校種、異年齢間の読み聞かせ体験活動をサポートする。 ・活動頻度：2～3 か月集中（週 2～3 日、1 回 2～3 時間）、ただし、小中学校の予定により、各学期に 1 か月、年間の合計が 2～3 か月になる場合がある。</p> <p>○つくば市の小学校における学校図書館ボランティア つくば市の公立小学校において学校図書館協力員として図書館の運営等の協力を行う。 ・活動内容は派遣された学校の状況によって異なる。 ・活動頻度：毎週 1 回～2 回で原則として 1 年間を通して行う。活動時間は学期ごとに調整する。</p>				
成績評価の方法	参加計画書、実習中の記録、実習後の報告書、および実習先機関の評価を中心に行う。				
教材・教科書・参考書等	実習の内容に沿った参考資料を配布し、適宜参考文献を紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	詳細は実習ごとに異なるが、基本的には、配布した参考資料、紹介した参考文献を実習の前に読み、実習後には活動の記録をつけることにより、ふりかえりと次回の実習での改善点をまとめることとする。				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会体験実習には、個人でのボランティア活動、一般的なアルバイト(社会体験)は含まれない。 ・ プログラムごとに参加者を個別に募集するので、履修希望者は掲示を確認すること。 ・ 実習（集中）と他の授業が重ならないように、履修前に担当教員と相談すること。 				

学期曜時限	1～3 学期・集中 初回に日程調整 4/15 (火) 5 限に 7A202 集合	教室	未定	2 年	1.5 単位
担当教員	石井 啓豊	オフィスアワー と研究室	水 2 限 315		
授業概要	<p>テーマ 情報学の基盤：思考の多様性と展開を学ぶ</p> <p>情報学は新しい領域であり、統一的な体系化された領域として確立しているわけでは必ずしもない。例えば、情報概念も自然、人工物、社会、人間などを対象とした多様な世界で取り上げられており、システムやメディア、コミュニケーション、記号、社会構造、生命等々の多様な領域の諸概念と関連しあっている。本授業では、この情報学に含まれる多様性とそこに含まれる思考のあり方を、情報学の基本的な著作を読むことを通じて学ぶ。</p>				
学習・教育目標	<p>この授業の目的は、情報学の基本的な著作を読むことと、多様な立場、領域からの討論を通じて、情報学の思考のあり方を深く理解することである。また、本来の目標ではないが、内容の要約技術、要点の把握方法、討議の方法等についても、スキルを磨くことができる。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報学に関する基礎的、入門的著作を全員で読み進める。日本語の著作を中心とすること、読み進む上での多様な展開の可能性を持つことを考慮して、西垣通の「基礎情報学－生命から社会へ」を最初の手がかりとする。 2. 次に、そこに現れる様々な視点や概念、問題の中から、各自の関心に応じた世界（例えば、工学的世界や社会的世界、生物学的世界など）を選び、その世界の情報学的視点からの関連書を読む。この過程で、その世界の入門的理解を得るとともに重要な著作リストを作成する。 3. それぞれが自分の世界の重要著作を順次読み進める。 4. 1～3において、読書を進めると同時に、毎回その概要を作成し、その内容を授業の中で紹介しあう。この紹介を材料として討議を通じて、情報学についての理解を深めていく。 5. 「知的探究の世界 I」では、1 と 2 を中心に進め、「知的探究の世界 II」では、3, 4 を中心に進める。 <p>なお、授業は、隔週に 2 コマ連続で開講する予定である。</p>				
成績評価の方法	毎回のレポートと授業での発言等によって評価する。				
教材・教科書・参考書等	最初の教材：西垣通著「基礎情報学－生命から社会へ」NTT出版(2,625円)				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<p>定員は 3 名から 5 名とする。2 名以下の場合には開講しない。人数が定員を超過する場合は、各自の関心領域と問題意識について記した簡単なレポートによって選考する（初回に指示する）。</p> <p>「知的探究の世界 I」を受講せずに「知的探究の世界 II」を受講することはできない。</p>				
授業外の学習内容・方法	毎回の授業で報告するために、読書とともに、読み進んだ部分の概要をまとめて提出する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1~3 学期・集中 初回に日程調整 4/15 (火) 6 限に研究棟 314 集合	教室	未定	2 年	1.5 単位
担当教員	鎮目 浩輔	オフィスアワー と研究室	木 3 限 314		
授業概要	<p>テーマ 量子計算と量子情報</p> <p>量子計算と量子情報は、物理の基本法則である量子力学がもつ特殊な性質を計算や通信に生かし、新しい情報処理技術を作ろうとするものである。全く異なる理論（量子力学、計算理論、通信理論）が相互作用する珍しい分野でもある。</p> <p>最初に基礎的な事項を講義し、次にこの分野の入門的な文献（英語）の購読を行う。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 量子力学、計算理論、通信理論の入門的な概念の理解 英語の文献を読み、理解し、それを人に伝えるための訓練 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 基礎的な概念と数学の復習 文献の購読。しばらくは英文和訳の訓練。英語に慣れてきたら内容の要約、さらに発表形式に移っていく。 内容は、 <ol style="list-style-type: none"> 数学的基礎:主にベクトルと行列 計算の理論、量子力学の入門的事項 量子計算入門 				
成績評価の方法	毎回の出席と活動度				
教材・教科書・参考書等	プリント配布				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	基礎数学 A, B 及び統計を履修していることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	プリントに練習問題を多く入れるので、それを解きつつプリントやノートで復習すること。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1～3 学期・集中 初回に日程調整 4/14 (月) 5 限に研究棟 202 集合	教室	教員研究室 (研究棟 202)	2 年	1.5 単位
担当教員	松本 紳	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	<p>テーマ 相対性理論の世界と量子力学の世界</p> <p>現代物理学の基礎をなす、相対性理論と量子力学について最初は啓蒙書のような入門書を勉強し、徐々に専門書のレベルまで何冊かの本を輪講する。この2つの理論は、名前はよく知られているが内容を詳しく知らない場合が多い。これらの世界では、多くの点で我々の見聞きする常識とは違った世界が展開されている。今後、ますます重要になるこれらの理論の理解を少しでも体験できればよいと考えている。また、相対性理論はその体系が数学的に美しいといわれているが、より深い数学的な知識や興味も得られればよいと考えている。</p>				
学習・教育目標	<p>知的探求の世界 I では、平易な啓蒙書を読んで、量子力学と相対性理論が明らかにする世界像を理解する。また、知的探求の世界 II で行なう専門書を読みこなせるようにするための基礎力を習得する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 相対性理論の世界 (入門書) 2 量子力学の世界 (入門書) 3 相対性理論 (中級書) 4 量子力学 (中級書) <p>授業は輪講形式で行なう。輪講とは、各人に割り当てを決め、担当箇所を事前に調べ、授業では、その箇所を読んで理解した点を説明する形式である。</p>				
成績評価の方法	出席、毎回行なう輪講の準備状況とレポート				
教材・教科書・参考書等	授業の最初に指定する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<p>数学を必要とするので、基礎数学を履修していることが望ましい。(高校において物理を履修していなくてもよい)</p> <p>定員は 8 名以内(目安)。定員が 3 名に満たない場合は、開講しない場合がある。</p>				
授業外の学習内容・方法	<p>輪講形式なので、毎回、事前の下調べや担当割当者は、発表の準備などが必要となる。</p> <p>また、担当者以外も当然のことであるが、予習・復習は必要である。</p>				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1～3 学期・集中 初回に日程調整 4/15 (火) 6 限に研究棟 215 集合	教室	未定	2 年	1.5 単位
担当教員	藤井 敦	オフィスアワー と研究室	水 10:30～11:45 215		
授業概要	<p>テーマ 自然言語処理: 実践しながら身に付ける研究能力</p> <p>本講義の目的は 2 つあります。1 つは、「自然言語処理」に関する基礎知識を身に付けることです。自然言語処理は、「計算機が自然言語（人間の日常言語）を自在に操作できる」ことを志向した研究領域です。そこで、自然言語のモデルを組立てながら、自然言語の本質を解明する研究が行われています。本講義では、輪読や演習を通して自然言語のモデルについて学びます。これは、機械翻訳、情報検索、ロボットとの対話、音声認識などの研究においても役立つ知識です。もう 1 つは、自然言語処理の勉強を通して、「研究リテラシー」を身に付けることです。研究リテラシーとは、調査研究を行うために必要とされる知識や技能であり、皆さんが卒業研究で必ずつまづく要因です。本講義では、特に「学術文献の読み方」、「論文の書き方」、「発表と質疑応答の技術」に焦点を当てます。これらは、専門分野を問わずに重要であり、一般社会でも必要とされる能力です。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然言語処理の基礎について理解する。 ・ 文献の読み方、論文の書き方、プレゼンテーション能力を身につける。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回担当者を決めて、文献を講読し、その内容を紹介してもらいます。 ・ 担当する回数や分量は、受講者数や相談によって決める予定です。 				
成績評価の方法	担当の講読をこなしたかどうか判断して成績を評価します。				
教材・教科書・参考書等	必要な資料や参考書等は講義時間に提示します。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定員 8 名ほどを予定しています。 ・ 人数が少ないと担当回数の調整が難しくなるので、友人と共に受講するとよいでしょう。 ・ もちろんひとりで受講することも結構です。 				
授業外の学習内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当が回ってきたら、文献の講読とプレゼンテーションの準備を授業前に行う。 ・ 講義時間内の内容を次回までに復習する。 				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション能力を身につけたい人や高めたい人は奮って受講して下さい。 ・ 3 学期に開講される「自然言語解析基礎 (GE2 1301)」にも役立つ内容です。 				

学期曜時限	1～3 学期・集中 初回に日程調整 4/17 (木) 18:10 に 7A202 集合	教室	未定	2 年	1.5 単位
担当教員	阪口 哲男	オフィスアワー と研究室	1・2 学期 火 4 限 312 3 学期 木 5・6 限 312		
授業概要	<p>テーマ ソースコード購読</p> <p>コンピュータソフトウェアには、「オープンソース」のような呼称の下にソフトウェアのソースプログラムコード(ソースコード)を公開し、有志を募ってその開発や保守作業を行うものが数多くある。それらのソースコードは様々な人によって練り上げられているため、その構成手法や使用されている技術、記法を知ることには自らのプログラミングやソフトウェア開発技術向上に役立つ。</p> <p>本テーマは、このような観点からソースコードが公開されている様々なソフトウェアを読み解いていくものである。最初は小規模な部品のソフトウェアから始め、徐々に大規模なソフトウェアへと読み進める。また、それらのソフトウェアで使用されているプログラミング言語の習得も同時に進める。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者が記述したプログラムの読解能力を身につける ・ 現実に使われているプログラミング技術を理解する ・ プログラムを複数人で開発する際に必要な事項について知る 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソースコードの公開とオープンソース活動とは 2. 公開されているソースコードで多用されるプログラミング言語(C 言語など)について 3. 小規模なソフトウェアのソースコードを読む 4. ソースコードが公開されているソフトウェアの付属文書を読む (ソフトウェアの導入作業や前提環境の意味を理解する) 5. 中規模・大規模なソースコードの全体構造を捉える 6. 中規模・大規模なソースコードの一部を読む <p>ソースコードは輪読形式で読み進める。その過程で意味や機能などについて随時討論を行う。</p>				
成績評価の方法	輪読における討論などの発言頻度やその内容、および読み終えたソースコードに関するレポートを数回程度提出してもらい、その理解度を評価する。				
教材・教科書・参考書等	資料を配布する。 参考書についても随時紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	受講者の定員は原則として 6 名とする。 また、受講者数が 2 名未満の場合は開講しない。				
授業外の学習内 容・方法	ソースコードの輪読の分担部分の解説を授業中に行うので、その部分や関連事項についての時間外での予習・復習を行ってもらうことになる。				
備考 講義のホームページ等	授業情報 Web ページ: http://www.sakalab.org/lectures/ 初回は 4 月 17 日(木)の 18:10 から 7A202 教室で、授業概要の説明と受講意志確認、およびスケジュール調整を行う。				

学期曜時限	1～3 学期 火曜日 5・6 時限 (隔週開講)	教室	7A206	2 年	1.5 単位
担当教員	大庭 一郎	オフィスアワー と研究室	水 2 限 113		
授業概要	<p>テーマ 図書館の基礎を考える</p> <p>この授業では、図書館（特に、公共図書館）の基盤を考えるために、(1)日本と諸外国の社会、行政機構、文化に関する文献、(2)図書館を支える幅広い教養（人文、社会、自然）に関する文献、(3)経営学や組織論に関する文献、等を読み、要約・発表・討論する過程を通じて、幅広いものの見方、考え方、価値観を学ぶ。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)日本と諸外国の社会、行政機構、文化に関する文献、(2)図書館を支える幅広い教養（人文、社会、自然）に関する文献、(3)経営学や組織論に関する文献、等を読むことによって、幅広い視野で図書館を理解することができる。 ・図書館等の情報サービス機関の情報専門職を目指す者に必要な、幅広い教養力の基礎を身につけることができる。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、火曜日の5・6時限に隔週で開講する。 ・1学期から3学期までを通じて、(1)日本と諸外国の社会、行政機構、文化に関する文献、(2)図書館を支える幅広い教養（人文、社会、自然）に関する文献、(3)経営学や組織論に関する文献、等を取り上げ、それらの課題文献に関する講義、発表、討論を行う。 ・受講生は、毎週、課題文献を読み、文献レポートを作成した上で授業に出席すること。 ・第2回目の授業の際に、開講予定日、文献レポートのまとめ方、等について解説する。 ・夏季休業の初日（2008年7月2日（水））には、大学図書館と公共図書館の見学会を実施する予定である。 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況（約30%）、授業参画度（発表・討論）（約30%）、文献レポート（約40%）によって総合的に判定する。ただし、いずれかの評価項目の成績が著しく低い場合には、減点評価の対象とする。 				
教材・教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、課題文献（図書や雑誌論文）を指示する。課題図書は、新書や文庫を中心に選定する予定であるが、必ず購入して、授業に出席すること。 				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の学生のみ対象。定員は、5名から6名とする（2名以下の場合は開講しない）。 ・図書館等の情報専門職を強く目指している者、および、図書館に関心があり大学院への進学を目指している者が履修することが望ましい。 ・授業の履修には、(1)本学類で2年次から4年次まで実施する公務員試験準備講座（教養模擬試験）に参加すること、(2)今年度から実務教育出版の「公務員合格講座」、もしくは、早稲田セミナー主催「筑波大学公務員試験対策講座」の受講生になること、の2点を必須要件とする。 ・第1回目の配布資料準備のため、講義開始前に履修希望者数を把握する必要があります。履修希望者は、2008年4月14日（月）の午後1時まで、TWINsで履修申告をして下さい。 ・人数が定員を超える場合は、4月15日（火）に小テストと課題レポートを課して選考する。 ・「知的探求の世界 I」の未履修者は、「知的探求の世界 II」を履修することはできない。 				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の授業を欠席した学生は、この授業の受講を認めないので、十分注意すること。 ・毎回新しいテーマを扱い、欠席するとその後の授業を理解する上で障害になるので、全て出席する覚悟で受講すること。 				

MEMO

解 説

履修のてびき

1. 履修要覧と履修に関する相談窓口

入学時に配布された「履修要覧」は卒業時まで保管してください。卒業要件や資格取得の条件は、入学年度の履修要覧に記載されたものが適用されます。紛失しても再配布できません。「開設授業科目一覧」と「知識情報・図書館学類シラバス」は毎年4月にその年度用のものが配布されます。科目番号や開講学期・曜時限、担当者等が変わることもあるので、科目一覧やシラバスは必ず当該年度のものを参照してください。

卒業要件や資格に関する履修方法の相談（特に、規則に関して不明な点）は、学群学務係が窓口です。先輩や同級生の体験談やうわさ話を鵜呑みにせず、わからないことはたとえ小さなことでも学群学務係であなた自身が確認してください。卒業できなかったり、資格が取得できなかったりするの、あなた自身です。

2. クラス制度とクラス担任の役割

本学類では1学年を4クラス（概ね25名）で編成します。3年次編入生は別に1クラス（概ね10名）を編成します。1年次は、1学期に「フレッシュマン・セミナー」、2～3学期に「情報リテラシ実習」と、クラス担任が担当する授業が年間を通じて毎週開講されます。共に必修科目です。本学類ではリテラシ教育とキャリア教育に重点を置いて、学類共通のプログラムによって、これらの授業をすすめます。

クラス担任からは履修・学習についての相談だけでなく、進路、生活など、さまざまな面で助けを得ることができます。2年次以降もクラス担任は原則として交替せず、あなたとの関係は卒業まで継続します。

3. 卒業要件と進級

授業を履修して期末試験に合格すると所定の単位が与えられます。大学を卒業するためには、主専攻ごとに定められた「卒業に必要な履修科目および修得単位数」に基づいて、所定の単位数以上を修得しなければなりません。これを「卒業要件」と呼びます。本学では共通科目、関連科目、専門基礎科目、専門科目という4種類の区分ごとに、必修科目、選択科目、自由科目という3つのカテゴリに分けて、履修科目と修得単位数が指定されており、全ての条件を満たさなければなりません。本学類の卒業要件は情報学群履修細則（以下、細則）の別表1に定められています。詳しくは科目選択ガイドをご覧ください。また、「卒業に必要な履修科目」を「卒業要件科目」と呼んでおり、開設科目の一部、例えば「教職に関する科目」は本学類では卒業要件科目に含みません。

本学類のカリキュラムでは、1年次から2年次にかけて毎年40単位程度、3年次に30単位程度、4年次に卒業研究を含めて16単位程度を履修し、4年間で卒業に必要な単位を修得できるようになっています。

本学類には進級の条件や主専攻分野選択の条件となる履修科目や単位数はありません。

ん。ただし、4年次に卒業研究に着手するためには、卒業要件科目を90単位以上修得している必要があります。卒業研究に着手できないとその年度には卒業できません。

4. 単位と履修登録の上限

日本の大学では学習時間45時間に対して1単位が与えられます。本学では75分授業10回(1コマ×1学期間)を15時間の学習時間と換算します。講義科目には授業時間と同じだけの予習と復習が必要と考え、予習15時間+復習15時間で30時間の授業外学習が伴うことを前提に、75分×10回の講義科目に1単位が与えられます。

授業時間外での学生の十分な学習量を基礎として単位を認定することを制度上担保するため、本学は1年間に履修登録できる単位数に上限を設けています。このような制度は一般に「キャップ制」と呼ばれています。本学類では、授業外の学習が円滑に進むよう、予習範囲を明確化したり、復習のための課題を出したり等の工夫を教員に求め、これに併せてキャップ制も厳格に適用します。

情報学群では年間の履修登録の上限を45単位と定めています(ただし編入生は入学年度に限り55単位まで履修登録できます)。なお、「教職に関する科目」と「博物館に関する科目」(科目番号が9で始まる科目群)は、キャップ制における登録単位数には含まれません(細則5条)。修得単位数でなく登録単位数に対する制限なので、履修登録が確定した科目は、学期途中で履修放棄しても制限緩和の役には立ちません。

前年度の成績が優秀であった人(卒業の要件として必要な単位を40単位以上修得し、その70%以上が「A」である者)は、55単位まで履修登録できます。(細則5条2)

制限を超える履修登録は機械的にチェックされるべきですが、TWINSでは上限を超えても登録できてしまいますので、制限を自分自身でよく確認してください。年度初めに集中科目を含めた年間履修計画を作成して登録することを勧めます。たとえ4月に履修登録をしても、実施学期の履修申請締め切り日までは修正可能です。

Q. なぜこのような制限が必要なのですか？

A. 履修科目の予習・復習時間を十分にとるためです。上記で説明したように、2単位の講義1科目に週6時間の授業外学習が期待されます。学習時間を確保するには制限が必要と考えられています。

Q. 知識情報・図書館学類だけが上限を設けているのですか？

A. 履修登録の上限は筑波大学全体のルールです。緩和条件は学類ごとに異なりますが、おおむね本学類と同様と言えます。

Q. 上限を超えて履修登録するとどうなりますか？

A. 本学類では、各学期の履修登録期間中に超過申請している学生名を掲示して登録の修正を促します。3学期には申請期間終了時に超過者全員を呼び出して超過分の単位を3学期の履修科目から削除してもらいます。呼び出しに応じない場合は学類が科目を選んで削除します。集中講義の履修などにより、学年末時点で超過登録されていた場合、超過分の修得単位を卒業要件から除外する措置を講じます。

5. 成績評価と GPA

合否で評価される「フレッシュマン・セミナー」と「学問と社会」を除いて、各科目の成績は A～D の 4 段階で評価されます。A～C には単位が与えられますが、D には単位が与えられません。また、登録して受講しなかった場合は「履修放棄」が記録されます。「履修放棄」や D となった科目が TWINS 上で表示されなくても、履修の記録は消えません。なお、D あるいは「履修放棄」の科目は再履修できますが、一旦単位が与えられた科目を再履修することを本学類は許していません。TWINS 上では重複して履修登録できますが、卒業要件の単位数には算入できませんし、以下で説明する GPA の計算にも 1 回目の成績だけを使用します。

成績をどのように評価するかは科目毎に異なります。基本は期末試験による評価ですが、科目によってレポート、小テスト、授業中の質問や発言による授業への貢献・参加など、授業の進め方や科目の特徴に応じたさまざまな評価を行います。評価方法は学類シラバスに示します。原則として 1/3 以上欠席した場合は不合格ですが、出席日数の条件がより厳しい科目もあります。授業の無断欠席は履修放棄とみなされることがあります。欠席届を提出すると、無断欠席でなくなります。出席にはなりません。

学生個人の総合的な学習到達度の評価として、本学類は GPA (Grade Point Average) と呼ばれる総合評価法を採用しています。本学類における GPA は、成績が A の科目に 3 点、B に 2 点、C に 1 点、D と「履修放棄」に 0 点の Grade Point を与え、算定対象期間中に履修登録した全ての卒業要件科目の平均点を求めたものです(式参照)。最高点が 4 点である世間の GPA とは算出法が異なります。「フレッシュマン・セミナー」のように合否のみの科目や他大学等で修得して認定された単位、「教職に関する科目」のように卒業要件でない科目は GPA の算定に含めません。

本学類は、学生が無計画に修得単位数を増やすことよりも、各自の学習計画に沿って、受講する一つ一つの科目において高い到達度を達成することを期待しています。GPA では、過剰な履修登録により履修放棄や成績の悪い科目を増やすことが不利な評価につながります。(ただし、履修登録が少なすぎると卒業研究の着手に必要な単位数を 4 年次までに修得できなくなります)

3 年次に行われる主専攻の選択では、2 年次末までの GPA の高得点順に主専攻を決定します。GPA の低い人は希望する主専攻にすすめない場合があります。また、早期卒業の判定などにも GPA が用いられます。

$$\text{GPA} = \frac{\text{Aの単位数} \times 3 + \text{Bの単位数} \times 2 + \text{Cの単位数} \times 1}{(\text{算定対象期間中の}) \text{総履修登録単位数}}$$

6. 不正行為

期末試験において不正行為を行った場合、当該科目または当該学期の全科目の受験が無効となります。また学則上の懲戒処分の対象となり、通常は停学処分が下されます。

これらの処分により、卒業が大幅に遅れることとなります。

他人のレポートの複製や剽窃も、成績評価を偽るだけでなく、他人の著作権を侵す行為であり、本学類では試験における不正行為に準じて厳しく対応します。

くれぐれも不正行為に関わらないように注意してください。

7. 成績不振者への指導

本学では卒業年度を除いて、年間の修得単位数が 15 単位未満の学生は学則により除籍処分となります。ただし「修学を指導することにより、翌年度年間 15 単位以上修得することが可能と認められる」時に限り、学群長の特別の許可によって除籍が猶予されます。翌年度も 15 単位未満しか修得できなかった場合は除籍されることとなります。

本学類は、クラス担任による早い段階での履修指導や生活指導を通じ、成績不振が起きないように努めますが、授業について行けない、勉強の方法がわからない、欠席が増えているなどの状況を自覚した時には、自分から授業担当者、クラス担任や学群学務・学生支援窓口、保健管理センターの学生相談室等に相談するなどしてください。成績不振が続く場合、保護者に対して単位の修得状況を通知し、進路の変更を含めた話し合いを行うよう促します。

8. オフィスアワーと連絡方法

本学では、学生が予約なしに教員を訪問できる時間帯を設けており、これをオフィスアワーとよんでいます。学習上の質問、種々の手続き、生活上の相談などにオフィスアワーを活用してください。オフィスアワー以外の時間帯に教員を訪問する場合は、電子メールなどを使って予約をとるようにしてください。学類教員のメールアドレスとオフィスアワーは巻末の教員一覧をご覧ください。なお、非常勤講師への連絡は原則として学群学務係を通してください。

連絡事項や休講のお知らせは、学生用掲示板に掲示されます。学生用掲示板は毎日確認するように習慣づけてください。教員が学生への連絡に電子メールを使う場合は、学術情報メディアセンターの教育用計算機システムで発行される「s+学籍番号下 7 桁@ipe.tsukuba.ac.jp」（例えば s0800123@ipe.tsukuba.ac.jp）というメールアドレス宛に送信します。普段使うメールアドレスへの転送を設定するなどして、メールも確実に読むようにしてください。

教員にメールを送る際には、なるべく教育用計算機システムあるいは本学類のメールシステム（Google Apps for klis）から送信するようにしてください。また、学籍番号と氏名を本文中に明記してください。

9. 主専攻への配属と卒業研究指導教員の決定

主専攻はあなた自身の希望と 2 年次までの成績をもとに 3 年次の 4 月に決定します。

GPAの高得点順に第1希望の主専攻に配属されますが、主専攻の定員を超過した場合は、第2希望以降の主専攻に配属されます。主専攻の定員と主専攻別の指導教員一覧、各教員の指導方針（指導可能な研究テーマ、研究指導の方法、指導の前提条件など）は2年次の3学期に公表します。

卒業研究の指導教員は3年次の2学期末に仮決定します。学生は自分が所属する主専攻の指導教員一覧から希望する教員1名を選択します。学生は教員の指導方針を十分理解し、指導方針を受け入れる場合のみ応募できます。指導の前提条件に合致しない場合の応募は無効となります。応募者が定員を超えた場合、どの学生を受け入れるかは教員が判断します。

卒業研究の準備をするゼミを3年次3学期に行います。何をどのようにやるかは教員によりますが、単位にはなりません。授業科目としての卒業研究は4年次の4月に履修登録します。4月の時点で卒業要件科目を90単位以上修得できていないと、卒業研究を履修できず、指導教員の決定も白紙に戻ります。

卒業研究は通年科目なので4月からの1年間を継続して履修しなければなりません。途中で1ヶ月でも休学すると、翌年4月から1年間かけて履修し直すことになるので注意してください。単位修得のためには、中間発表を行い、所定の条件に合う卒業論文を提出した上で、最終発表を行なう必要があります。卒業研究が1年間で終了しなかった場合、研究期間を延長して翌年度以降の各学期末に卒業できます。

学生は指導教員を変更することができますが、新しい指導教員は次回の指導教員決定プロセス中で選択し直すこととなります。すなわち、指導教員変更は当該年度の卒業研究を履修放棄したものと扱われ、翌年度以降の卒業研究を改めて履修しなければなりません。4年次4月の履修申請期間までならば、新しい指導教員の了解を得られた場合に限り、留年無しに卒業研究に着手できます。

10. 早期卒業、大学院への推薦（2学期入学者は14.参照）

2年次終了時点で卒業に必要な単位を90単位以上修得し、それまでのGPAが学類の同学年（2学期入学者を除く）の上位3%以内である人は早期卒業の資格を得ます。早期卒業を希望する人は、3年次1学期から卒業研究に着手し、3年次の学年末に卒業要件を満たした場合、その3月に卒業できます（細則7条）。早期卒業をめざすには、1年次にキャップ制の緩和を獲得し、2年次末までに90単位を極めて優秀な成績で修得しなければなりません。

早期卒業に着手した人と3年次2学期末または3学期末のいずれかの時点でGPAによって成績優秀と判定された人は、7月に行われる大学院図書館情報メディア研究科の推薦入学試験に対する推薦を受けることができます。

11. 外国語

本学類の教育課程は、語学、特に英語の能力を発展させることを目標の一つとしています。そのため、第2外国語を必修とするとともに、2～3年次に必修科目として専門英語を置き、卒業まで継続的な語学学習を促しています。第2外国語は共通科目の外国語科目の中から英語以外の1つの言語を選択して履修します。

共通科目の英語は、入学直後のプレースメントテストの結果をもとに、受講クラスが指定されます。英語とドイツ語は、期末試験に加えて検定試験に合格しないと単位が認定されません。検定は学年末のほか、検定不合格者のための再試験が8月にも実施されます。英語の検定不合格者は外国語センターによる「英語 V (英語基礎)」を受講するなどして早期に検定に合格するようにしてください(英語 V は関連科目の自由科目となります)。総合評価が D または履修放棄であった人は、翌年度に授業を再履修しなければなりません。外国語の再履修には履修しようとするクラスの授業担当教員の許可が必要です。

外国語の学習をさらに発展させたい人のために、2年次以上を対象に外国語中級、外国語上級が外国語センターによって開設されます。これらの科目は本学類では共通科目の自由科目として卒業要件に含めることができます。また学類開設の専門英語が、2年次には週2コマ、3年次には週1コマ開設されます。いずれも必修科目です。

大学での単位修得だけでなく、TOEIC や TOEFL、英検など対外的に通用する語学能力検定を受検することもお勧めします。これらの検定は大学院入試で英語に代えて課されることが増えており、例えば図書館情報メディア研究科博士前期課程の入学試験でも、TOEIC または TOEFL のスコア提出が必要です(平成20年度現在)。また、米国留学にも TOEFL のスコアが必要です。高いスコアを持っていることは就職活動でも有利に働きますし、就職後に TOEIC の受検を求められることもあります。この種の試験は、現在の自分の実力を確かめ、着実に勉強を重ねることによって、数ヶ月後、一年後にスコアが改善していくものです。その意味で、早い時期から長期的に取り組むことをお勧めしています。在学中の受検は必ずしも義務ではありませんが、定期的に挑戦するとよいでしょう。

12. キャリア教育

「キャリア・ポートフォリオ (CARIO)」は本学が独自に考案・推進しているキャリア教育のための教材です。1冊のフォルダに、筑波大学での学生生活におけるさまざまな経験や経験を通じて気づいたことを記録し、保管します。フレッシュマン・セミナーで、キャリア・ポートフォリオの作成を始めますが、キャリア・ポートフォリオは一度で完成するものではなく、在学中継続して使い続けるよう設計されています。あなたが広い意味での進路選択に直面した時に、キャリア・ポートフォリオに記録されたあなた自身の「気づき」が、大きな助けになるはずです。1年次の3学期には総合科目 A 「キャリ

アデザイン I」が開講されますが、キャリア・ポートフォリオを活用するために、できるだけこの科目を受講するようにしてください。

本学類では、キャリア教育のための専門基礎（選択）科目として、2年次に「学問と社会」を開講します。この科目では、本学類の学問領域と社会との関係を中心に講義・講演・演習を行います。3年次の専門（選択）科目である「インターンシップ」では、図書館や企業などで3週間程度の就業実習を体験します。

13. 司書資格

「大学において修得すべき図書館に関する科目」に指定されたうち14科目を履修することで司書の資格を取得できます。本学類のカリキュラムでは、2年次までの専門基礎科目として8科目を修得し、3年次以降で専門科目として6科目を修得するよう計画しています。専門科目6科目は主専攻をまたがって開講されており、いずれの主専攻を選択しても、無理なく司書資格の取得が可能です。司書は公共図書館のための資格であり、他の館種では必須ではありませんが、図書館関係の専門職を目指す人は司書資格の取得を勧めます。

14. 教員免許、司書教諭資格

本学類では所定の単位を修得することで社会（中学校）、公民（高校）、数学（中学校・高校）、情報（高校）の教員免許を取得できます。ただし、卒業のための単位とは別に相当数の科目を余分に修得しなければならないので、かなりの負担になります。教員免許のために必要な諸科目は、学類の教育課程とは関係が薄いので、免許の取得のために本来の専門領域の学修が損なわれます。また、教員養成には教育実習などで学外の多くの人の助力が必要なこと、教員免許が更新制となったことなどを考えると、単なる資格として教員免許に挑戦することはやめるようお願いします。

教員免許に併せて、「大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目」5科目を修得することで、司書教諭の資格が取得できます。3年次に5科目全てを履修し、4年次6月に司書教諭講習への書類参加（講習に代えて単位取得証明の提出によって司書教諭資格を得る手続き）を申請してください。履修が遅れて、手続きが在学中にできなかった人は、文部科学省を窓口書類参加手続きを行なうことができます。司書教諭資格のための5科目は、教員免許の「教科または教職に関する科目」に含めることができますし、同時に卒業要件上の他主専攻専門科目となります。教員免許を取得する場合は司書教諭の資格を同時に取得するよう勧めます。なお、所定の5科目を履修しても、教員免許を取得しないと司書教諭資格は取得できません。

15. 学芸員資格

本学の学生なら誰でも「博物館に関する科目」に指定されたうち16単位を履修し、

卒業後に博物館に学芸員職として就職することで学芸員の資格を得ることができます。つまり就職して初めて有効となる資格です。学芸員は博物館資料の収集・保管・展示および調査研究などに関する専門的職務を行う者であり、その職務には「博物館に関する科目」だけでなく、博物館の種類に応じた歴史、自然、美術など分野ごとの専門的な主題知識こそが重要です。学芸員をめざそうとする人は、本学類の専門領域が一般的な博物館で求められる専門領域とは異なっていることを十分認識し、どのような博物館での活躍が可能かなど、具体的な検討の上で学修をすすめてください。

16. 留学生および帰国生徒

外国人留学生および「外国において相当の期間、中等教育を受けた学生」（帰国生徒）には、総合科目、第1外国語、関連科目について13単位を限度として「日本語・日本事情に関する科目」の履修による振り替えを認めることがあります。振り替えを希望する学生は、入学して最初の履修申請期間内に単位振替申請の手続きが必要です。全員が振り替えを認められるわけではなく、教員による面接が必要です。必ず事前に学群学務係の窓口にご相談してください。

17. 2学期推薦入学

2学期入学の学生は、変則的なカリキュラムとなるので、クラス担任と綿密に相談して履修計画をたててください。1学期に開講済みの1年次向け科目のうち、フレッシュマン・セミナー、情報基礎、情報基礎実習、第1外国語、第2外国語、体育は2学期入学者向けに特設の補講が開講されます。主専攻の決定、卒業研究の指導教員の決定は4月入学者と同時期に行います。原則として、2学期入学者の卒業研究は4年次の2学期に履修登録しますが、詳細は学群学務係の指示を受けてください。

早期卒業の資格判定は3年次1学期末に、同じ学年の2年次末時点の成績と比較して判定します。卒業に必要な単位を90単位以上修得済みで成績が上位3%以内である人は、4年次の7月に早期卒業する資格を得ます。この場合、3年次の2学期から卒業研究に着手します。上位3%以内でなくても、卒業に必要な単位を80単位以上修得済みで成績が優秀である人は、4月入学者と同じく3月に早期卒業することができます。この場合、4月入学者と全く同様に卒業研究をすすめることになります。

3月の早期卒業に着手した人の内、3年次2学期末または3年次3学期末のGPAによって成績優秀と判定された人は、大学院図書館情報メディア研究科推薦入学試験に対する推薦を受けることができます。

18. 入学前に履修した単位・他大学で受講した単位の認定

入学前に履修した単位や他大学で受講した単位は、学類が教育上有益と認める場合限り、本学で履修した単位として60単位まで（編入学生は上限なし）を認定します。「本

学で履修した単位として…認定」とは、実際に受講することなく、本学が開設する同等科目の単位を与えるという意味です。詳しくは「単位認定ガイド」をご覧ください。

認定された単位は卒業要件には有効ですが、司書、司書教諭、教員免許などの資格取得に使うことはできません。ただし他大学において修得した資格科目と本学で修得した資格科目を合算して資格を取得することはできます。例えば、他大学で司書科目の「図書館概論」相当の科目を修得した人は、本学では当該科目を履修する必要がありません。

資格が必要な人は、その資格取得のために本学で修得すべき科目で単位認定を受けないよう注意してください。単位認定を受けると修得済みとみなされ、その科目を履修できなくなります（「履修のてびき」5項参照）。一方、認定を受けても、資格取得上は修得したとはみなされないため、結局資格を得ることはできません。

科目選択ガイド

1. 卒業要件の科目区分とクラス

本学類の卒業要件は細則の別表 1 に定められています。カリキュラムを学年の進行に沿って表すと表 1 の履修計画となります。平成 20 年度に、第 2 外国語と外国語中・上級・英語 S、国語の科目区分が関連科目から共通科目に変更され、芸術が共通科目として新設されました。この変更に伴い、19 年度入学者と 20 年度以降の入学者では、表の細部が違っていますが、必要な科目や総単位数自体は変わっていません。

履修計画では、1 年次はほとんどが必修科目ですが、徐々に選択の幅が広がり、3 年次にはほとんど全ての科目を自分で計画的に選択しなければなりません。卒業には最低 125.5 単位が必要です。以下では基礎科目（共通科目と関連科目）、専門基礎科目、専門科目の順に履修の方法を説明しますが、その前に必修科目、選択科目、自由科目の違いを理解しておきましょう。必修科目は必ず修得しなければならない科目、選択科目は特定の目的で開設される限られた科目の中から選択して履修する科目、自由科目は学類の専門教育を補う形で、あなた自身が全学の幅広い科目群の中から計画的に選択して履修する科目です。

本学類では専門基礎科目や専門科目として開設している科目群を、専門教育としての関連性を考慮し、クラスという単位にまとめています。クラス単位に履修することで、関連した内容を有機的かつ十分に学修できるようになっています。クラス内の各科目は原則として同じ曜時に、適切な順序で開講します。選択科目はできるだけクラス単位で選択するようにしてください。

2. 基礎科目

基礎科目は幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を涵養することをめざして設けられた区分で、大学生として共通に学ぶべき科目群である共通科目と学類ごとに内容を定める関連科目に分かれ、それぞれに修得単位数が定められています。共通科目の履修方法は全学で統一して定められています。

本学類では共通科目の必修科目として、総合科目 A を 6 単位以上、総合科目 B（フレッシュマン・セミナー）を 1 単位、体育を 2 単位、第 1 外国語（英語）を 4.5 単位、第 2 外国語を 3 単位の合計 16.5 単位以上修得することになっています。（19 年度入学者は共通科目の必修科目は 13.5 単位、関連科目の必修科目が 3 単位となります）

体育、第 1 外国語、第 2 外国語は学類・学年ごとに曜時限・クラスが指定されており、原則として変更できません。1 年次のうちに体育の 1 単位を除く 15.5 単位の修得をめざしてください。1 年次に第 1 外国語、第 2 外国語の単位を修得できないと次年度以降の科目選択に大きな制約が生じるので注意してください。

総合科目 A や体育は共通科目の自由科目としても履修可能です。また、芸術、国語、外国語（外国語中級、外国語上級、英語 S の総称）は、20 年度以降入学者は共通科目

の自由科目として、19年度入学者は関連科目の自由科目として履修できます。本学類では情報処理（上級）は自由科目になりません。この他、関連科目の自由科目として、特設自由科目や他学類の開設科目が履修できます。

表 1a 標準履修年次別の科目配分に基づく履修計画（平成 20 年度以降入学者用）

区分	1 年		2 年		3 年		4 年		必要
共通	体育	1	体育	1					16.5
	総合 A 総合 B 英語 第 2 外国語	6 1 4.5 3							
専門基礎	必修	知識情報概論 哲学 情報基礎 情報基礎実習 情報リテラシ実習 プログラミング演習 I プログラミング演習 II 情報数学 統計 (計 9 科目 16 単位)	2 2 2 1 1 2 2 2 2	知識情報演習 I 知識情報演習 II 知識情報演習 III 専門英語 I 専門英語 II (計 5 科目 9 単位)	2 2 2 1.5 1.5				25
	選択	情報社会と法制度 情報システム概説 基礎数学 A 基礎数学 B (計 4 科目 8 単位)	2 2 2 2	知的財産概論 量的調査法 多変量解析 情報探索論 質的調査法 情報行動論 知識発見基礎論 知識資源組織化論 データベース概説 コンピュータシステム とネットワーク 自然言語解析基礎 メディア社会学 生涯学習と図書館 公共経済学 経営・組織論 テキスト解釈 学問と社会 (計 17 科目 34 単位)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		(21 科目 42 単位中から)	32	
	自由			知的探求の世界 I	1.5	知的探求の世界 II	1		
			社会体験実習					1	
専門科目	必修				主専攻実習 専門英語 III, IV	2 2	卒業研究	6	10
	選択				自専攻の専門科目 他専攻・学類共通の専門科目		知識情報特論	20 8 2	30
自由									12
合計	(必修 31.5 単位)	40	(必修 10 単位)	40	(必修 4 単位)	30	(必修 6 単位)	16	125.5

合計欄に示した単位数は卒業に向けて必要な最小限の単位数を各学年に割り振った目安です。実際には各学年でこれよりも多くの単位を修得するよう履修計画をたててください。

3. 専門基礎科目

専門科目の前提として学んでおくべき基礎的な科目群を専門基礎科目といい、本学類では概ね1~2年次を対象に開設します。いずれの主専攻にも共通する基礎的内容です。14科目（25単位）の必修科目すべてと21科目中16科目（32単位）以上の選択科目を修得することが卒業の要件です。専門基礎科目の選択科目は、できるだけ多くの科目を履修するよう計画してください*。

*ただし、2年次向けの専門基礎科目を2年次にすべて履修登録すると、体育1単位と合わせて44単位となり、キャップ制のほぼ上限に達します。他に履修したい科目がある人は、専門基礎科目の選択科目の何科目かの履修を先送りする必要があります。

専門基礎科目のうち「知識と人間」クラスターの4科目は知識科学主専攻の専門領域に関わる導入的な内容、「知識とシステム」クラスターの4科目は知識情報システム主専攻の、「知識と社会」クラスターの4科目は情報経営・図書館主専攻の導入的科目群です。2年次にはこれらの科目を学びながら、どの主専攻を志望するかを考えてください。

専門基礎科目の自由科目は固有の目的を持って開講されます。人向けの内容ではないので、科目の をよく考えて受講してください。「社会体験実習」は知識情報・図書館学類の専門領域に関するボランティア活動に従事しながら、教員や専門家の指導を受けることで、社会的な視野を拓けながら専門的な技術を体得します。

「知的探求の世界Ⅰ」「同Ⅱ」は、三つの いを持って開講されます。第一の いは、深い教養教育の機会の提供です。教養とは個人が社会と関わり、経験を積み、体系的な知識や知恵を獲得する過程で身につけるものの見方、考え方、価値観の総体です。知識情報・図書館学類は、多様なものの見方、考え方を学ぶ機会を提供していますが、それに対して、一つの主題領域を深く学ぶ過程を経験する機会として「知的探求の世界」を位置づけます。二つめの いは、カリキュラムの枠組みを超えた自由な学びの場の提供です。本学類には人文学、社会科学、理工学など多様な専門領域を持つ教員が っています。その多様性を活かして、カリキュラムの構成とは別に、その枠を超えた自由な教育の場として、「知的探求の世界」を位置づけます。三つ目の いは、教員との長い、深い接触のもとで行われる少人数教育の提供です。教育には単なる知識の伝達を超えたものの見方、考え方、知恵、技といったものの伝 という側面もあります。師と 子のような、しかし現代的な自由な関係の中での少人数教育として、「知的探求の世界」を位置づけます。

そのため、「知的探求の世界」は各教員がカリキュラムの枠を超えて自由に特定領域を設定し、内容も方法も全く自由に構成します。しかも、教員の講義を聞いて受動的に学ぶスタイルではなく、教員のガイドのもとに学生が自分の力で学ぶことを基本とします。例えば、その領域の古典の講読に集中する場合もあるでしょうし、入門から発展までの講読を体系的に進めることもあるかもしれません。演習を通じてある技術を深く習得する場合もあるでしょう。「知的探求の世界」は、2年次から1年半という長い期間を

かけて継続的に、入門から一定の深さに至るまでの一貫した学習ができるようにします。しかし、卒業研究が始まるまでには終わり、卒業研究と 行して履修することはありません。また、卒業研究の指導と知的探求の世界の履修は連動しません。卒業研究の指導教員は、決定ルールに従って定めますが、結果的に同じ指導教員になることもあります。

4. 専門科目

3年次に主専攻が決まると、自分が所属する主専攻の主専攻実習を履修しなければなりません。また専門英語Ⅲ(1学期)と同Ⅳ(2学期)も必修科目です。専門英語は各主専攻に対応する形で3クラス開講されますが、所属する主専攻とは無関係に、どのクラスを履修してもかまいません。

3~4年次には、自分の主専攻の専門科目を20単位(10科目)以上、他の主専攻あるいは学類共通の専門科目から合計して8単位(4科目)以上を修得してください。主専攻ごとに17科目前後の選択科目が開設されます。他主専攻の主専攻実習は他主専攻の専門科目の一つとして(実習の定員範囲内で)履修できます。卒業に必要な専門科目の大半は3年次に履修できるはずですが、4年次は知識情報特論を1,2学期に各1科目(計2単位)と卒業研究(6単位)を必ず履修してください。4年次には多くの時間を卒業研究に使えるよう、特に3学期は卒業研究以外の科目をできるだけ履修しないよう計画してください。

5. 自由科目

自由科目は、あなた自身の興味・目的に沿って自立的・計画的に学習することを目的に設けられた履修区分です。本学類では自由科目として12単位以上の履修が必要です。外国語の学習を2年次以降も継続させても良いでしょうし、あなたが興味を持っている他学類の専門領域を深く学んでも良いでしょう。本学類の専門領域を深く学ぶために専門科目や専門基礎科目を人よりも多く学ぶことも可能です。自由科目に関する卒業要件はやや複雑なので、説明のために細則別表の該当部分を表2のようにまとめ直しました。

自由科目は科目区分や科目ごとに上限が決められています。この上限の範囲内で12単位以上の修得が必要です。関連科目の自由科目を12単位以上修得した場合はこれだけで卒業要件を満たしますが、専門基礎科目、専門科目の場合、他の区分の自由科目と合わせて12単位以上とする必要があります。

共通科目のうち、6単位を超えて修得した総合科目Aの単位は共通科目の自由科目に区分を変更することができます。最初から自由科目として履修登録することもできます。また、自由科目として開設される体育の単位も共通科目の自由科目です。また、平成20年度以降の入学者は、国語、芸術、外国語中・上級・英語Sを共通科目の自由科目として履修できます。ただし、総合科目Aとしての自由科目は0~6単位、体育としての自由科目は0~2単位のように指定されているので、総合Aは6単位、体育は2単位まで

表 2a 自由科目に関する要件（平成 20 年度以降入学者用）

区分	カテゴリ等	自由科目としての算入可能単位数
共通科目	総合科目 A	0～6
	体育	0～2
	国語	0～2
	芸術	0～6
	外国語	0～6
	合計	0～12
関連科目	自由科目	0～12
専門基礎科目	選択科目	0～8
	自由科目	
専門科目	知識情報特論	0～8
	自主専攻	
	他主専攻・共通	
総計		12

しか、卒業要件上必要な 12 単位の自由科目に含めることはできません。例をあげると、自由科目の芸術を 8 単位修得してもかまいませんが、卒業要件の自由科目としては 6 単位しか認められないため、卒業のためには他で 6 単位修得しなければなりません。

関連科目の自由科目として、本学類では特設の自由科目、博物館に関する科目、他学類の開設科目を卒業要件に含めることができます。一方、「教職に関する科目」を自由科目にすることはできません。また、平成 19 年度の入学者は、国語、芸術、外国語中・上級・英語 S を関連科目の自由科目として履修できます（平成 20 年度以降の入学者のような科目別の上限はありません）。なお、他学類の科目を履修する場合は、標準履修年次に留意し、シラバス（他学類のシラバスは学群学務係あるいは図書館情報学図書館、各学類の Web サイトで公開されています）で受講制限の有無や前提となる科目や知識等を良く確認してください。また初回の授業には必ず出席し、担当教員に受講の可否を確認することをお勧めします。一般に、基礎的な知識も持たずに専門性の高い科目を受講しても、理解は 難ですし、単位の修得も不可能です。

専門基礎科目では、32 単位を超えて修得した選択科目を自由科目に区分変更できます。また自由科目として開設された専門基礎科目の修得によっても自由科目の単位が得られます。

専門科目では特に自由科目として開設される科目はありませんが、2 単位を超えて履修した知識情報特論、20 単位を超えて履修した自主専攻の専門科目、8 単位を超えて履修した他主専攻や学類共通の専門科目を合計 8 単位まで自由科目に区分を変更できます。

表 1b 標準履修年次別科目配分と履修計画（平成 19 年度入学者・平成 21 年度編入学者用）

区分	1 年		2 年		3 年		4 年		必要
共通	体育 総合 A 総合 B 英語	1 6 1 4.5	体育	1					13.5
関連	第 2 外国語	3							3
専門基礎	必修	知識情報概論 哲学 情報基礎 情報基礎実習 情報リテラシ実習 プログラミング演習 I プログラミング演習 II 情報数学 統計 (計 9 科目 16 単位)	2 2 2 1 1 2 2 2 2	知識情報演習 I 知識情報演習 II 知識情報演習 III 専門英語 I 専門英語 II (計 5 科目 9 単位)	2 2 2 1.5 1.5				25
	選択	情報社会と法制度 情報システム概説 基礎数学 A 基礎数学 B (計 4 科目 8 単位)	2 2 2 2	知的財産概論 量的調査法 多変量解析 情報探索論 質的調査法 情報行動論 知識発見基礎論 知識資源組織化論 データベース概説 コンピュータシステム とネットワーク 自然言語解析基礎 メディア社会学 生涯学習と図書館 公共経済学 経営・組織論 テキスト解釈 学問と社会 (計 17 科目 34 単位)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		(21 科目 42 単位中から)	32	
	自由			知的探求の世界 I	1.5	知的探求の世界 II	1		
			社会体験実習					1	
専門科目	必修				主専攻実習 I, II 専門英語 III, IV	2 2	卒業研究	6	10
	選択				自専攻の専門科目 他専攻・学類共通の専門科目		知識情報特論	20 8 2	30
自由									12
合計	(必修 31.5 単位)	40	(必修 10 単位)	40	(必修 4 単位)	30	(必修 6 単位)	16	125.5

表 2b 自由科目に関する要件（平成 19 年度入学者・平成 21 年度編入学者用）

区分	カテゴリ等	自由科目としての 要求単位数
共通科目	総合科目 A	0~6
	体育	0~2
	合計	0~6
関連科目	自由科目	0~12
専門基礎科目	選択科目	0~8
	自由科目	
専門科目	知識情報特論	0~8
	自主専攻	
	他主専攻・共通	
総計		12

単位認定ガイド（高専・大・他大学で修得した単位の認定）

1. 単位認定とは

単位認定は、入学前に履修した単位や他大学で受講した単位を、本学類が教育上有益と認める場合、本学で履修した単位として認める制度です。単位認定によって、入学する前の学習成果を認めることなく、効率的に本学での学習を進めることが可能となります。特に3年次編入生にとっては、ある程度以上単位認定されることが2年間で卒業するために必要です。1年次から入学した学生にとっても、単位認定を受けることで既修の科目を学び直すことなく、より広く・深く学ぶことが可能となるでしょう。

単位認定の申請は入学直後の学期にクラス担任と相談しながら行ってください。

2. 認定の方法

他学の成績証明書に記載された授業科目名、単位数、成績によって認定作業をすすめます。筑波大学で開設している授業科目とおおむね一致した内容であることが認定の前提です。科目名だけからでは一致の有無が判定できない場合は、シラバス等の補足資料の提出を求められる場合がありますので、これらの資料を用意しておいてください。

筑波大学の授業科目と対応づける際には、1対1だけでなく m 対 n (m, n は科目数) の組み合わせが可能です。ただし、実際に修得した以上の単位数を認定することはできないので、他学で m 科目の履修によって修得した合計単位数 k は、筑波大の対応する n 科目の合計単位数 l 以上でなければなりません ($k \geq l$)。例えば、あなたが他大学でプログラミング実習 A/B/C という各1単位の3科目を履修して計3単位の単位数を修得したとして、本学類のプログラミング演習 I/II の2科目に対応づけることはできません。なぜならプログラミング演習 I/II を合わせると4単位となり、実際に修得した単位数を超えてしまうからです。したがって、この場合はプログラミング実習 A/B の2科目2単位をプログラミング演習 I の1科目2単位と対応づけて単位認定することになります。

第1外国語、第2外国語、体育は、実際の修得単位数と卒業要件の単位数（第1外国語は4.5単位、第2外国語は3単位、体育は2単位）の小さい方を上限として、筑波大学の実際の科目名に対応づけずに、一括して認定します。

なお、細則の別表1注5の規定により、第1外国語および総合科目に関して単位認定を受けた場合、第1外国語（英語）は4単位（本来は4.5単位）、総合科目 A 及び B は6単位（同7単位）で卒業要件を満たします。後者は、編入生はフレッシュマン・セミナーを免除されることを意味します。ただし卒業には当然として125.5単位以上必要なので、その分1.5単位をいずれかの区分で修得してください。

3. 専門基礎科目の認定

必修科目のうち知識情報概論、リテラシ実習、知識情報演習 I/II/III の5科目は本学類の学生が必ず受講する科目と位置づけており、単位認定は行いません。3年次編入生は

3年次にこれら5科目を必ず履修してください。これ以外の必修科目である哲学，情報基礎，情報基礎実習，プログラミング演習 I/II，情報数学，統計，専門英語 I/II は前項で説明した方法で単位認定を受けることができます。必修科目で認定されなかった科目は，できるだけ3年次のうちに履修してください。

4. 専門科目の認定

本学類は原則として専門科目の単位認定は行いません。ただし，司書教諭科目5科目については，「大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目」に相当する他学の修得単位を認定します。

5. 資格科目の認定

単位認定は卒業要件上の措置であり，教職や司書などの資格取得には本学で実際に受講・単位修得が必要です。したがって資格に必要な科目の認定を受けると，資格取得ができなくなります。他学で受講した科目がその大学等において資格科目に指定されていた場合は，その単位数を資格取得の要件に合算することが可能です。

教職ガイド

1 教員をめざすにあたって

知識情報・図書館学類では社会（中学）、公民（高校）、数学（中学）、数学（高校）、情報（高校）の免許を取得できます。

教員として就職するためには中学・高校両方の免許を取得するよう心がけてください。情報は高校の免許しかないのので、社会（中学）あるいは数学（中学・高校）と組み合わせることを検討すると良いでしょう。

2 単位等の要件

免許を得るためには、学士の学位（＝大学を卒業すること）、「教職に関する科目」31単位（高校免許は26単位）、「教科に関する科目」20単位、「教科又は教職に関する科目」8単位（16単位）、「その他の科目」10単位が必要です。また、中学免許取得には「介護等体験の意義」（1単位）を受講した上で、合計7日間の「介護等の体験」に参加しなければなりません。単位の確認のため、本学類では教科ごとにチェックシートを作成して配布しています。各教科の免許に共通に必要な科目群については、学類時間割に推薦履修パターンを示しています。「教職に関する科目」は学類ごとに受講クラスが指定されますが、本学類は原則としてどのクラスでも受講できます。ただし、特定クラスに集中することがないように、時間割で指定したクラスを受講してください。

3 教科ごとに履修が必要な科目

3.1 数学（中学・高校）

数学の免許を取得するために必要な「教科に関する科目」20単位と教科教育法6単位は右表のような計画で修得することができます。

情報メディア創成学類開設の「情報数学Ⅲ」（3学期、水1・2限）と「CG基礎」（3学期、金4・5限）は3年次に履修します。

表3 数学の履修例

年次	科目名（*は免許のための必修）	単位
1年次	基礎数学 A*(2) 基礎数学 B*(2) 情報数学*(2) 統計*(2)	8
2年次	知識情報演習Ⅲ*(2) 多変量解析(2)	4
3年次	データ構造とアルゴリズム*(2) 情報数学Ⅲ*(2)（創成） データマイニング(2) CG基礎(2)（創成）	8
	数学科教育概論*(3) 数学科教育内容論*(1) 数学授業研究*(1) 数学科指導法*(1)	6
計		26

3.2 社会（中学）・公民（高校）

教科に関する科目のうち、社会・公民の両方で使用できる2年次の選択科目はできるだけ多く履修します。また、社会科の教科教育法を3年次に受講するために、同じ時間帯に開講される「欧米の歴史と文化」（3学期、水1・2限）は2年次に必ず修得しておきます。そのため、クラスに関係なく「知識情報演習」は火曜クラスを履修してください。また、3学期の「特別活動」は木3限または金2限のクラスを履修します。

「史学概論Ⅰ」（2学期、木4限）は必修なので、2年次または3年次に履修します。同じく必修の「東洋の歴史と文化」（3学期、金2・3限）、「人文地理学」（通年、火1限）、「地誌学」（通年、火2限）は3年次に履修します。

（司書科目である「学術メディア論」「コレクションとアクセス」を3年次に履修できなくなります）

表4 社会・公民の履修例

年次	科目名（*は免許のための必修）	
1年次	哲学*(2)	2
2年次	メディア社会学*(2) 史学概論Ⅰ*(1) (人文) 欧米の歴史と文化*(2) (日日) 東洋の歴史と文化*(2) (日日)	7
	量的調査法(2) 質的調査法(2) 情報行動論(2) 経営・組織論(2)	8
3年次	人文地理学*(3) (地) 地誌学*(3) (地) 情報法*(2)	8
	知的財産権論*(2) 図書館情報法制度論(2) メディア社会文化論(2) 知識形成論*(2) 情報経済論*(2) メディア教育と発達 [!] (2)	6
	中等社会・公民科教育法*(3) 社会科地理指導法*(1) 社会科歴史指導法*(1) 集中 社会科公民指導法*(1) 集中 公民科（政治経済）指導法(1) 公民科（倫理）指導法(1) 集中	7
計		38

*は二者択一、!は情報と 行取得時履修不可

3.3 情報（高校）

情報の「教科に関する科目」は、全学開設の「情報と職業」（2学期、集中）を除いて、本学類の開設科目だけで履修できます。2年次までの科目を全てと、3年次には必修科目7単位を修得してください。

通常は「教科または教職に関する科目」が不足するので、「教科に関する科目」を2～6単位余分に修得しなければなりません。

表5 情報の履修例

年次	科目名（*は免許のための必修）	
1年次	情報社会と法制度*(2) プログラミング演習Ⅰ*(2) プログラミング演習Ⅱ*(2)	6
	情報システム概説(2)	2
2年次	知的財産概論(2) データベース概説(2) 自然言語解析基礎(2) コンピュータシステムとネットワーク(2)	6
3年次	情報検索システム*(2) Webプログラミング*(2) マルチメディアシステム*(2) 情報と職業*(1) (全学)	7
	情報科指導法Ⅰ*(2) 情報科指導法Ⅱ*(2)	4
	データ表現と処理 グリッドコンピューティング デジタルドキュメント 情報デザインとインタフェース インターンシップ	(2~6)
計		25

知識情報・図書館学類生による図書館情報専門学群科目履修についての注意

- 1) 知識情報・図書館学類（以下、知識学類）と図書館情報専門学群（以下、専門学群）は異なる教育組織であり、教育課程の組み立て方や考え方が異なります。知識学類の卒業には知識学類の科目の履修が必要であり、専門学群の専門基礎科目や専門科目を履修しても知識学類の同一名称の科目を履修したことにはなりません。
- 2) 教職、司書、司書教諭などの資格取得には、入学年度の履修要覧に記載された科目の履修が必要です。したがって 学群・学類の科目を履修しても資格には使えません。
- 3) 専門学群の科目（表 6）は「他学類の開設科目」であり、卒業要件上は関連科目の自由科目として履修できます。ただし専門学群の科目の履修には特別な制約があり、実際に知識学類生に履修を許すのは A 欄の科目だけです。前項で示したように A 欄の科目を履修しても、教職、司書などの資格には使えません。また、A 欄にあげられていても、標準履修年次や受講者数によって、担当教員が履修を許さない場合があります。
- 4) B 欄の科目群は、知識学類の科目と内容が重複します。知識学類では専門学群とは違った順序・まとまりで科目を構成しているので、知識学類の学生は来年度以降に知識学類として開設する科目を履修しなければなりません。TWINS で履修登録ができて、担当教員が履修を許可しませんが、キャップ制の履修登録単位数には含まれます。対に履修登録しないでください。
- 5) C 欄の科目群は情報学群または知識学類の開設科目（科目番号・科目名は異なるが同一の授業）です。知識学類としての科目区分・科目番号（GExxxxx または GAxxxxx, xxxxx は 5 桁の数字）で履修登録しなければなりません。これらの科目は知識学類の標準履修年次にしたがって履修してください。

表6 図書館情報専門学群開設科目の履修可否判別表 (H20年度)

<p>A. 自由科目として履修できる科目</p> <p>() 内は開講終了年度</p> <p>†は創成学類との共通開講. 下付の()内は共通開講開始年度と創成の科目名</p>	P110101 文学概論	P42 5201 情報資源保存法(～H20)	
	P110201 教思想(人と思想)	P42 6601 コンテンツ利用環境技術	
	P110401 日本史概説	P42 5601 コンテンツ表現と形成の技術	
	P110511 西洋史概説 (～H19)	P42 5901 情報セキュリティ技術	
	P110601 東洋史概説	P42 6001 図書館システム構成	
	P110701 西洋古典語 I (～H19)	P51 0401 プログラミング法	
	P110901 日本古文入門	P51 0901 情報数学† (H20～: 情報数学 I)	
	P111001 漢文入門	P52 1401 ハードウェア基礎	
	P120501 政治学	P52 1501 計算機アーキテクチャ	
	P130101 物理学	P52 1601 ファイル構成論	
	P130201 化学	P52 1801 通信ネットワーク	
	P130401 心理学† (H20～: 認知科学)	P52 2101 情報記録デバイス	
	P130501 地理学 (～H20)	P52 2301 プログラミング言語各論	
	P130301 科学技術史: 発想法† (H20～)	P52 2401 ソフトウェア記述法	
	P130601 幾何学† (H20～: 情報数学 III)	P52 3501 グラフィックス	
	P130701 代数学† (H20～: 情報数学 II)	P52 4501 人工知能論	
	P130801 解析学† (H20～: 解析 II)	P52 4701 知識表現手法	
	P2109*1 知識資源論	P52 5101 科学技術データ処理	
	P211601 計算機システム	P52 5201 科学技術データ分析法	
	P211701 プログラミング言語 I	P52 5301 ケモ・バイオインフォマティクス	
	P211801 プログラミング言語 II	P52 5401 数値解析	
	P2123*1 情報表現法† (H20～)	P52 5501 計算機代数	
	P213101 コンテンツ制作と権利管理† (H20～)	P52 5612 情報処理演習 I (～H20)	
	P213212 協働型コンテンツ開発演習 I† (H20～)	P52 5622 情報処理演習 II (～H20)	
	P42 1701 古文獻講読	P52 5901 先端ネットワーク技術論	
	P42 1901 古文獻整理法	P52 2001 情報処理デバイス† (H20～: 情報メディア機 I)	
	P42 2001 漢文講読	P52 3601 マンマシンインタラクション†	
	P42 2501 人文学研究と情報	P52 3701 音声メディア処理†	
	P42 2601 歴史研究と情報	P52 3801 画像メディア処理†	
	P42 2701 社会科学的研究と情報	P52 4001 知覚情報処理†	
	P42 3501 記号論	P52 4601 知能ロボット†	
	P42 xxxx 西洋図書館文化史 (～H19)	P42 7001 コンテンツプロデュース論† (H21～)	
	P42 xxxx 日本図書館文化史 (～H19)	P42 7101 グラフィックデザイン I† (H20～)	
	<p>B. 履修できない科目</p>	P120801 情報と職業	P42 4701 システム思考とモデリング
		P120201 行政法総論 (社会のしくみ)	P42 5001 医療情報論
		P210401 情報基礎	P42 5303 図書館情報学実習
		P210701 図書館論 (図書館情報社会論)	P42 5501 メタデータ
		P210801 デジタルライブラリ	P42 5701 経営情報システム
		P211401 情報社会論 (情報社会制度論)	P42 5801 情報サービスシステム
		P41 0101 ネットワーク 情報資源	P42 6101 学術情報システム
P41 0301 レファレンスサービス論		P42 6401 情報デザイン	
P41 0401 公共図書館論		P42 6501 デジタルドキュメント	
P41 0501 学術情報流通論		P42 6801 クラスタリング	
P41 0702 情報検索演習		P42 6901 データマイニング	
P42 0401 図書館経営論 II		P51 0501 データベースシステム	
P42 1501 書誌学		P51 0101 オペレーティングシステム	
P42 2301 出版流通論		P51 0601 マークアップ言語	
P42 3101 メディアリテラシー		P51 0701 情報検索システム	
P42 3301 情報人権論		P51 0801 マルチメディアシステム*	
P42 3401 知識形成論		P52 1701 プログラミング言語処理系	
P42 3601 コミュニケーション論		P52 1901 ネットワークメディアシステム	
P42 3901 計量情報学		P52 2201 量子情報処理	
P42 4001 テクニカルコミュニケーション論		P52 3901 認知心理学	
P42 4401 読書と豊かな人間性		P52 5801 先端データベース技術論	
P42 46*2 専門外国語 III			

C. 知識学類, 情報学群の 科目名で履 修する科目	専門学群の科目名	知識学類, 情報学群の科目名
	P110301 哲学概論	GE10201 哲学
	P120101 法律学	GA10101 情報社会と法制度
	P120601 経済学	GE21601 公共経済学
	P120701 社会学 (社会と経済)	GE21401 メディア社会学
	P210112 教養と科学	GE105*3 情報リテラシ実習
	P2102*2 専門外国語 I-2	GE11**2 専門英語 I/II
	P2103*2 専門外国語 II-2	GE11**2 専門英語 I/II
	P2105*3 情報基礎実習-1/-2	GE104*3 情報基礎実習-1/-2
	P210601 図書館情報学概論	GE10101 知識情報概論
	P2110*1 図書館経営論 I	GE21501 経営・組織論
	P2111*1 情報組織化論	GE21001 知識資源組織化論
	P2112*1 情報検索論	GE20601 情報探索論
	P2113*1 生涯学習論	GE217*1 生涯学習と図書館
	P2115*1 知的財産権論	GA10201 知的財産概論
	P2119*2 プログラミング演習 I-1/-2	GE106*2 プログラミング演習 I-1/-2
	P2120*2 プログラミング演習 II-1/-2	GE107*2 プログラミング演習 II-1/-2
	P212201 データベース	GE21101 データベース概説
	P2124*1 情報システム論-1/-2	GE20101 情報システム概説
	P212501 自然言語処理	GE21301 自然言語解析基礎
	P212601 基礎数学 I	GE20301 基礎数学 B
	P212701 基礎数学 II	GE20201 基礎数学 A
	P212801 統計	GE10921 統計
	P41 0201 コレクション形成論	GE80901 コレクションとアクセス
	P41 06*2 情報組織化演習	GE110*2 知識情報演習 I-1/-2
	P41 0901 情報行動論	GE20801 情報行動論
	P42 3701 社会調査法	GE20401 量的調査法
	P42 3801 質的調査法	GE20701 質的調査法
	P42 4101 学校経営と学校図書館	GE40101 学校経営と学校図書館
	P42 4201 学習指導と学校図書館	GE40201 学習指導と学校図書館
	P42 4301 学校図書館メディアの構成	GE40301 学校図書館メディアの構成
	P42 4501 情報メディアの活用	GE40501 情報メディアの活用
	P42 6201 テキスト処理	GE71701 テキスト処理
	P42 6701 多変量解析	GE20501 多変量解析
	P51 0201 ネットワークコミュニケーション	GE21201 コンピュータシステムとネットワーク
	P51 0301 データ構造とアルゴリズム	GE71801 データ構造とアルゴリズム

注)・科目番号の*はクラス別に異なる数字, 履修登録時には開設授業科目一覧を参照のこと。

・P42/P52 両方の科目番号を持つ科目については, P42 の番号のみを表示している。

情報学群履修細則

()

第1条 この部局細則は、筑波大学学群学則（平成16年法人規則第10号。以下「学群学則」という。）

第25条第1項、第28条第1項、第31条第1項、第33条、第35条第2項、第39号第1項及び第40条の規定に基づき、情報学群における教育課程の編成及びその履修に関し必要な事項を定めるものとする。

(主専攻分野)

第2条 学群学則第25条第1項の部局細則で定める主専攻分野は、次の表のとおりとする。

学 類	主 専 攻 分 野
情 報 科 学 類	ソフトウェアサイエンス、情報システム、 知能情報メディア
情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	情報メディア創成
知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	知識科学、知識情報システム、情報経営・図書館

(履修方法)

第3条 学群学則第39条第1項の部局細則で定める情報学群における主専攻分野別の「専門科目」、「専門基礎科目」及び「基礎科目」ごとの卒業に必要な履修科目及び履修単位数は、別表第1のとおりとする。この場合において、「基礎科目」のうち、「共通科目・情報処理」の単位については、情報科学類にあっては「専門科目」、情報メディア創成学類及び知識情報・図書館学類にあっては「専門基礎科目」の履修により修得した単位をもって てるものとする。

(主専攻分野の選択条件)

第4条 学群長は、学生の主専攻分野について、学生の希望を 案し、入学した年次終了時以降に選考を行い、学類教員会議及び学群運営委員会の議を経て決定する。

2 学生が主専攻分野を選択するにあたって、あらかじめ、履修すべき授業科目及び単位数は、別表第2のとおりとする。

(履修科目の登録の上限)

第5条 学群学則第33条第1項の部局細則で定める履修科目の登録の上限は、45単位とする。ただし、編入学を許可された者の履修科目の登録の上限は、入学した年に限り55単位とする。これらの場合において、「教職に関する科目」及び「博物館に関する科目」は、この単位数に含めない。

2 学群学則第33条第2項の部局細則で定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる場合の要件及び単位数は、次の表のとおりとする。

学 類	要 件	単 位 数
情報科学類	(1) 前年度において卒業要件科目を40単位以上修得し、申請単位数の60%以上が「A」であること。 (2) 学類長が特別な事情があると認めた者	55単位
情報メディア創成学類	(1) 前年度において卒業要件科目を40単位以上修得し、申請単位数の60%以上が「A」であること。 (2) 学類長が特別な事情があると認めた者	55単位
知識情報・図書館学類	(1) 前年度において卒業の要件として必要な単位を40単位以上修得し、その70%以上が「A」である者 (2) 学類長が特別な事情があると認めた者	55単位

(成績の評価)

第6条 学群学則第35条第2項の部局細則で定める合格及び不合格の評語を用いることができる授業科目は、「フレッシュマン・セミナー」及び「学問と社会」（知識情報・図書館学類開設）とする。

(早期卒業)

第7条 学群学則第40条に規定する早期卒業の対象者及び基準は、次の表のとおりとする。

学類	対 象 者	基 準
情報科学類	2年次終了時において卒業に必要な単位数を85単位以上修得し、かつ、成績が上位10%以内にある者について、卒業の見込み等を総合的に案して判断する。ただし、2学期入学者については、科目「卒業研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の履修条件を満たしており、かつ、成績優秀な者について、卒業の見込み等を案して総合的に判断する。	3年以上在学し、卒業要件として定めている126単位を修得した者
情報創成メディア類	2年次終了時において卒業に必要な単位数を85単位以上修得し、その90%以上が「A」である者について、卒業の見込み等を総合的に案して判断する。	3年以上在学し、卒業要件として定められた所定単位を修得すること。
図書情報学類	(1) 2年次終了時において卒業に必要な単位を90単位以上修得し、成績が上位3%以内である者 (2) 4年次1学期末卒業を希望する2学期入学者にあつては、3年次1学期終了時において卒業に必要な単位を90単位以上を修得し、成績が上位3%以内である者 (3) 4年次3学期末卒業を希望する2学期入学者にあつては、3年次1学期終了時において卒業に必要な単位を80単位以上修得し、成績が優秀である者	(1) 卒業の要件として定められている所定の単位を修得した者 (2) 卒業研究の内容が優秀であると認められた者

(雑則)

第8条 この部局細則に定めるもののほか、主専攻分野の選択時期、卒業研究の選択及び提出時期その他学類における授業科目の履修に関し必要な事項は、学類教員会議の議を経て、学類長が定め、学内に公示するものとする。

附 則

- 1 この部局細則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成19年度入学者にあつては、この部局細則による改正後の別表第1及び別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表 1

(平成20年度以降入学者対象)

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																												
	専門科目					専門基礎科目					基礎科目										計			合計					
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	共通科目					関連科目					必修科目		選択科目	自由科目			
													必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数					自由科目	単位数	必修科目
知識科学	卒業研究	6	GE 6	20	GE 4	0~8	情報基礎	2	次に掲げる	32	GE 2	0~8	総合科目A	6	—	—	総合科目A	0~6	—	—	—	—	GE 以外 (教職に関する科目は 除く。)		0~12	51.5	62	12	125.5
	専門英語Ⅲ	1			GE 6		情報基礎実習	1	ものうち		GE 3		総合科目B	1															
	専門英語Ⅳ	1			GE 7		情報リテラシ実習	1	から学類長		GA		体育	2			体育	0~2											
	知識科学実習	2			GE 8		プログラミング演習Ⅰ	2	が指定する				第1外国語 (英語)	4.5			外国語	0~6											
			GE 4	8	プログラミング演習Ⅱ	2	GE 2		第2外国語	3			国語	0~2															
			GE 7				情報数学	2	GA								芸術	0~6											
			GE 8				統計	2																					
			知識情報特論	2			哲学	2																					
							知識情報概論	2																					
							専門英語Ⅰ	1.5																					
							専門英語Ⅱ	1.5																					
							知識情報演習Ⅰ	2																					
							知識情報演習Ⅱ	2																					
							知識情報演習Ⅲ	2																					
単位合計	10		30		0~8		25		32		0~8		16.5		0		0~12		0		0		0~12	51.5	62	12	125.5		
知識情報システム	卒業研究	6	GE 7	20	GE 4	0~8	情報基礎	2	次に掲げる	32	GE 2	0~8	総合科目A	6	—	—	総合科目A	0~6	—	—	—	—	GE 以外 (教職に関する科目は 除く。)	0~12	51.5	62	12	125.5	
	専門英語Ⅲ	1			GE 6		情報基礎実習	1	ものうち		GE 3		総合科目B	1															
	専門英語Ⅳ	1			GE 7		情報リテラシ実習	1	から学類長		GA		体育	2			体育	0~2											
	知識情報システム実習	2			GE 8		プログラミング演習Ⅰ	2	が指定する				第1外国語 (英語)	4.5			外国語	0~6											
			GE 4	8	プログラミング演習Ⅱ	2	GE 2		第2外国語	3			国語	0~2															
			GE 6				情報数学	2	GA								芸術	0~6											
			GE 8				統計	2																					
			知識情報特論	2			哲学	2																					
							知識情報概論	2																					
							専門英語Ⅰ	1.5																					
							専門英語Ⅱ	1.5																					
							知識情報演習Ⅰ	2																					
							知識情報演習Ⅱ	2																					
							知識情報演習Ⅲ	2																					
単位合計	10		30		0~8		25		32		0~8		16.5		0		0~12		0		0		0~12	51.5	62	12	125.5		

(平成20年度以降入学者対象)

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																																		
	専門科目					専門基礎科目						基礎科目								計			合計												
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	共通科目				関連科目				必修科目	選択科目		自由科目											
情報経営・図書館	卒業研究	6	GE 8	20	GE 4	0~8	情報基礎	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	32	GE 2	0~8	総合科目A	6	—	—	総合科目A	0~6	—	—	—	—	GE 以外(教職に関する科目は除く。)	0~12	51.5	62	12	125.5							
	専門英語Ⅲ	1			GE 6		情報基礎実習	1			GE 3		総合科目B	1																					
	専門英語Ⅳ	1			GE 7		情報リテラシ実習	1			GA		体育	2			体育	0~2																	
	情報経営・図書館実習	2			GE 8		プログラミング演習Ⅰ	2					第1外国語(英語)	4.5			外国語	0~6																	
							プログラミング演習Ⅱ	2	GE 2																										
							情報数学	2	GA									第2外国語	3			国語	0~2												
							統計	2														芸術	0~6												
							哲学	2																											
							知識情報特論	2																											
							知識情報演習Ⅰ	2																											
	知識情報演習Ⅱ	2																																	
	知識情報演習Ⅲ	2																																	
	単位合計	10		30		0~8		25			32		0~8		16.5		0		0~12		0		0		0~12	51.5	62	12	125.5						

- (注) 1. この表に掲げる単位数は、卒業に必要な最少の数値を表す。
 2. 同一の授業科目を重複して、他の科目欄の授業科目とすること又は同一の科目欄の他の授業科目とすることはできない。
 3. 各科目欄に掲げる記号及び番号は、授業科目番号で、当該記号及び番号で始まる授業科目のグループを表す。
 4. 「総合科目」、「体育」、「外国語」、「国語」及び「芸術」は、それぞれ当該授業科目として開設しているものの中から履修する。
 5. 編入学又は転入学を許可された者及び入学前又は入学後に他大学等において授業科目を履修し、又は学修を行った者で、他大学等において「総合科目」又は「第1外国語」に相当する科目を履修したものに係る当該授業科目の卒業に必要な修得単位数は、この表の規定にかかわらず、次のとおりとする。
 総合科目A及びB 6単位 第1外国語 4単位
 6. 外国人留学生及び外国において中等教育を受けた学生で、「第1外国語」として修得すべき単位を日本語・日本事情等に関する科目の単位数で振り替えることとされたものに係る「第1外国語」の卒業に必要な修得単位数は、この表の規定にかかわらず、4単位とする。
 7. 卒業研究の履修に当たっては、卒業に必要な履修科目の中から合計90単位以上修得している(卒業に必要な未修得単位数が35.5単位以下となっている)こと。

(平成19年度入学者対象)

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数																												
	専門科目					専門基礎科目					基礎科目							計			合計								
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	共通科目		関連科目					必修科目		単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	選択科目	自由科目
													区分	単位数		必修科目	単位数	自由科目	単位数										
必修科目														自由科目															
知識科学	卒業研究 (90単位以上を修得していること。)	GE 6	20	GE 4 GE 6 GE 7 GE 8	0~8	情報基礎	2	次に掲げるもののうちから学類長が指定する授業科目	32	GE 2 GE 3 GA	0~8	総合科目	A	6	0~6	第2外国語	3	—	—	GE 以外 外国語中級・上級 (教職に関する科目は除く。)	0~12	51.5	62	12	125.5				
						情報基礎実習	1						B	1	—														
						情報リテラシ実習	1						体育	2	0~2														
		専門英語Ⅲ	1	GE 4	8	GE 8	0~8					プロ'ラシ'演習Ⅰ	2	GE 2 GA	0~8	0~8	第1外国語	4.5	—	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5			
												プロ'ラシ'演習Ⅱ	2																
		専門英語Ⅳ	1	GE 7	8	GE 8	0~8					情報数学	2	GE 2 GA	0~8	0~8	13.5	0~6	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5				
												統計	2																
		知識科学実習	2	知識情報特論	2	GE 8	0~8					哲学	2	GE 2 GA	0~8	0~8	13.5	0~6	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5				
												知識情報概論	2																
												専門英語Ⅰ	1.5																
												専門英語Ⅱ	1.5																
												知識情報演習Ⅰ	2																
												知識情報演習Ⅱ	2																
	知識情報演習Ⅲ	2																											
単位合計	10	30	0~8	25	32	0~8	13.5	0~6	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5														
知識情報システム	卒業研究 (90単位以上を修得していること。)	GE 7	20	GE 4 GE 6 GE 7 GE 8	0~8	情報基礎	2	次に掲げるもののうちから学類長が指定する授業科目	32	GE 2 GE 3 GA	0~8	総合科目	A	6	0~6	第2外国語	3	—	—	GE 以外 外国語中級・上級 (教職に関する科目は除く。)	0~12	51.5	62	12	125.5				
						情報基礎実習	1						B	1	—														
						情報リテラシ実習	1						体育	2	0~2														
		専門英語Ⅲ	1	GE 4	8	GE 8	0~8					プロ'ラシ'演習Ⅰ	2	GE 2 GA	0~8	0~8	第1外国語	4.5	—	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5			
												プロ'ラシ'演習Ⅱ	2																
		専門英語Ⅳ	1	GE 6	8	GE 8	0~8					情報数学	2	GE 2 GA	0~8	0~8	13.5	0~6	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5				
												統計	2																
		知識情報システム実習	2	知識情報特論	2	GE 8	0~8					哲学	2	GE 2 GA	0~8	0~8	13.5	0~6	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5				
												知識情報概論	2																
												専門英語Ⅰ	1.5																
												専門英語Ⅱ	1.5																
												知識情報演習Ⅰ	2																
												知識情報演習Ⅱ	2																
	知識情報演習Ⅲ	2																											
単位合計	10	30	0~8	25	32	0~8	13.5	0~6	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5														

(平成19年度入学対象)

主専攻分野		卒業に必要な履修科目及び修得単位数																														
		専門科目					専門基礎科目						基礎科目						計			合計										
		必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	共通科目		関連科目				必修科目	単位数		選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	選択科目	自由科目			
														区分	単位数		必修科目	単位数	選択科目											単位数	自由科目	単位数
必修科目	自由科目																															
情報経営・図書館	卒業研究 (90単位以上を修得していること。)	6	GE 8	20	GE 4 GE 6 GE 7 GE 8	0~8	情報基礎	2	次に掲げるもののうちから学類長が指定する授業科目	32	GE 2 GE 3 GA	0~8	総合科目	A	6	0~6	第2外国語	3	—	—	GE以外 外国語中級・上級 (教職に関する科目は除く。)	0~12	51.5	62	12	125.5						
							B	1						—																		
							体育	2						0~2																		
							情報経営・図書館	1					GE 4 GE 6	8	GE 8	GE 8	GE 8	プログラム演習Ⅰ	2	GE 2 GA	0~8	0~8	第1外国語	4.5	—	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5
																		プログラム演習Ⅱ	2													
																		情報数学	2													
																		統計	2													
																		哲学	2													
																		知識情報概論	2													
																		専門英語Ⅰ	1.5													
																		専門英語Ⅱ	1.5													
																		知識情報演習Ⅰ	2													
																		知識情報演習Ⅱ	2													
																		知識情報演習Ⅲ	2													
																		単位合計	10													

- (注) 1. この表に掲げる単位数は、卒業に必要な最少の数値を表す。
 2. 同一の授業科目を重複して、他の科目欄の授業科目とすること又は同一の科目欄の他の授業科目とすることはできない。
 3. 各科目欄に掲げる記号及び番号は、授業科目番号で、当該記号及び番号で始まる授業科目のグループを表す。
 4. 「総合科目」、「体育」及び「第1外国語」は、共通科目として開設しているものから履修する。
 5. 編入学又は転入学を許可された者及び入学前又は入学後に他大学等において授業科目を履修し、又は学修を行った者で、他大学等において「総合科目」又は「第1外国語」に相当する科目を履修したものに係る当該授業科目の卒業に必要な修得単位数は、この表にかかわらず、次のとおりとする。
 総合科目A及びB 合計6単位 第1外国語 4単位
 6. 留学生及び外国において中等教育を受けた学生で、「第1外国語」として修得すべき単位を日本語・日本事情等に関する科目の単位数で振り替えることとされたものに係る「第1外国語」の卒業に必要な修得単位数は、この表の規定にかかわらず、4単位とする。

教科に関する科目

社会（情報学群 知識情報・図書館学類）

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数 高等学校			
社 会	日本史及び外国史	1 以上	日本史	(人文学類開設) 史学概論 I (知識情報・図書館学類開設) 日本図書学	
			外国史	(日本語・日本文化学類開設) 欧米の歴史と文化, 東洋の歴史と文化 (知識情報・図書館学類開設) 中国図書学, 図書館文化史論	
	地理学 (地誌を含む。)	1 以上	地理学	(地 学類開設) 人文地理学 (知識情報・図書館学類開設) 教育文化政策	
			地誌	(地 学類開設) 地誌学	
	「法律学, 政治学」	1 以上	「法律学, 政治学」	(知識情報・図書館学類開設) 情報法, 知的財産権論, 図書館情報法制度論	
「社会学, 経済学」	1 以上	「社会学, 経済学」	(知識情報・図書館学類開設) メディア社会学, 量的調査法, メディア社会文化論, 質的調査法, 知識形成論, 情報行動論, 情報経済論, 経営・組織論		
「哲学, 倫理学, 教 学」	1 以上	「哲学, 倫理学, 教学」	(知識情報・図書館学類開設) 哲学, 知識論		
合 計 (中学 1 種)		20			

- (注) 1. 教科に関する科目の欄中, () 内のものは必ず含めて修得しなければならない。
 2. 教科に関する科目の欄中, ○○及び○○とあるものは両科目修得しなければならない。
 3. 教科に関する科目の欄中, 「 」内のものは1科目以上にわたり修得すればよい。
 4. 本学における開設授業科目の欄中, の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

公民（情報学群 知識情報・図書館学類）

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数			
		高等学校			
公 民	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1 以上	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	(知識情報・図書館学類開設) 情報法, 知的財産権論, 図書館情報法制度論	
	「社会学, 経済学（国際経済を含む。）」	1 以上	「社会学, 経済学（国際経済を含む。）」	(知識情報・図書館学類開設) メディア社会学, 量的調査法, メディア社会文化論, 質的調査法, 知識形成論, 情報行動論, 情報経済論, 経営・組織論	
	「哲学, 倫理学, 教育学, 心理学」	1 以上	「哲学, 倫理学, 教育学, 心理学」	(知識情報・図書館学類開設) 哲学, 知識論, メディア教育と発達	
合 計 (高校 1 種)		20			

- (注) 1. 教科に関する科目の欄中, () 内のものは必ず含めて修得しなければならない。
 2. 教科に関する科目の欄中, 「 」内のものは2科目以上にわたり修得すればよい。
 3. 本学における開設授業科目の欄中, の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

数学（情報学群 知識情報・図書館学類）

免許教科	免許法に規定する科目			区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数				
		中学校	高等学校			
数 学	代数学	1 以上	1 以上	代数学	(知識情報・図書館学類開設) 基礎数学 , 情報数学	
	幾何学	1 以上	1 以上	幾何学	(情報メディア創成学類開設) 情報数学Ⅲ, G 基礎, インタラクティブ G (情報科学類開設) 計算幾何	
	解析学	1 以上	1 以上	解析学	(知識情報・図書館学類開設) 基礎数学 (情報科学類開設) 数値計算法, 解析学Ⅲ, 複素関数論	
	「確率論, 統計学」	1 以上	1 以上	「確率論, 統計学」	(知識情報・図書館学類開設) 統計, 多変量解析, データマイニング	
	コンピュータ	1 以上	1 以上	コンピュータ	(知識情報・図書館学類開設) データ構造とアルゴリズム, 知識情報演習Ⅲ	
合 計 (中学 1 種, 高校 1 種)		20	20			

- (注) 1. 教科に関する科目の欄中, 「 」のものは1科目以上にわたり修得すればよい。
 2. 本学における開設授業科目の欄中, の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

情報（情報学群 知識情報・図書館学類）

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数			
		高等学校			
情 報	情報社会及び情報倫理	1 以上	情報社会及び情報倫理	(情報学群開設) 情報社会と法制度, 知的財産概論	
	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	1 以上	コンピュータ及び情報処理	(知識情報・図書館学類開設) データ表現と処理, コンピュータシステムとネットワーク	
			コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) プログラミング演習 I	
	情報システム (実習を含む。)	1 以上	情報システム	(知識情報・図書館学類開設) 情報システム概説, データベース概説, 自然言語解析基礎	
			情報システム (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) 情報検索システム	
	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	1 以上	情報通信ネットワーク	(知識情報・図書館学類開設) グリッドコンピューティング	
情報通信ネットワーク (実習を含む。)			(知識情報・図書館学類開設) プログラミング		
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	1 以上	マルチメディア表現及び技術	(知識情報・図書館学類開設) マルチメディアシステム, デジタルドキュメント, 情報デザインとインタフェース		
		マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) プログラミング演習 II		
情報と職業	1 以上	情報と職業	(教職科目その他開設) 情報と職業 (知識情報・図書館学類開設) インターンシップ		
合 計 (高校 1 種)		20			

- (注)
1. 教科に関する科目の欄中, () のものは必ず含めて修得しなければならない。
 2. 教科に関する科目の欄中, ○○及び○とあるものは両科目修得しなければならない。
 3. 本学における開設授業科目の欄中, の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

大学において修得すべき図書館に関する科目

区分	図書館法施行規則に定める科目		本学における開設授業科目			備考
	科目	単位数	授業科目	単位数	開設学群・学類等	
甲群 必修 12科目・18単位	生涯学習概論	1	生涯学習と図書館	2	知識情報・図書館学類	
	図書館概論	2	図書館論	2		
	図書館経営論	1	経営・組織論	2		
	図書館サービス論	2	情報サービス経営論	2		
	情報サービス概説	2	情報探索論 情報サービス構成論	2 2		いずれか 1科目 選択
	レファレンスサービス演習	1	知識情報演習Ⅱ	2		
	情報検索演習	1	情報基礎実習	1		
	図書館資料論	2	コレクションとアクセス	2		
	専門資料論	1	学術メディア論	2		
	資料組織概説	2	知識資源組織化論	2		
	資料組織演習	2	知識情報演習Ⅰ	2		
	児童サービス論	1	メディア教育と発達	2		
乙群 選択 2科目・2単位以上	図書及び図書館史	1	図書館文化史論	2		
	資料特論	1	日本図書館学 中国図書館学 デジタルドキュメント	2 2 2	いずれか 1科目 選択	
	コミュニケーション論	1	知識形成論	2		
	情報機 論	1	情報基礎	2		
	図書館特論	1	デジタルライブラリ インターンシップ	2 2	いずれか 1科目 選択	

(備考) 1 図書館に関する科目として修得した単位は、各学群の履修細則の定めるところにより、卒業要件の単位として参入できます。

2 所定の単位を修得した者には、図書館に関する科目の「単位修得証明書」を発行します。卒業後に学務課成績管理・システム担当（大学本部棟2階）に申し込んでください。

司書資格の証明を求められた場合には、「単位修得証明書」と「卒業証明書」を提出してください。

大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目		本学における開設授業科目		
科目	単位数	授業科目	単位数	開設学群・学類等
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	知識情報・図書館学類
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	

(備考)

司書教諭講習に相当する科目として修得した単位は、各学群の履修細則の定めるところにより、卒業要件の単位として算入できます。

司書教諭の資格を取得するためには、司書教諭講習に相当する科目を全て修得した後に、学校図書館法第5条第3項の規定に基づく「学校図書館司書教諭講習」に、書類参加の手続きが必要です。手続方法については、掲示でお知らせします。

大学が単位を与える学修一覧

検 定 名	対象となる級等	認定対象科目
(財)日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定	1級・準1級	英語Ⅱ (1.5単位) ※注1
TOEFL ペーパー版テストの点数	550点以上	
コンピュータ版テスト	213点以上	
インターネット版TOEFL	79点以上	
TOEIC	730点以上	
(財)ドイツ語学文学振興会が実施するドイツ語技能検定	1級・2級・3級	ドイツ語G, L, P (1.5単位)
ゲーテ・インスティトゥートが実施する検定試験	基礎統一試験以上	ドイツ語G, L, P (1.5単位)
(財)フランス語教育振興協会が実施する実用フランス語技能検定	1級・準1級・2級・3級	フランス語Ⅰ-1~3 (1.5単位)
ロシア語検定試験実行委員会が実施するロシア語検定試験	第4・第3・第2・第1・基礎	ロシア語Ⅰ-1~3 (1.5単位)
(財)日本スペイン協会が実施するスペイン語技能検定	1級・2級・3級・4級・5級	スペイン語 (1.5単位)

- (注) 1 実用英語技能検定及びTOEFL又はTOEICは、いずれか1つの試験についてのみ認定する。
 2 この表に掲げるもののほか、専門基礎科目及び専門科目として認定する単位は、45時間の学修をもって換算する単位とする。
 3 共通科目等開設組織等において定める基準を最低の基準とし、それ以上の基準により各学類・専門学群において与えることができる単位を表す。
 4 ゲーテ・インスティトゥートが実施する検定試験の「基礎統一試験」以上の試験とは「職業ドイツ語検定試験」「ドイツ語中級統一試験」「国際ビジネスドイツ語検定試験」「ドイツ語上級統一試験」「ドイツ語小ディプロム試験」及び「ドイツ語大ディプロム試験」を表す。
 5 ロシア語検定における認定の基準は、検定試験結果の基礎レベル以上とする。
 (第4レベル、第3レベル、第2レベル、第1レベル及び基礎レベル)

MEMO

索 引

教員一覽

	氏名	職位	研究室	オフィスアワー	メールアドレス (ドメイン部省略)	担当科目	掲載頁	その他 (*学年主任)
1	いけうち あつし 池内 淳	准教授	413	火3限	atsushi@slis	フレッシュマン・セミナー 情報リテラン実習-4 公共経済学 情報サービス経営論	5 6 33 -	1-4担任
2	いしい ひろとよ 石井 啓豊	教授	315	水2限	ishii@slis	知識情報概論 システム思考とモデリング 知的探求の世界I-1	1 - 48	
3	いづか ひでひろ 石塚 英弘	教授	専攻長室	月7限(1・3学期) 木18:00-19:00(2学期)	ishizuka@slis	専門英語III-2,IV-2 デジタルドキュメント	- -	
4	いつむら ひろし 逸村 裕	教授	313	火16:45-18:15	hits@slis	情報基礎実習-1,-2 知識情報演習II-1 学術情報基盤論	4 16 -	2-1担任*
5	いわさわ まり子 岩澤 まり子	教授	304	月5限	miwasawa@slis	情報探索論 医療情報論	23 -	
6	うえまつ きだお 植松 貞夫	教授	3F 秘書室	月10:30-13:00	uematsu@slis	専門英語III-1,IV-1 図書館建築論	- -	
7	うだ のりひこ 宇陀 則彦	准教授	210	水2限	uda@slis	知識情報演習I-1 データベース概説 デジタルライブラリ	15 28 -	
8	おおさわ ふみと 大澤 文人	助教	115	火11:00-12:00	osawa@slis	情報メディアの活用 総合演習	42 -	
9	おおた かつや 太田 勝也	教授	509	火2限	ota@slis			
10	おおば いちろう 大庭 一郎	講師	113	水2限	iohba@slis	知識情報演習II-2 経営・組織論 学問と社会 情報サービス構成論 知的探求の世界I-6	16 32 38 - 53	
11	おの でら なつお 小野寺 夏生	教授	305	木AM	onodera@slis			
12	くろこ かず夫 黒古 一夫	教授	504	木3限(1・2学期) 木5・6限(3学期)	kuroko@slis	テキスト解釈-1 出版文化・書誌論	35 -	2-2担任
13	ごとう よしひろ 後藤 嘉宏	准教授	513	金2限	ygoto@slis	メディア社会学 メディア社会文化論	31 -	
14	かぐち てつお 阪口 哲男	准教授	312	火4限(1・2学期) 木5・6限(3学期)	saka@slis	プログラミング演習II-1,-2 知識情報演習I-2 コンピュータシステムとネットワーク Webプログラミング 知的探求の世界I-5	8 15 29 - 52	
15	さとう てつし 佐藤 哲司	教授	205	火5・6限	satoh@slis	フレッシュマン・セミナー 情報リテラン実習-1 学問と社会 テキスト処理	5 6 38 49	1-1担任*
16	さんなみ ちほみ 三波 千穂美	講師	302	月14:00-16:00	sannami@slis	サイエンスコミュニケーション	-	2-4担任
17	しずめ こうすけ 鎮目 浩輔	准教授	314	木3・4限(1学期) 水3限(2学期) 金3限(3学期)	shizume@slis	情報数学 ソフトコンピューティング 知的探求の世界 I-2	9 - 49	
18	しんぼ ふみお 新保 史生	准教授	407	火12:15-15:00	shimpo@slis	情報社会と法制度 情報法	11 -	
19	すずき かなえ 鈴木 佳苗	准教授	112	木4限	kanae@slis	読書と豊かな人間性 メディア教育と発達 社会体験実習	- - 47	
20	すずき のぶたか 鈴木 伸崇	講師	204	金6限	nsuzuki@slis	情報基礎 データ表現と処理	3 -	2-3担任
21	たにぐち しょういち 谷口 祥一	教授	303	火6限(1・3学期) 木6限(2学期)	taniguch@slis	知識情報演習I-1 知識資源組織化論 知識資源の記述	15 27 -	
22	たむら はじめ 田村 肇	准教授	311	水10:00-11:30	tamura@slis	多変量解析 情報経済論	22 -	
23	辻 けいた 辻 慶太	准教授	512	火12:00~13:00	keita@slis	知識情報演習II-2 知識情報演習III-2 知識資源の用語管理	16 17 -	
24	ときい まき 時井 真紀	講師	203	月6限(1学期) 火5・6限(2・3学期)	tmaki@slis	フレッシュマン・セミナー 情報リテラン実習-3 プログラミング演習I-1,2 情報デザインとインタフェース	5 6 7 -	1-3担任
25	としもり あし 歳森 敦	准教授	114	木9:30-11:30(1・3学期) 水9:30-11:30(2学期)	tosimori@slis	量的調査法 コミュニティ情報論	21 -	

教員一覽

	氏名	職位	研究室	オフィスアワー	メールアドレス (ドメイン部省略)	担当科目	掲載頁	その他 (*学年主任)
26	なかい ひさし 中井 央	准教授	309	月2限(1・2学期) 月3限(3学期)	nakai@slis	情報システム概説 ソフトウェア構成法	12 -	
27	ながた はるき 永田 治樹	教授	316	火5限	harung@slis			
28	なかやま しんいち 中山 伸一	教授	研究科長室	月4・5限(1・2学期) 月1・2限(3学期)	nakayama@slis	知識発見基礎論 知識構造化法	26 -	
29	はせがわ ひでひこ 長谷川 秀彦	教授	211	水16:00-17:00	hasegawa@slis	情報基礎実習-1,-2 統計-1,-2 データマイニング	4 10 -	
30	はせべ きげん 長谷部 紀元	教授	207	金5・6限	kh@slis	グリッドコンピューティング	-	
31	はら あつゆき 原 淳之	助教	406	火15:00-16:30		知識情報演習I-2 知識情報演習II-1,-2	15 16	
32	ひらくえ ゆうじ 平久江 祐司	准教授	404	月3限	hirakue@slis	学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書 学校教育と情報利用 社会体験実習	39 40 - 47	
33	ふじい あつし 藤井 敦	准教授	215	水10:30~11:45	fujii@slis	知識情報演習II-1 知識情報演習III-1 自然言語解析基礎 情報検索システム 知的探求の世界I-4	16 17 30 - 51	
34	まえしろ てつや 真栄城 哲也	准教授	409	火5・6限	maeshiro@slis	プログラミング演習II-1,2 計量情報学	8 -	
35	まつばやし まみこ 松林 麻実子	講師	111	金4・5限(1・3学期) 金13:00~15:00(2学期)	mamiko@slis	情報行動論 学術メディア論	25 -	
36	まつむら あつし 松村 敦	助教	212	火4限(1学期) 火5・6限(2学期) 金5限(3学期)	matsumur@slis	プログラミング演習I-1,2 情報サービスシステム	7 -	
37	まつもと こういち 松本 浩一	教授	301	火2限	matsuko@slis	テキスト解釈-2 中国図書学	36 -	
38	まつもと まこと 松本 紳	教授	202	金10:00-11:30又は16:45- 18:00(1学期) 火・水AM(2学期)	amy@slis	基礎数学A マルチメディアシステム 知的探求の世界I-3	13 - 50	
39	みづえ あえこ 溝上 智恵子	教授	学類長室	金3限	mizoue@slis	生涯学習と図書館-2 専門英語III-3, IV-3 教育文化政策	34 - -	学類長
40	みどりかわのぶゆき 緑川 信之	教授	306	随時	midorika@slis	知識情報演習III-1 知識資源組織化論 学問と社会 知識資源の分析	17 27 38 -	
41	みない ひでき 囊袋 秀樹	教授	310	金5限	himinai@slis	図書館論	-	
42	むしゃこうじ すみこ 武者小路 澄子	准教授	516	木5限	sumiko@slis	質的調査法 知識形成論	24 -	
43	むらい まいこ 村井 麻衣子	講師	506	火6限(1・3学期) 火4限(2学期)	myco@slis	知的財産概論 知的財産権論	20 -	
44	もりつぐ しゅういち 森継 修一	准教授	214	火18:00-19:30(1・2学期) 月17:30-19:30(3学期)	moritsug@slis	基礎数学B データ構造とアルゴリズム	14 44	
45	よこやま みきこ 横山 幹子	講師	405	木15:30-17:00	mikiko@slis	哲学 フレッシュマン・セミナー 情報リテラシ実習-2 知識論	2 5 6 -	1-2担任
46	よしだ ゆうこ 吉田 右子	准教授	116	水1限(1・2学期) 火1限(3学期)	yyoshida@slis	知識情報演習III-2 生涯学習と図書館-1 学校図書館メディアの構成 コレクションとアクセス	17 34 41 45	
47	わたぬき とよあき 綿抜 豊昭	教授	511	水2限(1・2学期) 水1限(3学期)	wata@slis	テキスト解釈-3 日本図書学	37 -	

索 引

科目名	頁
〔か行〕	
学問と社会:知識情報・図書館学類の最前線	38
学校経営と学校図書館	39
学校図書館メディアの構成	41
学習指導と学校図書館	40
基礎数学A	13
基礎数学B	14
経営・組織論	32
公共経済学	33
コレクションとアクセス	45
コンピュータシステムとネットワーク	29
〔さ行〕	
自然言語解析基礎	30
質的調査法	24
社会体験実習	47
生涯学習と図書館-1	34
生涯学習と図書館-2	34
情報メディアの活用	42
情報基礎	3
情報基礎実習-1	4
情報基礎実習-2	4
情報行動論	25
情報システム概説	12
情報社会と法制度	11
情報数学	9
情報探索論	23
情報リテラシ実習-1	6
情報リテラシ実習-2	6
情報リテラシ実習-3	6
情報リテラシ実習-4	6
専門英語I-1	18
専門英語I-2	18
専門英語II-1	19
専門英語II-2	19

科目名	頁
〔た行〕	
多変量解析	22
知的財産概論	20
知識資源組織化論	27
知識情報演習I-1	15
知識情報演習I-2	15
知識情報演習II-1	16
知識情報演習II-2	16
知識情報演習III-1	17
知識情報演習III-2	17
知識情報概論	1
知識発見基礎論	26
知的探求の世界I-1	48
知的探求の世界I-2	49
知的探求の世界I-3	50
知的探求の世界I-4	51
知的探求の世界I-5	52
知的探求の世界I-6	53
データベース概説	28
データ構造とアルゴリズム	44
テキスト処理	43
テキスト解釈-1	35
テキスト解釈-2	36
テキスト解釈-3	37
哲学	2
統計-1	10
統計-2	10
〔は行〕	
フレッシュマン・セミナー	5
プログラミング演習I-1	7
プログラミング演習I-2	7
プログラミング演習II-1	8
プログラミング演習II-2	8
〔ま行〕	
メディア社会学	31
〔ら行〕	
量的調査法	21